

同	四十一年一月十一日
同	九月廿二日
同	九月廿四日
同	十月十七日
同	十一月三日
同	十一月廿三日
同	十二月廿四日
同	十二月廿五日
同	一月七日
同	一月八日
同	一月三十日
同	二月十一日
同	三月廿一日

學年曆

(自明治四十年九月十一日至明治四十年九月十一日)

第一學期始

休業(本校開設紀念日)

同(秋季皇靈祭)

同(神嘗祭)

同(天長節)

同(新嘗祭)

第一學期終

冬期休業始

冬期休業終

第二學期始

休業(孝明天皇祭)

同(紀元節)

同(春季皇靈祭)

一學生々徒心得	五十三丁	一卒業生就職種別表	二百九丁
一教授要旨	五十四丁	一本科卒業生年齡三箇年比較表	二百十一丁
一獎學資金	七十九丁	一商品陳列所	二百十二丁
一出版物	八十二丁	一土地及建物	二百十五丁
一學生々徒現員	八十一丁	一明治四十年卒業式ニ於ケル演說祝詞等	二百十七丁
一學生々徒科別及年級表	百十七丁	一松崎校長挨拶	二百十七丁
一學生々徒年齡表	百十八丁	一牧野文部大臣祝詞	二百二十四丁
一學生々徒身體檢查統計表	百十九丁	專攻部卒業生總代謝辭	二百二十四丁
一學生々徒府縣別表	百二十三丁	本科卒業生總代謝辭	二百二十五丁
一專攻部並舊研究科卒業生及其就職ノ場所	百三十三丁	商業教員養成所卒業生總代謝辭	二百二十五丁
一本科卒業生及其就職ノ場所	百三十六丁	講師ラッド博士演說	二百二十六丁
一撰科畢業生、修業生及其就職ノ場所	百九十五丁	一商業教員養成所一覽	二百二十六丁
一舊附屬主計學校卒業生及其就職ノ場所	百九十六丁	一東京高等商業學校圖	二百二十六丁
一卒業生府縣別表	二百五丁		

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	九	七	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	三	一
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	卅	日
十	十一	十二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	一	日
日														
學	夏	夏	第三	第三	第三	春	春	春	休	第二	第二	第二	期	終
年	季	季	學	學	學	季	季	季	業	學	學	學	期	終
終	休	休	期	期	期	休	休	休	業	休	休	休	業	始
	業	業	終	終	終	業	業	業	終	業	業	業	終	始

東京高等商業學校一覽

沿革概略

本校ハ明治十八年九月二十二日ノ開設ニシテ東京外國語學校并ニ同校所屬高等商業學校ト舊農商務省直轄東京商業學校ト併セタルモノニ係レリ、初メ文部省ニ於ケテ明治十七年三月東京外國語學校中ニ其所屬トシテ高等商業學校ヲ創設セラレシカ翌十八年五月農商務省直轄東京商業學校ヲ文部省ノ管轄ニ移シ尋テ九月ニ至リ東京外國語學校并ニ其ノ所屬高等商業學校ニ併セテ更ニ東京商業學校ト稱シ舊東京外國語學校跡即チ神田區一橋通町一番地ノ校舎ニ就キテ開設ス。文部省御用掛森有禮校務ヲ監督シ舊東京商業學校長矢野次郎ヲ舉ケテ校長ニ任ス。實業學校ハ明治十八年八月森有禮ノ全權公使トナリ清國駐紮ノ命ヲ奉スルヤ校事ヲ舉ケテ東京會議所ニ附ス之レヨリ同所ノ管理ニ屬ス同九年六月木挽町十二丁目ニ移リ同府廳立下所ナル尙商法講習所ト稱シ矢野次郎ヲ以テ所長ニ任ス同十一月府廳規則ヲ選定セシム。澤榮一年益田孝府ニ於イエ經費ノ支出ヲ拒ミタルヲ以テ一時商法講習所ヲ廢セシモ同年九月ニ至リ府廳ハ農商務省ニ稟請シテ其補助ヲ得復ヒ之レヲ興ス舊ニ依リ矢野次郎ヲ以テ所長ニ任ス同十五年府下有志ノ商估金ヲ醵シテ本所維持ノ資ニ充ツ同十六年十月矢野次郎職ヲ辭シ東京府御用掛南貢助ヲ所長事務心得トス同十七年三月同所ヲ農商務省ノ直轄官立學校トナシ東京貢

更商業學校ニ第一校ト改稱シ農業銀行頭取瀧澤榮一日本銀行副總裁富田鐵之助三井物産會社社長河上謹一校長ヲ兼任ス同年六月農商務省河上謹一職ヲ辭シ矢野次郎復ヒ校長ニ任ス同年八月文部省ノ管轄ニ屬シ九月東京外國語學校并ニ其所屬高等商業學校ニ併セラル○同十九年一月本校教科ヲ分チテ高等部普通部語學部ノ三部トナス是月木挽町ナル舊校舍ニ就キテ新ニ商工徒弟講習所ヲ開設シテ本校ノ附屬トナス該所ハ商工ノ子弟ニ實地近易ノ學術ヲ授タル所ナリ二月高等部語學部ヲ廢ス、四月本校職制定マリ始メテ教頭幹事ヲ置ク、五月大藏省所屬銀行事務講習所ヲ文部省ノ管轄トナシ且之ヲ本校ニ屬ス因リテ銀行專修科ト改稱シ舊則ニ從ヒテ專ラ銀行ノ業務ヲ教授ス、六月其校舍ノ神田錦町一丁目ニ在ルモノヲ本校内ニ移ス、七月本校及附屬商工徒弟講習所同銀行專修科ノ規則ヲ改定シ九月之ヲ施行ス其大要、本校教科ハ尋常高等ノ二科ニ分チ課程ハ尋常科三年高等科二年通シテ五年ヲ以テ業ヲ卒フル者トス、商工徒弟講習所教科ハ職工科別科、夜學科ノ三科ニ分チ其課程ハ職工科三年別科二年ナリ而シテ夜學科ハ當時未タ之ヲ定メス又銀行專修科ハ其課程ヲ二年ニ定ム○同二十年三月本校規則ヲ改正シ次學期ノ始ヨリ之ヲ實施スルコト、シ尋常科高等科ノ稱ヲ廢シテ豫科本科ヲ置キ其修學年限ハ豫科

ヲ一年本科ヲ四年トシ且ツ其程度ヲシテ稍高尙ナラシム、六月附屬銀行專修科ヲ主計專修科ト改稱シ官廳及銀行會社等ノ會計事務ニ須要ノ學術及實務ヲ教授スル所トナシ因リテ其教則ヲ定メ、九月改定規則ヲ實行ス、十月本校ヲ高等商業學校ト改稱ス○同二十一年三月本校々長職務規程ヲ定メラル、四月研究規則ヲ修正シ其研究年限ヲ二箇年ト爲ス、八月伊太利語ノ一科ヲ試設ス○同二十二年三月本校及附屬科ノ規則ヲ改正シ本科ノ修業年限ヲ三年トナシ附屬主計專修科ヲ主計學校ト改稱ス、同月卒業證書授與ノ正式ヲ執行シ商法講習所創立以來二十一年七月ニ至ル本校卒業生百十八名及ヒ銀行事務講習所引繼以降主計專修科ニ至ルマテノ卒業生五十五名ニ卒業證書ヲ授與ス、十月附屬商工徒弟講習所別科ヲ分離シテ本校補充科トナス○同二十三年一月附屬商工徒弟講習所ヲ職工徒弟講習所トナシ本校ヨリ分離シテ東京職工學校ニ移ス、七月閣議本校々舍ノ改築ヲ決定シ其費用ハ二十二年度ヨリ二十七年度マテ繼續費トシテ支出スルコト、爲シ同年之カ工事ニ着手ス、十月更ニ本校官制ヲ定メラレ教頭ノ職ヲ廢シ教諭ヲ教授トシ教諭ヲ助教授ト爲シ各其員數ヲ定メラル○同二十四年七月本校規則ヲ改正シ補

充科ヲ廢シテ豫科二年本科三年ノ教程トシ學科ヲ增設シ程度ヲ高尚ニス同月附屬主計學校規則モ亦改正ヲ加ヘ稍ニ其程度ヲ高メタリ八月官制ノ改正アリテ幹事ノ職ヲ廢ス十二月改正官制ニ據リテ商議委員規程ヲ改定セラル〇同二十五年一月教務委員規程ヲ定メ委員三名ヲ置ク四月本校官制ニ據リ更ニ商議委員七名ヲ置ク十一月第二回卒業證書授與式ヲ舉ケ明治二十三年以後ノ本科卒業生百五十六名及同二十二年以後ノ附屬主計學校卒業生百二十五名ニ卒業證書ヲ授與ス〇同二十六年四月校長矢野次郎職ヲ辭シ法科大學教授法學博士和田垣謙三臨時校長事務取扱ヲ命セラル六月文部省參事官由布武三郎校長ニ任シ和田垣謙三ノ事務取扱ヲ免セラル七月商議委員ノ更迭増員アリ八月官制ヲ改正セラル同月規則ヲ改正シ從來豫科二年ナリシヲ一年トシ各尋常中學科卒業生ノ優等者ハ試験ヲ要セス各地商業學校ノ優等卒業生ハ若干ノ普通學科ヲ試験シ俱ニ豫科ニ入學ヲ許スコト、シ又學科ノ如キ其一二ヲ併合シ第二外國語中ニ露語ヲ加設シ且授業時間ニ増減ヲ加ヘタリ九月改正規則ヲ施行ス同月附屬主計學校ヲ廢止セラル十一月第三回卒業證書授與式ヲ舉行シ本年七月卒業ノ本科生三十七名主計生三

十名ニ本證書ヲ授與ス以後卒業式ハ毎年七月舉行スルコトニ定ム〇同廿七年六月入學規程ヲ追加シ尋常中學科卒業生ニシテ無試験入學ヲ許シ難キ者ノ入學試験方法ヲ定ム十二月第二外國語中ニ朝鮮語ヲ加フ〇同廿八年七月教務委員規程ヲ廢ス八月校長由布武三郎文部省參事官ニ任シ文部大臣秘書官小山健三校長ニ任セラル〇同廿九年八月規則ニ改正ヲ加フ其要豫科ニ於イテ博物圖畫ノ二科ヲ廢シ更ニ第二外國語科ヲ加ヘ物理化學ハ應用ヲ主トシ倫理ハ專ラ商業道德ヲ講說スルコト、ナシ本科ニ在テハ從來單一ノ科目ナリシ法律ノ科ヲ民法商法國際法ノ三科ニ分チ經濟及統計ノ科ヲ經濟學、統計學、財政學ノ三科ニ分チ商業要項及實踐ノ科ヲ商業學、商業實踐ノ二科ニ分チ機械工學科ヲ新設シ商業地理并ニ歴史ハ改メテ商工地理商工歷史トナセリ又入學規程中尋常中學卒業者特別試験入學ノ項ヲ廢シ商業學校卒業生ノ入學試験方法ヲ改メ又豫科ニ入學ヲ許シタル後其優等者ハ直チニ試験ヲ行ヒ本科ニ進ムルヲ得ヘキ條規ヲ廢止シ尙ホ他ノ條項ニ多少ノ修正ヲ加ヘ九月ヨリ之ヲ實施セリ〇同三十年四月附屬外國語學校ヲ附設セラル同月文部省直轄諸學校官制改正ニ依リ附屬外國語學校ニ主事ヲ置クヲ得

同月文部省直轄諸學校職員定員中改正ニ依リ本校教授ノ増員及附屬外國語學校ノ職員ヲ定メラル、四月六月九月及十一月ニ於イテ商議委員ノ交迭アリ、六月研究科規程ヲ廢シ專攻部規程ヲ設ケ九月ヨリ之ヲ實施セリ、七月附屬外國語學校規則ヲ制定シ九月ヨリ施行セリ、其要ハ先ツ英、佛、獨、露、西班牙、清、朝鮮ノ七語ヲ設ク生徒ヲ正科生及特別生ノ二種ニ區別シ正科生ノ修學年限ハ三箇年トシ特別生ハ三箇年以内トス、十一月本校規程中試験進級及卒業規程ヲ改正ス○同三十一年五月校長小山健三文部次官ニ任シ本校教授神田乃武校長心得ヲ命セラル、六月東京帝國大學書記官清水彦五郎校長ニ任シ神田乃武ノ校長心得ヲ免セラル、八月校長清水彦五郎職ヲ辭シ文部省實業教育局長手島精一校長事務取扱ヲ命セラル、十月附屬外國語學校規則中ヲ改正シ始テ副科規程ヲ設ク、同月手島精一ノ校長事務取扱ヲ免シ文部省高等學務局長高田早苗校長事務取扱ヲ命セラル、十一月商議委員ニ減員アリ、同月高田早苗ノ校長事務取扱ヲ免シ文部省普通學務局長澤柳政太郎校長事務取扱ヲ命セラル○同三十二年三月澤柳政太郎ノ校長事務取扱ヲ免シ大藏省參事官駒井重格校長ニ任セラル、同月圖書貸付及閱覽規程中ヲ改正ス、四月附屬外

國語學校ヲ東京外國語學校ト改稱セラレ本校ト分離ス、七月學科課程ヲ改正シ九月ヨリ之ヲ實施ス、是時專攻部修學年限ヲ二箇年トス、十月規則ニ改正ヲ加フ○同三十三年三月職員定員ヲ增加セラル○同三十四年四月職員定員ヲ增加セラル、五月商議委員ニ減員アリ、六月專攻部規程中ヲ改正ス、十二月校長駒井重格卒去シ文部省參事官寺田勇吉校長事務取扱ヲ命セラル○同三十五年二月文部書記官兼文部省參事官文部省視學官寺田勇吉校長ニ任セラル、四月本校ヲ東京高等商業學校ト改稱セラル、同月本校ニ商業教員養成所ヲ附設セラル、同月職員定員ヲ增加セラル、八月校長寺田勇吉休職仰付ラレ東京帝國大學法科大學教授法學博士松崎藏之助校長ニ兼任セラル、九月法學博士松崎藏之助校長兼東京帝國大學法科大學教授ニ任セラル、十一月試験進級、卒業規程及專攻部學科課程ヲ改正ス、○同三十六年二月專攻部規程第六條ニ但書ヲ加フ、五月規則中入學ニ關スル規程ニ改正ヲ加フ、十月規則中學科課程ヲ改正セラル、十二月職員定員ヲ減セラル○同三十七年十二月規則中入學資格ニ關スル條項ヲ改正ス○同三十八年一月授業料規程中ヲ改正ス、三月職員定員ヲ增加セラル○同三十九年十二月專攻部規程中ヲ改正ス○四十年

一月專攻部規程中ヲ改正ス
部神ニ月入高等商得ル學コト卒業ナ生レノリ、二月試験進級及卒業規

程三改正之

勅令第八十六號

文部省直轄諸學校官制(本校ニ關スル分拔抄)

第一條 文部省面轉諺學様八方ノ如ニ

東京高等師範學校、廣島高等師範學校、女子高等師範學校、盛岡高等農林學校、東京高等商業學校、神戶高等商業學校、長崎高等商業學校、第一高等學校、第二高等學校、第三高等學校、第四高等學校、第五高等學校、第六高等學校、第七高等學校、造士館、山口高等商業學校、千葉醫學專門學校、仙臺醫學專門學校、岡山醫學專門學校、金澤醫學專門學校、長崎醫學專門學校、東京高等工業學校、大阪高等工業學校、京都高等工業學校、名古屋高等工業學校、熊本高等工業學校、仙臺高等工業學校、東京外國語學校、東京美術學校、東京音樂學校、東京盲啞學校、

第六條 東京高等商業學校ニ商業効員養成所ニ附設之
校長 教授 生徒監 助教授 書記

第七條 校長ハ勅任又ハ奏任トス文部大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第九條 生徒監ハ奏任教官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

第十條 書記ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス
第十七條 専任教官中其ノ學校所設ノ某學科ヲ擔任スヘキ者ヲ得サル場合ニ於

官制官等俸給令及職員定員令

テハ兼任教官ヲ置キ若クハ學校長ニ於テ特ニ文部大臣ノ許可ヲ得テ臨時ニ講師ヲ嘱託シ其ノ學科ノ授業ヲ擔任セシムルコトヲ得

第十八條 文部大臣ハ高等師範學校、女子高等師範學校、東京高等商業學校、高等學校及東京高等工業學校教官ノ中ヨリ各其附屬學校主事教員養成所主事東京教育博物館主事附屬幼稚園主事專門學部主事ヲ命シ其事務ヲ掌ラシムルコトヲ得

第十九條 文部大臣ハ校務上ノ須要ニ依リ學校ニ商議委員會ヲ設クルコトアルヘシ其ノ委員ハ文部大臣之ヲ命ス

勅令第百十九號(明治三十二年四月四日) 八號ヲ以テ條項改正明治四十年勅令第二四

文部省直轄諸學校高等官官等俸給令(拔抄)

第一條 文部省直轄諸學校長ハ高等官二等以下六等以上トス

第二條 文部省直轄諸學校教官ハ高等官三等以下トス

文部省直轄諸學校教官ニシテ五箇年以上高等官三等ニ在リテ特ニ功勞アル者ハ二十七人ヲ限リ高等官二等ニ陞叙セラルルコトアルヘシ

但シ各校二人ヲ超ユルコトヲ得ス

第四條 文部省直轄諸學校高等官ノ年俸ハ別表ニ依ル(別表略ス)

第五條 文部省直轄諸學校教官ハ其ノ授業ノ時間及學科ノ難易輕重ニ依リ最底額以下ノ年俸ヲ給スルコトアルヘシ

第六條 文部省直轄諸學校教官ニシテ一校若クハ數校ノ教官ヲ兼任スル者ニハ本官並兼任ニ於ケル授業ノ時間及學科ノ難易輕重ニ應シ其ノ本官ノ俸額ヲ分割シテ各學校ヨリ支給スルコトヲ得

第七條 文部省直轄諸學校官制第十五條ニ依リ某學科ノ授業ヲ擔任スル嘱託講師ニハ教官俸給額ノ内ヨリ相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得

勅令第九十九號(明治三十五年三月二十七日) 十八年勅令第三十六年勅令第二百三十一號ヲ以テ條項中改正

文部省直轄諸學校職員定員令(拔抄)

校長
教授

東京高等商業學校

一人
三十一人

助教授

書記

十四人
九人

勅令第六十一號(明治三十六年三月二十六日)

専門學校令(拔抄)

第一條 高等ノ學術技藝ヲ教授スル學校ハ専門學校トス
専門學校ハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外本令ノ規定ニ依ルヘシ

第五條 專門學校ノ入學資格ハ中學校若ハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ヲ
卒業シタル者又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者ト検定セラレタル者以上ノ程度
ニ於テ之ヲ定ムヘシ(但書略ス)

前項検定ニ關スル規定ハ文部大臣之ヲ定ム

第六條 專門學校ノ修業年限ハ三箇年以上トス

第七條 專門學校ニ於テハ豫科研究科及別科ヲ置クトヲ得

第八條 官立専門學校ノ修業年限、學科、學科目及其ノ程度並豫科研究科及別科ニ
關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

勅令第二十九號(明治三十二年二月六日)明治三十五年六月勅令第六二號ヲ以テ條項改正三十

實業學校令(拔抄)

第一條 實業學校ハ工業、農業、商業等ノ實業ニ從事スル者ニ須要ナル教育ヲ爲ス
ヲ以テ目的トス

第二條 實業學校ノ種類ハ工業學校、農業學校、商業學校、商船學校及實業補習學校
トス(以下略ス)

第二條ノ二 實業學校ニシテハ専門學校令ノ定ムル所ニ依ル

實業專門學校ニシテハ専門學校令ノ定ムル所ニ依ル

第三條 北海道及府縣ニ於テハ實業學校ヲ設置スルコトヲ得但シ道府縣立實業
補習學校ハ他ノ道府縣立學校ニ附設スル場合ニ限ル

文部大臣ハ土地ノ情況ニ應シ必要ナル實業學校ノ設置ヲ北海道又ハ府縣ニ命
スルコトヲ得

文部省直轄實業專門學校委託生規程(明治四十年七月二十五日文部省令第二十三號)

第一條 北海道府縣郡市町村其他ノ公共團体及私人ハ文部省直轄實業專門學校

官制官等俸給令及職員定員令

生徒ニシテ卒業後其公共團体又ハ私人ノ設置セル實業學校ノ教職ニ從事スヘキ者ニ學資ヲ補給シ委託生トシテ在學セシムルコトヲ得

第二條 公共團體又ハ私人ハ委託生ノ選定ヲ當該學校長ニ委嘱スルコトヲ得

第三條 公共團體又ハ私人ヨリ委託生ニ補給スヘキ學資ハ一箇月十圓以上トス

第四條 委託生ニハ授業料ヲ徵收セス

第五條 委託生ハ卒業ノ日ヨリ學資ノ補給ヲ受ケタル期間ニ一箇年ヲ加ヘタル期間當該公共團體又ハ私人ノ設置セル實業學校ノ教職ニ從事スヘキ義務ヲ有ス

第六條 委託生ニシテ在學中半途退學シ又ハ委託生タルコトヲ止ムルトキ若ハ卒業後左ノ各號ノ一二該當スルトキハ其補給ヲ受ケタル學資ヲ當該公共團體又ハ私人ニ償還スヘシ但シ當該公共團體又ハ私人ニ於テ酌量スヘキ情狀アリト認メタルトキハ其全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトヲ得

一、前條ノ義務ヲ盡サルトキ

二、懲戒免職ニ處セラレタルトキ

三、免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケタルトキ

第七條 學校長ハ本令ニ關シ必要ナル細則ヲ設クルコトヲ得

帝國大學及文部省直轄諸學校雇外國人使用方

勅令第九十六號(明治二十六年九月)

帝國大學及文部省直轄諸學校ニ於テ學科教授ノ必要アルトキハ帝國大學總長及直轄諸學校長ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ雇外國人ヲシテ教官ノ職務ニ當ラシムルコトヲ得

商議委員會規程(明治二十四年十二月二十六日)

第一條 文部省直轄諸學校官制第十七條(現第十二條)依リ高等商業學校ニ商議委員會ヲ置ク

第二條 商議委員ハ左ノ人員ヲ以テ之ニ充ツ

文部省又ハ其所屬高等官 二名

農商務省高等官 二名

商工業ノ經歷アル者 二名

第三條 商議委員會ハ學科課程重要ノ諸規則其他學校長ニ於テ必要ト認ムル事項ヲ審議スルモノトス

第四條 商議委員會ハ文部大臣ノ諮問アルトキハ意見ヲ陳述スヘシ

第五條 商議委員會ノ會議ハ學校長之ヲ開キ其議案ヲ提出スルモノトス

但商議委員ノ意見アルトキハ之ヲ議案トナスコトヲ得

第六條 商議委員會ノ議事ニ關スル規程ハ委員會ニ於テ之ヲ議定スルコトヲ得

第七條 商議委員會ノ決議ハ學校長ヨリ文部大臣ニ報告スヘシ

教授會規程(明治三十六年十二月十八日制定)

第一條 教授會ハ學校長ノ諮詢ニ應シテ教務ニ關スル事項ヲ審議スルモノトス

第二條 會員ハ教授ヲ以テ之ニ充ツ但シ學校長ニ於テ必要ト認ムルトキハ會員以外ノ教員ヲシテ教授會ニ列席セシムルコトアルヘシ

第三條 校長ハ教授會ヲ召集シ其ノ議長トナル學校長事故アルトキハ上席教授之ニ代ル

第四條 議案ハ學校長之ヲ提出ス

商議委員 (就職願)	
株式會社第一銀行頭取	男爵 澄澤 荣一
三井家同族會管理部專務理事	益田 孝吉
株式會社十五銀行頭取	園田 孝吉
明治生命保險株式會社專務取締役	阿部 泰藏
東京帝國大學農科大學教授	和田 恒謙
日本郵船株式會社長	近藤 廉平

職員

校長

兼東京帝國大學法科大學教授

法學博士 法學士 松崎藏之 助手 千葉縣

學習院教授マスター、オフ、アーツ(アムハースト大學)

バチエラ、オフ、アーツ(デボード大學)

高島捨太

士東京府

花輪虎太郎

平東京民

教授

語學教授マスター、オフ、アーツ(アムハースト大學)

武東京族

英語

理學士 奈佐忠行	平靜岡縣
法學博士法學士 志田鉗太郎	千葉縣
東京帝國大學法科大學教授 マスター、オフ、アーツ(アムハースト大學)	三平東京府
久米桂一郎	士佐賀縣
佐野善作	東京府
長谷川方文	山口族縣
下野直太郎	一平東京府
石川文吾	平岐阜縣
瀧本美夫	東京府
鹿野清次郎	平東京府
法學博士法學士 中村進	平和歌山縣
足立忠八郎	北海道廳
星野太郎	平長崎縣
法學士乾政	平鹿兒島縣
商學士堀口光	平佐賀縣
商學士上田貞次郎	平長崎縣
工學士木村恵吉郎	平鹿兒島縣
アーネスト・オーフ、アーツ(ケンタリッヂ大學)	英國人
リヒャルド・ハイゼ	英國人
マスター、オフ、アーツ(ケンタリッヂ大學)	英國人
リサーンシエー、アン・シャンス、ゴムメルシャール (アントヴェルブ高等商業學校)	白國人
エドワード・ジョセフ・プロックホイス	英國人
バシリエー、エス、レットル (アカデミー、パリー)	英國人

外國留學中

英獨佛商業實踐術語語	英獨國業濟業	英清商私簿商經	英獨國業濟業	英獨佛商業實踐術語語
マスター、オフ、アーツ(ケンタリッヂ大學)	山口	足立忠八郎	太士神奈川族縣	アーネスト・オーフ、アーツ(ケンタリッヂ大學)
リサーンシエー、アン・シャンス、ゴムメルシャール (アントヴェルブ高等商業學校)	星野太郎	彦士奈良族縣	エドワード・ジョセフ・プロックホイス	リヒャルド・ハイゼ
バシリエー、エス、レットル (アカデミー、パリー)	法學士乾政	士靜岡族縣	白國人	マスター、オフ、アーツ(ケンタリッヂ大學)
アーネスト・オーフ、アーツ(ケンタリッヂ大學)	商學士堀口光	龜平長崎族縣	英國人	英國人
リヒャルド・ハイゼ	工學士上田貞次郎	士東京族縣	英國人	英國人
マスター、オフ、アーツ(ケンタリッヂ大學)	工學士木村恵吉郎	士東京族縣	英國人	英國人
アーネスト・オーフ、アーツ(ケンタリッヂ大學)	アーネスト・オーフ、アーツ(ケンタリッヂ大學)	アーネスト・オーフ、アーツ(ケンタリッヂ大學)	英國人	英國人

佛語	パシニエー、エス・レットル(ローラン大學)
西班牙語	エイチ、エル、フードル 瑞國人
英語	チエザレー、ノルサ伊國人
財政學	イー、ビールース 英國人
經濟學	ドクトル、オフ、フィロソフィー(ハーヴァード大學) オー、エム、タブリュー、スブレーク米國人
商業學	ドクトル、オフ、ロース ジョージ、トランブル、ラッド米國人
露英商清	カンダダート、キストリー
講師(就職順)	アレキサンダー、ベトロフ露國人
松本安藏	ヘンリー、エフ、ブレー英國人
渡邊小三郎	リサンシェー、アン、シアンス、ゴムメルシャール(アントヴェルプ高等商業學校) 法學博士 村瀬春雄
佐山口	東京帝國大學文科大學教授 文學博士 中島力造
佐賀族	會計檢查院長 バチニアード、オフ、アーツ(エール大學) 法學博士 子爵田尻稻次郎
大阪府	東京帝國大學法科大學教授 法學博士 松波仁一郎
熊本縣	農學博士農學士 横井時敬
千葉縣	法學博士法學士 加藤正治
大阪府	法學博士法學士 安達峰一郎
鹿兒島縣	法學博士法學士 田中美也
東京府	工學士田中不二郎
東京府	農學士藤本幸太郎
東京府	黑田清寧
東京府	岡本正一郎
東京府	工學士田中不二郎
東京府	法學博士法學士 黒田清寧
東京府	文士今井精一郎
東京府	文士今井精一郎

日本商工史	日本商工史	經濟學	經濟學	商業學	商業學	法學	法學	法律	陸軍教授
東京美術學校教授	東京帝國大學法科大學教授	東京帝國大學工科大學助教授	東京帝國大學農科大學教授	東京帝國大學法科大學教授	東京帝國大學法科大學教授	公使館一等書記官	內務省警保局長	陸軍教授	陸軍教授
東京帝國大學法科大學教授	東京帝國大學工科大學助教授	東京帝國大學農科大學教授	東京帝國大學法科大學教授	東京帝國大學法科大學教授	東京帝國大學法科大學教授	公使館一等書記官	內務省警保局長	陸軍教授	陸軍教授
法學博士法學士	法學博士法學士	農學博士農學士	農學博士農學士	法學博士法學士	法學博士法學士	法律學士	法律學士	樋口艶之助	樋口艶之助
加藤正一郎	加藤正一郎	横井時敬	横井時敬	松波仁一郎	松波仁一郎	古賀廉造	古賀廉造	平宮城	平宮城
佐賀族	佐賀族	千葉縣	千葉縣	佐賀族	佐賀族	佐賀族	佐賀族	佐賀族	佐賀族
大阪府	大阪府	大阪府	大阪府	大阪府	大阪府	佐賀族	佐賀族	佐賀族	佐賀族
熊本縣	熊本縣	熊本縣	熊本縣	熊本縣	熊本縣	熊本縣	熊本縣	熊本縣	熊本縣
鹿兒島縣	鹿兒島縣	鹿兒島縣	鹿兒島縣	鹿兒島縣	鹿兒島縣	鹿兒島縣	鹿兒島縣	鹿兒島縣	鹿兒島縣
東京府	東京府	東京府	東京府	東京府	東京府	東京府	東京府	東京府	東京府
東京府	東京府	東京府	東京府	東京府	東京府	東京府	東京府	東京府	東京府

商教簿
業育記
學文學

大藏書多事官兼大藏書記官

商學士茂木英雄
文學士守屋恒三郎
文學士野中清平
北海道民
京都府民

劍術教師
柔道教師
衛生監督

陸軍一等軍醫
教授

山田治郎吉千葉縣
平重縣新潟縣
三族士平士

獵體書數專攻部研究室輔助

村	林	建	藏	東京府
長	谷	川	稻	橋
稻	川	福	橋	東京府
關	口	春	平	東京府
益	文	藏	平	東京民府
福	藏	平	東京民府	東京民府

委員會事務員

專攻部研究室委員
圖書館委員
商品陳列所委員
商品陳列所委員
圖書館主幹
會計課主任
學生課主任
庶務課主任

書 教 教 教 教 教 教 教 教 教
書 教 教 教 教 教 教 教 教 教
記 授 授 授 授 授 授 授 授 授

職員

圖書係	書記	西村正立	東京族府
會計課兼商品陳列所係	書記	浦岡邦幸	吉東京族府
圖書係	書記	鈴木善吉	士東京族府
庶務課	書記	平尾直登	福岡族縣府
商品陳列所係	囑託	饭塚忠遠	士群馬族縣府

規則

第一章 總則

- 第一條 本校ハ商業上必要ナル高等ノ教育ヲナス所トス
 第二條 本校修學年限ハ本科ヲ三箇年トシ豫科ヲ一箇年トス
 第三條 本校ニ專攻部及商業教員養成所ヲ置ク其規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第二章 學級及學科課程

第四條 豫科本科各一年ヲ以テ一學級トシ其學科課程ハ別表ノ定ムル所ニ依ル
 第五條 豫科及本科學科ノ内外國語ハ英語ノ外尚清、佛朗西、日耳曼、西班牙、伊太利、露西亞、韓ノ七國語ニ就キ一語ヲ撰修セシムルモノトス
 但シ某國語ノ志望者僅少ナルトキハ其國語ヲ設ケス更ニ他ノ國語ヲ擇ハシムルコトアルヘシ

豫科學科課程表

科	學	年	每週時間	年
一	商業道德	一		
二	書法	一		
三	文學	一		
四	數學	一		
五	簿記	一		
六	應用物理學	一		

本科學課程表

二十九

一一

一八	商業學	二
一九	商業實踐	
二〇	體操	
	時間合計	
	三二	三
	三三	二
	三四	五

第三章 學年、學期、休業規程

第六條 學年ハ九月十一日ニ始マリ翌年九月十日ニ終ル

第七條 學年中ニ三學期ヲ設ク第一學期ハ九月十一日ヨリ十二月二十四日ニ至リ第二學期ハ翌年一月八日ヨリ三月三十一日ニ至リ第三學期ハ四月八日ヨリ七月十日ニ至ル

第八條 年中休業左ノ如シ

一 每日曜

一 秋季皇靈祭

一 神嘗祭

一 天長節

一 新嘗祭	
一 孝明天皇祭	
一 紀元節	
一 春季皇靈祭	同月一日ニ至ル
一 神武天皇祭	四月一日ニ至ル
一 春季休業	七月一日ニ至ル
一 夏季休業	九月十日ニ至ル
一 紀念日（本校開設）	九月二十二日
一 冬季休業	十二月二十五日ヨリ 一月七日ニ至ル

第四章 入學、在學、退學規程

第九條 入學期ハ每學年ノ始トス

第十條 豊科ニ入學スルコトヲ得ルモノハ年齢滿十七歳以上、身體壯健、品行方正ニシテ左ノ各號ノ一二該當シ入學試験ニ合格シタル者タルヘシ

一、中學校ヲ卒業シタル者

二、専門學校入學者検定規程ニ依リ検定ニ合格シタル者

三、甲種商業學校ヲ卒業シタル者

第十一條 入學試験ノ學科目ハ國語漢文、書法、作文、數學、地理、歷史、圖畫、物理、化學、博物、英語トシ中學校卒業ノ程度ニ依リ之ヲ行フ
前項學科目ハ時宜ニ依リ文部大臣ノ許可ヲ經テ其ノ一科目又ハ數科目ノ試験ヲ省略スルコトアルヘシ

第十二條 高等學校大學豫科ヲ卒業シタル者及中學校卒業生若ハ専門學校入學ニ關シ無試験検定ヲ受クルコトヲ得ル者ニシテ學習院高等學科ヲ卒業シタル者ハ試験ヲ要セス本科第一年級へ入學ヲ許スコトアルヘシ

第十三條 入學志願者ハ第一號及第二號ノ書式ニ倣ヒ入學願書並學業履歷書ヲ差出スヘシ

第十四條 第十條ニ依リ入學試験ヲ受ケント欲スル者ハ金參圓ヲ試験料トシテ入學願書ニ添ヘ納付スヘシ

第十二條ニ依リ入學ヲ許可シタル者ハ金壹圓五拾錢ヲ入學料トシテ納付スヘ

但シ本條ニ依リ一旦收納シタルモノハ入學願ヲ取消スコトアルモ之ヲ返付セス

第十五條 願ニ依リ一旦退學セシ者再入學ヲ請フトキハ詮議ノ上入學ノ期ニ於テ原級以下ノ級ニ編入スルコトアルヘシ

第十六條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ保證人二名ヲ立テ其年九月十日マテニ第三號書式ノ誓書ヲ本校へ提出スヘシ

第十七條 保證人ハ俱ニ丁年以上ノ男子ニシテ東京市内ニ於テ一家ヲ立テ學生生徒ノ身分ニ關シ一切引受クルニ足ルヘキ關係及相應ノ資產ヲ有スル者ニ限ル

第十八條 保證人死去若ハ東京市外ニ轉住スル事等アルトキハ速ニ二代保證人ヲ立テ證書ヲ出サシムヘシ又保證人旅行スル事アルトキハ直ニ之レカ代理ヲ立

テ其旨届出ツヘキハ勿論轉居或ハ改印等ヲナシタルトキモ亦速カニ届出ツヘシ
第十九條 學生々徒校規ニ悖戾シ若ハ不行狀甚シキ者ハ退學ヲ命スヘシ

第二十條 數々遲刻闕課シ出席常ナラナル者又ハ引續キ三箇月以上闕課スル者

ハ除名スヘシ

第二十一條 二學年引續キ及第セナル者ハ除名スヘシ

第二十二條 本規程中入學、退學及除名ニ關シテハ學業ノ成績平素ノ行狀及事故ノ如何ヲ參照シ特別ノ處分ヲ爲スコトアルヘシ

第二十三條 學生生徒ハ校長ノ許可ヲ經ルニアラサレハ他學校ノ入學試験ヲ受クルコトヲ得ス

第二十四條 學生生徒退校セント欲スルトキハ保證人連署ノ願書ヲ差出スヘシ

第一號書式 (用紙美濃紙二ヶ折一通)

入學願書

私儀御校へ入學志願ニ付御試験ノ上御許可被成下度依テ別紙履歷書相添此段相願候也

在籍地族籍職業

(某子弟又ハ被後見人)

年月日 第二外國語何語撰擇

氏 名 印

宿所 東京府何區町村番地
何年何月何日生

第二號書式 (用紙前同断一通)

學業履歷書

學業

一年月日何地_{官私}公立何學校ニ入り何學科何等級修業或ハ全學科卒業或ハ何某ニ從ヒ何學何年間授業用書何々

(卒業證書ヲ有スル者ハ其寫ヲ添フヘシ)

賞罰

一何年月日何所ニ於テ何賞罰ヲ受クル等

以上

氏 名

年月日 第三號書式 (用紙前同断一通)

入學、在學、退學規程

誓書

私儀今般御校へ入學御許可相成候ニ付テハ始終御規則ヲ遵守シ特ニ在學中ハ專心ニ勉勵シ卒業ニ至ルマテ猥ニ退學等致ス間敷候依テ誓書如此候也

在籍地族籍職業
(某子弟又ハ被後見人)

年月日

何年何月何日生

宿所 東京府何區町村番地

前文某今回入學御許可相成候ニ付テハ在學中御規則堅ク爲相守且本人ニ係ル一切ノ事件ハ拙者共引受可申ハ勿論平素御校御趣旨ノ在ル所ヲ協賛シ俱ニ督勵可致候依テ保證如此候也

年月日

保證人氏名印

族籍職業

宿所 東京市何區何町何番地

族籍職業

保 證 人 氏	名 印	族籍職業
宿 所 前同		

東京高等商業學校長氏名殿

前書保證人某丁年以上ニシテ當區内ニ於テ一家ヲ立ツル者ニ相違無之候也

何 區 長 印

(前同文)

第五章 休學規程

第二十五條 生徒疾病又ハ避クヘカラナル事故ニ因リ滿二箇月以上脩學シ能ハスト認ムルトキハ保證人連署ヲ以テ校長ニ願出テ其許可ヲ得テ滿一箇年以内休學スルコトヲ得其疾病ニ罹リタル者ハ醫師ノ診斷書ヲ添フルコトヲ要ス但シ其疾病平癒シ又ハ事故止ミタルトキハ休學期間内ト雖其旨届出テ就學スルコトヲ得

第二十六條 生徒ノ陸海軍ノ現役ニ在ル者及召集中ノ者ハ校長ノ許可ヲ得テ其ノ間休學シ現役又ハ召集終レハ直ニ其原級ニ復スルコトヲ得

前項ニ依リ休學ノ許可ヲ得タルモノハ休學期間内授業料ヲ徵收セス但シ休學カ授業料徵收期月ノ徵收期日以前ニ許可セラレタルトキハ其ノ月ノ授業料ハ金貳圓五拾錢トシ指定ノ日ニ於テ之ヲ納付スヘシ

第二十七條 現役又ハ召集終リテ就學スルモノハ其ノ月ヨリ一箇月金貳圓五拾錢ノ割ヲ以テ次ノ授業料納付期ノ前月マテノ授業料ヲ指定期日内ニ一時ニ納付スヘシ但シ就學ノ時既ニ其ノ期ノ授業料納付済ノ者ハ此限ニアラス

第六章 試験、進級及卒業規程

第二十八條 試験ヲ分チテ學年試験及學期試験ノ二種トス

學年試験ハ其學年中ニ履修シタル學科ニ就キ學年末ニ於テ之ヲ施行ス
學期試験ハ第一學期末又ハ第二學期末ニ於テ各課目ニ就キ一回之ヲ施行ス但專攻部ニ於テハ學期試験ヲ省畧スルコトアルヘシ

第二十九條 學科目ニ依リ便宜之ヲ數課目ニ分チ其成績ヲ定ムルコトアルヘシ

第三十條 各學課目學年ノ成績ハ學年試験ノ成績ト學期試験ノ成績トヲ斟酌シテ之ヲ定ム

第三十一條 學年ノ成績ハ其優劣ニ依リ之ヲ甲乙丙丁ノ四等ニ區別ス

學年ノ成績丙以上ヲ得タル者ヲ及第トシ丁ヲ得タル者ヲ落第トス

第三十二條 作文、書法、商業文、外國語、商業實踐及體操ハ平常ノ成績ヲ以テ學期試験ノ成績ニ代フルコトヲ得

第三十三條 學期試験ニ缺席シタル者ハ特ニ校長ノ許可ヲ經ルニアラサレハ學年試験ヲ受クルコトヲ得ス

第三十四條 學年試験ニ缺席シ追試験ヲ受ケントスル者ハ其試験期日内ニ其旨ヲ願出ツルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ學期試験ノ成績ト平常ノ勤惰トヲ審査シテ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第三十五條 卒業者ニハ卒業證書ヲ授與ス

卒業ノ席次ハ各學年ノ成績ヲ勘合シ其優劣ニ依リ之ヲ定ム

第六章 授業料規程

第三十六條 授業料ハ一學年豫科金參拾圓本科金參拾圓トス

但シ明治三十七年以前ノ入學者ハ從前ノ規定ニ依ル

第三十七條 授業料ハ每學年九月二月ノ二期ニ分チ指定ノ日ニ於テ其半額ツヽヲ前納スヘシ

第三十八條 前條授業料納メ期日ニ違フモノアルトキハ保證人ニ通知シ若シ通知ノ當日ヨリ二週日以内ニ尙納金セナルトキハ嚴重ニ處分スヘシ

第三十九條 授業料ハ一旦納メタル後ハ何等ノ場合ト雖之ヲ返付スルコトナシ

第四十條 病氣其他ノ事故アリテ久シク闕席スルトモ本校ノ學籍ニ在ル間ハ必ス授業料ヲ徵收スルモノトス

但シ病氣ニ依リ本校ヨリ休學ヲ命シタル者ニ對シテハ其學年中ニ於ケル授業料ノ全部又ハ幾分ヲ免除スルコトアルヘシ

第四十一條 左ノ者ニ對シテハ授業料ヲ徵收セス

一、實業學校教員養成規程ニ依ル學資補給生

二、文部省直轄實業專門學校委託生規程ニ依ル委託生

第四十二條 本校生徒豫科生中身體健全、品行方正、學力中等以上ニシテ卒業後實業學校ノ教職ニ從事セントスル志望アル者ニ對シテハ其數ヲ限り授業料ヲ免除ス

前項ニ依リ授業料ヲ免除セラレタル者ハ卒業ノ日ヨリ二箇年間實業學校ノ教職ニ從事スル義務アルモノトス

第七章 圖書貸付及閱覽規程

第一款 貸付

第四十三條 本校ニ於テ定メタル教科用圖書ニシテ本校ニ數部ヲ備フルモノハ之ヲ學生生徒ニ貸付スヘシ

第四十四條 貸付ノ圖書ハ學年試驗終了次第ニ返納スヘシ

第四十五條 圖書ノ貸付ヲ請フモゾハ先ツ圖書係ニ就キ書名其他ヲ圖書借用證書ニ書式ノ如ク記入捺印シ之ヲ該係ニ差出シテ借受クルモノトス

第四十六條 夏季休業中ハ圖書ノ貸付ヲナサス

但シ校長ノ特許ヲ得タル者ハ其限ニアラス

本條ニ依リテ貸付シタル圖書ハ其年九月五日マテニ必ス返納スヘシ

第四十七條 圖書返納ノ期日ニ違フ者ハ爾後圖書ノ貸付ヲ禁止スヘシ

第四十八條 學生生徒一名ニシテ同書ヲ二部以上借受スルコトヲ得ス

第四十九條 貸付ノ圖書ハ之ヲ町寧ニ取扱フヘシ漫ニ字句ヲ改竄塗抹シ若ハ句點等ヲ施スヘカラス違フ者ハ相當ノ處分ヲ爲ジタル上圖書ノ貸付ヲ禁止スヘシ

第五十條 貸付ノ圖書ヲ汚損若ハ亡失シタルトキハ相當ノ代本又ハ代價ヲ以テ辨償セシムヘシ

第五十一條 貸付ノ圖書ハ臨時調査スルコトアルヘシ

第二款 閱覽

第五十二條 圖書ノ閲覽ハ必ス閲覽所ニ於テシ他所ニ携帶スルコトヲ許サス

第五十三條 圖書ヲ閲覽セントスル者ハ閲覽所ニ掲示スル所ノ閲覽心得ヲ遵守スヘシ

- 第五十四條 閱覽所ハ休日ノ外毎日之ヲ開ク其時限ハ時々同所ニ掲示スヘシ
- 第五十五條 圖書ハ凡テ町寧ニ縦閱スヘシ若字句ヲ改竄塗抹シ又ハ句點等ヲ施ス者アルトキハ相當ノ處分ヲ爲シタル上閲覽ヲ禁止スヘシ
- 第五十六條 閱覽ノ圖書ヲ汚損若ハ亡失シタルモノアルトキハ相當ノ代本又ハ代價ヲ以テ辨償セシムヘシ

第八章 學資貸給規程

第五十七條 本校學生生徒ノ學力優等品行方正ニシテ學資支辨ノ途ナキ者ハ本人ノ願意ト校長ノ認定トニ依リ一箇年金百圓以内ノ學資ヲ貸給スルコトアルヘシ

第五十八條 前條ノ學資ハ有志者ヨリ特ニ寄附シタル金員ト本規程第六十一條第六十四條第六十五條及第六十六條ニ依リ該貸給ヲ受ケタル者若ハ其保證人ヨリ返納シタル金員トヲ以テ貸給スルモノトス

第五十九條 學資ノ貸給ヲ受ケント欲スル者ハ東京市内ニ於テ相應ノ資産ヲ有スル者二名ヲ保證人トシテ其貸給ヲ受クル理由ヲ具シタル願書ヲ本校ニ差出

スヘシ

第六十條 學資ノ貸給ヲ受ケタル者ハ卒業後從事スヘキ業務及俸額等ニ對シ貸
給金額ヲ完償スルマテノ間校長ノ指命ニ從フヘキ義務アルモノトス

第六十一條 學資ノ貸給ヲ受ケタル者ハ卒業後業務ニ就キタル翌日ヨリ起算シ
貸給ヲ受ケタル月數ニ二倍セル期限内ニ於テ其貸給金額ヲ月割ヲ以テ之ヲ本
校へ返納スルモノトス

第六十二條 學資ノ貸給ヲ受クル者ハ左ノ書式ニ依リ誓約書ヲ差出スヘシ

誓約書

私儀本年何月ヨリ何年何月マテ金何圓學資ノ貸給相受候ニ付テハ御校學資
貸給規程ヲ遵守シ決シテ違背不仕候依テ保證人連署誓約如件

東京高等商業學校何科生

年月日

本人 氏

名印

住所族籍

保證人

名印

同 氏 名印

東京高等商業學校長氏名殿

第六十三條 學資ノ貸給ヲ受クル者學業ヲ怠リ又ハ品行不良ニ流レ其他校長ニ
於テ成業ノ見込ナキ者ト認定スルトキハ其貸給ヲ廢止スヘシ

第六十四條 前條ニ依リ貸給ヲ廢止サレ又ハ自分ニ退校スル者ハ既ニ受クル所
ノ貸給金額ニ對シ一箇年八分ノ利子ヲ付シ一時ニ之ヲ本校へ返納スルモノト
ス

第六十五條 學資ノ貸給ヲ受クル者修業中疾病ニ罹リ成業ノ見込ナシト認ムル
トキハ其貸給ヲ廢止スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ既ニ受クル所ノ貸給金額ハ第六十一條ノ月割ヲ以テ其翌
月ヨリ之ヲ本校へ返納スルモノトス

第六十六條 學資ノ貸給ヲ受ケ卒業セシ者校長ノ指令ニ從ヒ業務ニ就キタル後
態ニ其業務ヲ止メタルトキハ其返納スヘキ金額ニ對シ一箇年八分ノ利子ヲ付

シ一時ニ之ヲ本校へ返納スヘシ

第六十七條 學資ノ貸給ヲ受ケ卒業セシ者業務ニ就キタル後疾病等ノ故ヲ以テ返納金ヲ延滞スルコトヲ得ス

第六十八條 學資ノ貸給ヲ受ケタル者死亡シタル時ハ其以後之ヲ返納スルニ及ハスト雖若シ生前月賦延滞ノ金額アルトキハ保證人ニ於テ之ヲ辨償スルモノトス

第六十九條 第六十條第六十四條第六十五條及第六十六條ノ返納金ヲ本人ニ於テ延滞スルトキハ保證人ヨリ之ヲ返納スルモノトス

第七十條 保證人死亡又ハ東京府外へ轉居スルカ若ハ其資產ヲ失フトキハ速ニ代人ヲ立テ誓約書ヲ書換フヘシ

第七十一條 官廳會社又ハ一私人ヨリ學生生徒ヲ指命シテ之ニ學資貸與ノ支給方ヲ本校ニ依頼スルトキハ之ニ應スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ學生生徒卒業後從事スヘキ業務ノ約束等ハ貸給者ト受貸給者ト直ニ之ヲ取結フヘキモノトス

専攻部規程

第一條 東京高等商業學校專攻部ニハ東京高等商業學校本科又ハ神戶高等商業學校本科ノ卒業生ヲ入學セシムルモノトス

第二條 專攻部ノ修學期限ハ二箇年トス

第三條 專攻部ノ學科及每週授業時間左ノ如シ

専攻部學科課程表

學 科	學 科	年	第 一 年	每 週 時 間	第 二 年	每 週 時 間
				四		
				二		
				三		
				二		
				二		
				二		
				二		
				二		

七	近時外交史	法					
八	刑						
九	英	文					
十	第二外國語	文					
時 間 合 計							
專修科目							
一貿易科							
二銀行科							
三取引所科							
四交通科							
五保險科							
六商事經理科							
七領事科							
二四	五	二					
二三	五	二					

近時外交史及刑法ハ擇擇科目トス但シ領事科志願者ニハ必ス之ヲ課ス、專修科目ハ隨意其一ヲ擇定スルモノトス

第三條ノ二 第一學年ニ限り學年ノ途中ニ於テ生徒ノ入學ヲ許スコトアルヘシ
 本條ニ依ル入學者ニハ入學ノ學年ニ於テハ各自希望ノ學科目ニ就キ聽講セシ
 メ學年試験ヲ行ハサルモノトシ次學年ニ至リ前條第一年ノ課程ヲ學習セシム
 但本文希望學科目ノ選定ニ付テハ生徒ハ豫メ學校長ノ認可ヲ受クヘシ

第四條 第二學年ノ終ニ於テハ專修科目攻究ノ結界タル論文ヲ提出スヘシ
 第五條 必修科目ノ試験ニ及第シ及專修科目ノ論文適當ト認ムルトキハ專攻部
 卒業證書ヲ授ク

第六條 專攻部ヲ卒業シタル者ハ商學士ト稱スルコトヲ得

但明治三十二年八月以前ノ專攻部規程ニ依リ卒業シタル者及舊研究科ヲ卒業シタル者ハ東京高等商業學校長ノ認可ヲ經テ商學士ト稱スルコトヲ得

第七條 專攻部ノ授業料ハ一學年金參拾圓トス

但シ明治三十七年以前ノ入學者ハ從前ノ規定ニ依ル

**第八條 本校一般ノ條規ニシテ此規程ニ抵觸セサルモノハ專攻部ニ適用ス
文部省直轄實業専門學校委託生ニ關スル心得**

**第一條 文部省直轄實業専門學校委託生規程ニ依リ本校生徒ヲ委託生トセント
スル者ハ其卒業後教職ニ從事スヘキ學校ヲ指定シ該校長ト連署ノ上本校長ニ
委託書ヲ差出スヘシ**

**第二條 委託生タルコトヲ許可セラレタル者ハ左ノ書式ニ依リ誓書ヲ差出スヘ
シ**

印紙 誓書

私儀今般文部省直轄實業専門學校委託生規程ニ依リ委託生ト相成候ニ就テ
ハ卒業ノ後該規程ニ從ヒ何々學校ノ教職ニ從事可致候仍テ誓書如件

東京高等商業學校何科生

年月日 本人 氏名印
住所族籍

父又ハ兄 氏名印
同

委託者 氏名印
(父兄ナキモノハ保證人一名ヲ要ス)

東京高等商業學校長何某殿

本校生徒ニシテ授業料ヲ免除セラレ卒業後教
職ニ從事セントスル者ノ心得

**第一條 本校生徒_{豫科生}ノ中身體健全品行方正學力中等以上ニシテ卒業ノ後實業
學校ノ教職ニ從事セントスル志望アル者ニハ毎年五人以内ヲ限り授業料ヲ免
除ス**

前項ニ依リ授業料ヲ免除スヘキ生徒ハ校長之ヲ撰定ス

**第二條 前條ニ依リ授業料ヲ免除セラレタル者ハ卒業ノ日ヨリ二箇年間實業學
校ノ教職ニ從事スルノ義務アルモノトス卒業後兵役ニ服スル者ノ服役期間ハ
義務年限ニ算入セス**

・前項ノ服役ヲ終リタル者ハ其旨直ニ文部省實業學務局ニ届出ツヘシ
第三條 授業料ヲ免除セラルヘキ者ハ左ノ書式ニ依リ誓書ヲ差出スヘシ

印紙
(印)
誓書

私儀今般授業料ヲ免除相成候ニ付テハ御規則ヲ遵守シ專心勉勵可仕又卒業ノ後ハ御規定ノ義務ニ相服シ可申候依テ保證人連署誓約如件

東京高等商業學校本科第何年生

年月日

住所族籍

保證人 氏

名印

同

保證人 氏

名印

東京高等商業學校長何某殿

第四條 卒業後就職地ノ交渉ニ付テハ文部省實業學務局ニ於テ取扱フモノトス

第五條 任意就職者ハ義務期間内ハ其住居ヲ文部省實業學務局ニ届出ツヘシ
學生生徒心得

第一條 忠孝ヲ旨トシ本分ヲ重シ義務ヲ守リ人ニ接スルニ溫良謙讓事ヲ執ルニ誠實果敢以テ真正ノ商業者タルヘキ性格ヲ養成スヘシ

平素攝生ニ注意シ身體ノ強健ヲ圖リ以テ快活ノ精神ト進取ノ氣象ヲ養成スヘシ

第二條 常ニ教室ノ神聖ナルヲ思ヒ秩序ヲ重シ專心以テ學術ヲ習得スルヲ勉ム
ヘシ

第三條 登校ノ節ハ制服制帽ヲ著用スヘシ

第四條 放課ノ時間ト雖靜肅ヲ旨トシ苟モ喧噪ノ行爲アルヘカラス

第五條 校内ニ在リテハ所定ノ場所以外ニ於テ飲食喫煙スヘカラス

第六條 病氣其他ノ事故ニヨリ缺席セントスルトキハ其理由ヲ記シタル届書ヲ
出スヘシ其缺席二週日以上ニ及フトキハ保證人ノ連署ヲ要ス

但シ病氣ノトキハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ

第七條 學生生徒又ハ保證人ニシテ氏名ヲ改メ又ハ轉籍、轉居シタルトキハ直ニ
其旨ヲ届出ツヘシ

第八條 校内ニ於テ事ノ何タルヲ問ハス許可ナクシテ猥ニ會同スヘカラス
第九條 凡ソ告示ハ之ヲ掲タルノ日ヨリ一般ニ知了シタルモノト認ムルヲ以テ
常ニ之ニ注意スヘシ

第十條 學校ノ器物又ハ圖書ハ專ラ鄭重ニ之ヲ取扱フヘシ
若シ過チテ汚損又ハ亡失シタルトキハ直ニ其旨ヲ届出テ處置ヲ受クヘシ

第十一條 諸規程ニ悖戾シ若ハ長上ノ命令訓誡ニ從ハサル者ハ各其情狀ニ照シ
處罰ヲ加フヘシ

教授要旨

豫科

商業道德

一、近世倫理ノ大要

二、商業家ノ公徳私徳

書法

書法、字體

作文

商業諸式、商業通信文、商業報告文

數學

速算、度量衡、比例歩合利息等、方程式問題、級數、對數及其應用、測法、
錯列及配合、プロバビリチー

簿記

一、原理、總論、取引、貸借、勘定科目、帳簿

二、應用、一個商人ノ會計、商事會社ノ會計

應用物理學

總論、材料強弱、應用力學、熱、熱機關、光、顯微鏡、望遠鏡等、電氣、磁氣、電燈、電力、電信、電話等

應用化學

一、酸、アルカリ、鹽類
二、陶磁器、硝子、セメント

三、石炭、石炭瓦斯、木材乾馏生成物

四、石油、石蠟

五、脂肪、脂肪油、石鹼、蠟燭

六、芳香油、樟腦、薄荷、樹脂、漆、ゴム

七、砂糖、澱粉、紙、セルロキド

八、釀造物

九、草

一〇、火薬、マッチ

一一、金、銀、銅、鐵、鉛

應用化學ハ天然諸原料ニ化學的操怍ヲ施シ世用ニ供給スルノ法ヲ講スル學科ニシテ一般ノ化學工業ニ要用ナル事項即前列記ノ諸製品ノ性質、用途、製造法、並ニ製造化學ニ關スル原理等ヲ講述ス

法學通論

一、汎論。法律學及法學通論ノ觀念、法律ノ觀念、種類、淵源、制定、解釋、管轄、制裁、消滅、權利義務ノ觀念及其種類等

二、各論。憲法、民法、商法、刑法、訴訟法、國際法等

經濟通論

經濟學ニ關スル一般ノ智識

英語

一、習字書取、諸證書式、書牘式等

二、解釋。史傳、記事文等

三、會話。日用必須ノ談話商業ニ係ル問答談話等

四、作文。日用往復文、記事文等
佛、西、獨、伊、露語

讀方。譯解。文法。會話。

清語

發音。讀方。譯解。語法大意。會話。書取。

韓語

徒手體操。器械體操。各個教練。小隊教練。中隊教練ノ一部。實彈射擊。

體操

商業道德 第一年

本 科

一、商業道德ノ性質、種類、應用

商業文 第一年

商業通信文、商工業ニ關スル記事論說文

商業算術 第一年、第二年

外國度量衡及貨幣、化法及轉換法、相場割、百分算、損益、仲買人手數料、
仲立人手數料等、風袋及ドラフト、運賃、利子及割引、交互計算、時差、和
較法及合金、割賦、計算法、保險、海損、金銀、貨幣制度、外國爲替、株式
取引、著荷地實價計算、送狀、賣上計算書、重利法、年金及インダウメント、
公債整理及償還、株式及社債 プロバビリチー、生命保險、トンチン、鐵道
賃率算定法

商業地理 第一年、第二年

一、內國。地形、人口、生產、製造、工業地、外國交通及要港、內國交通及都
市、內外貿易、經濟上ノ關係
二、外國。地形、人口、政體、商業的建說、農業、山林、蓄產、漁業、礦業、
製造、內外貿易日本二於貿易區域、船舶、港灣、運輸及貿易ノ便、貿易ノ障
害、財政租稅、殖民地、繁榮及衰頽ノ原因、一般經濟上ノ狀勢

商業歷史 第三年

一、内地商業、外國貿易、貨幣、度量權衡、金融事情、内地交通、航海業、鐵山業、工業

二、自足經濟時代ノ商工業、封建制經濟時代ノ商工業、メルカンチリズム時代ノ商工業、十九世紀ノ商工業

簿記 第一年

銀行業

同 第二年

外國貿易業英帳文

同 第三年

各種應用簿記

機械工學 第一年

工業用諸材料ノ性質及試驗法、仕事及動力傳達、熱及熱機關、冷却法及暖房裝置、水力及水力機、機械製造法及工作機械器具、紡績及染織工業機械、化學工業機械、印刷機、採礦及冶金用機械

商品學 第一年

一、礦業製品。鐵、銅、鉛、亞鉛、アンチモニ、滿鐵、金、銀、石炭、石油
二、工業製品。陶器、七寶、硝子、セメント、マッチ、綾薙、植物性油、蠟、漆
並漆器

三、農產。米、茶、咖啡、砂糖、鹽、樟腦及樟腦油

四、纖維並纖維製品。綿、生糸、羊毛、大麻、苧麻、織物

五、水產。魚油、昆布、海參、乾鮑、鷺

以上諸品ハ(一)產出並需要(二)使用(三)所在(四)性分性質並變化(五)製法(六)混合物檢定並品位鑑定(七)種類(八)賣買ノ慣習(九)荷造法ノ各項ニ分チ講述ス

經濟學 第一年

一、經濟原論

緒論、經濟ノ意義、國民經濟ノ意義、欲望

自然界、人口、人智並ニ技術

國民經濟ノ靜態觀察、共同生活ノ秩序、家族、國家其他ノ公共團體、分業、

所有權並ニ相續權、社會ノ分化、階級、企業並ニ經營
國民經濟ノ動態觀察、生產、交通、分配

經濟學略史

同 第二年

二、貨幣論

貨幣ノ起因、貨幣ノ職分、貨幣ノ種類、本位貨幣及補助貨幣、法貨、グレ
ンヤム法則、本位問題、貨幣ト物貨、理想的標準、不換紙幣、兌換紙幣

三、銀行論

信用ノ觀念、信用證券、商業銀行ノ定義、效用、經營、資本金、預金、手
形割引、貸付、有價證券ノ賣買、兌換銀行券ノ發行、銀行附隨ノ業務、金
融市場、外國爲換、各種銀行、銀行史一班、銀行政策

四、投機論

各國取引所ノ組織現況及取引方法、投機取引ノ意義、投機ト賭博、投機取
引ノ經濟的本能、投機取引ノ弊害及其芟除策

同 第三年

五、恐慌論。恐慌及不景氣ノ意義、定期發生、附隨的諸現象、原因、防禦策及
救治策、諸學說ノ批評

六、商業政策。總論、內國商業政策、外國商業政策

財政學 第三年

一、總論。財政ノ意義、財政學ノ定義性質、財政原理ノ歴史一
二、歲入論。歲入ノ分類

私經濟的收入。官有土地、官工業、官立銀行及富籤
公經濟的收入。手數料

租稅、租稅原理、租稅ノ種類及論理

國家ノ特權又ハ特權ニ基ク企業ノ收入

三、歲出論。歲出ノ意義及其國家ノ性質業務等トノ關係、經常及臨時歲出、歲
出ノ種類、歲出補填ノ原理及原則

四、收支適合論。收支適合ノ原理、臨時歲入ノ種類性質

五、公債論。提要、公債、種類、募集、償還、公債ノ管理、公債ト金融市場ト

ノ關係

六、豫算及會計論。歲計算ノ原理、豫算ノ調製、提出、議定、施行監督、歲出入ノ管理方法及順序、歲出入管理機關ノ組織權限等

統計學 第二年

一、總論

定義、統計學ノ歴史、統計調查ノ機關、國際機關

二、統計ノ理論

大量觀察、統計上ノ所謂原則、統計的研究ノ條件

三、統計ノ技術

統計調查ノ方法一般、材料ノ整理、平均、インデックスナンバー、補間法、圖解ノ方法

四、人口統計

總論

人口靜態統計、研究ノ範圍、絕對人口、比較人口、都會ト田舎ト人口ノ自

然的區分、人口ノ社會的區分

人口動態統計、研究方法、婚姻、結婚者ノ年齢、離婚、夫婦關係存續期間、出產、死亡率、死亡表、小兒ノ死亡率、移住

五、經濟統計

利用セラレタル土地、其區分、土地所有權ノ分配、建物、人口職業別、財產統計、所得統計、農業、工業、商業、運輸、通信、信用機關、物價

私法 第一年

民法

一、總則。人、法人、物、法律行為、期間、時效

二、物權法。總則、占有權、所有權、地上權、永小作權、地役權

同 第二年

三、債權法。總則、契約、事務管理、不當利得、不法行為

四、物權法。留置權、先取特權、質權、抵當權

同 第三年

商法

一、總則。法例、商人、商業登記、商號、商業帳簿、商業使用人、代理商
 二、會社。總則、合名會社、合資會社、株式會社、株式合資會社、外國會社
 三、商行為。總則、賣買、交互計算、匿名組合、仲立營業、間屋營業、運送取
 扱營業、運送營業、寄託、保險

四、手形。總則、爲替手形、約束手形、小切手

五、海商。船舶、船舶所有者、船員、運送、海損、保險、船舶債權者

破產法 第三年

一、實體規定。總則、破產債權者、別除權者、財團債權者、破產財團、法律行
 爲ニ關スル破產ノ効力、取戻權、相殺權、否認權

二、手續規定。總則、破產ノ宣告、破產管財人、監查委員、債權者集會、破產
 財團ノ管理及換價、破產債權ノ届出及調査、配當強制和議、破產ノ廢止

三、罰則

四、復權

商事行政法 第三年

緒論 行政ノ觀念、行政法、商事行政法

一、營業法

二、特許法

三、銀行法

四、貨幣法

五、保險法

六、度量衡法

七、交通々信
道路、鐵道、水路、郵便電信

八、勞働者ノ保護

九、商業ニ關スル租稅殊ニ營業稅、關稅

一〇、商事行政ノ機關殊ニ領事、商業會議所

國際法 第三年

一、總論、國家、國家ノ權利義務、條約、不法行為、外交官、領事官、國家ノ領域、船舶航海、國際爭議終局ノ大要、戰爭大要、海戰、中立等
英語 第一年、第二年、第三年

一、解釋。記事文、論文

二、會話。日用必須ノ談話、商業ニ係ル問答談話等

三、作文。日用往復文、商業通信、記事、報告、契約、論說等

佛、西、獨、伊、露語 第一年、第二年、第三年

讀方。譯解。文法。作文。會話

清語 第一年、第二年、第三年

一、讀方。譯解。語法。書取。

二、會話。通俗問答。商用會話

三、時文。商用尺牘、契約、手形書式、記事、日用尺牘

韓語 第一年、第二年、第三年

文法。會話。翻譯。講話

商業學 第一年

一、商業通論

商業及商業學ノ意義、商業ノ發達、商業ノ種類、商人、商業ニ關スル公人
私人、貨幣及度量衡、商業上ノ設備、商業機關、商業經營ノ方法、商業ニ
關スル經濟ノ大則及法規一般

二、賣買

方向、計算、方法、時期等ニ基ケル賣買ノ區別、商品及其代表證券、品質
數量、代價等ニ關スル要件、引渡ノ手續、支拂ノ方法、是等ガ實際活動ノ
景況ヲ示スヘキ賣買上ノ實例等

商業學 第二年

三、海運

緒論、海運ノ發達、船舶、航路及港灣、海運ノ目的物及其運賃、海運ノ組
織及經營、海運ニ關スル實務、海運ニ關スル重要ナル契約、救援及救助、
海員問題、海運政策、

四、鐵道。鐵道政策、鐵道經濟、鐵道實務

五、保險

總論、保險ノ定義、保險ノ利益及其濫用ノ弊、保險ノ種類及沿革、保險ト他ノ學術トノ關係、保險ノ實務

各論

海上保險。海上保險ノ原理一般、海上保險ニ關スル一般ノ原則、海上保險ニ關スル應用、海上保險ニ關スル經營

共同海損。共同海損ノ原理一般

火災保險。火災保險ノ原理一般、火災保險ニ關スル一般ノ原則、火災保險ニ關スル應用、火災保險ニ關スル經營

生命保險。概說、沿革、必要及利益、濫用ノ弊、生命保險ノ種類、死亡表、各種保險料、生命保險ニ用フル計算、準備金、保險料割戻法、契約ノ終始及手續、内外生命保險證券ノ普通並ニ特別約款、重要ナル外國ノ生命保險ニ關スル法制一般

以上記載以外ノ諸保險業ニ付一般ノ智識

六、銀行、預金、貸付、割引、爲替、取立、公債證書、地金銀賣買、事務取扱手續、外國爲替

七、稅關倉庫

關稅制度

關稅政策、通商條約ト關稅制度、關稅及其賦課徵收、戻稅及交付金、船舶ニ關スル制度、貨物ノ輸出入、積戻、通過及回漕、貨物ノ評價鑑定、外國貿易及外國貿易統計、保稅倉庫假置場及自由港制度、關稅行政機關、關稅警察、異議及訴願、稅關事務ノ運轉、諸書式、稅關貨物取扱業務、港灣論八、取引所

株式取引所、商品取引所、目的、沿革、組織、種類、各國ノ營業規則、取引ノ方法及計算

商業實踐

第三年

商業實踐ハ總テ英語ヲ用キ學生ヲシテ同一ノ事務ヲ執ラシメ普ク諸般ノ商取

引ニ通セシムルヲ以テ目的トシ本邦重要ノ輸出入品ニ就キ一々例ヲ設ケ之ニ
要スル書式ヲ與ヘ以テ一取引毎ニ其仕入ヨリ販賣ニ至ル諸般ノ手續、計算、通信
及記帳ヲ演習セシム

體操 第一年、第二年

(豫科ニ同シ)

專 攻 部

經濟學 第一年

經濟地理、經濟實踐、經濟政策總論、農業政策、工業政策、交通政策
同 第二年

商業政策、殖民政策、經濟史、財政論及金融市場
民法 第一年

民法第一編 總則

人、法人、物、法律行爲、期間、時効

同 第二編 物權

總則、占有權、所有權、地上權、永小作權、地役權、留置權、先取特權、
質權、抵當權

民法 第四編 親族

總則、戶主及家族、婚姻、親子、親權、後見、親族會、扶養ノ義務

民法 第二年

同 第三編 債權

總則、契約、事務管理、不當利得、不法行爲

同 第五編 相續

家督相續、遺產相續、相續ノ承認及拋棄、財產ノ分離、相續人ノ曠缺、遺言、遺留分

備考 民法第一編乃至第三編ハ本科ニ於テ修習シタル科目ナルヲ以テ專

攻部ニ於テハ宜シキニ隨ヒテ取捨シ且英米法ノ原書ニ就キ我民法ニ比シテ授業スルコトアルヘシ

商法並比較商法 第一年

商法 第一編 總則

第二編 會社

第三編 商行爲

同 第二年

第四編 手形

第五編 海商

國際法 第一年

國際公法中汎ク本科第三年ニ於テ授業セサル部分ヲ授業シ殊ニ國際爭議終局ノ部ヲ授業ス

同 第二年

國際私法全般ニ涉リ總論、外國人ノ權利ノ享有、法律ノ抵觸、民事訴訟法中國際關係ノ規則ヲ説キ其中ニ於テ法例、國籍法ヲ説明シ其他國際私法ノ規則中殊ニ商人ニ必要ナル部分ヲ選ミテ授業ス

國法學 第一年

緒論

一、國家

二、國法

一、總論

一、統治權

二、國體

三、國家聯合

四、憲法

二、國家ノ自然的基礎

一、領土

二、臣民

三、國家ノ機關

一天皇

二、攝政

三、國務大臣

四、帝國議會

五、司法裁判所

六、行政官廳

七、官吏法

四、國家ノ地方區畫

一、地方分權殊ニ地方自治

二、市町村、郡及府縣

三、公共組合

同 第二年

五、國家ノ作用

一、立法

二、司法

三、行政

外務行政、條約
内務行政、總說、人事行政、保安警察、衛生行政、文化行政、經濟行政、
財務行政
軍務行政

東洋經濟事情 第一年

一、清國ニ於ケル商店ノ種類

一同上商店ノ組織

一同上商人ノ組合團體

一同上商取引ノ習慣及注意スヘキ要點

一同上貨幣ノ種類並ニ通貨

一同上度量衡ノ事

一同上金融事情

一同上貨物受授ノ手續並ニ代金受拂ノ方法

一、清國各口ニ於ケル貿易ノ情況

一清國海關ニ於ケル貨物輸出入ノ手續

以上可及的實際活動ノ景況ヲ示スヘキ實例等

近時外交史 第二年

序論、ウエストファリー條約ヨリ佛國革命ニ至ル外交、ナボレラン第一世時代ノ外交、維納條約及神聖同盟、反動ノ時代、英國ノ外交、小國ノ興廢、巴里條約、伊太利ノ建國、獨逸ノ勃興、佛國外交ノ大敗、露土戰爭、柏林條約、三國同盟、露佛同盟、英國ノ外交、米國ノ外交、英佛ノ衝突、東方問題、極東問題

刑法 第一年

刑法 總則ノ部

第一編 犯罪

第一卷 犯罪ノ事實

日本刑法沿革大意、刑罰權論ノ大要、犯罪ノ定義、犯罪ノ區別、犯罪ノ時、場所、人

第二卷 犯罪ノ責任
責任ノ原則、責任ノ例外、責任ノ減輕、責任ノ加重、數罪ノ責任、共犯ノ責任

第二編 刑罰

刑罰總論、主刑、附、獄制論大要、附加刑、刑期計算、期滿免除

獎學資金

本校ノ獎學資金ハ從來學生ノ貸費ニ充ツル分一種ニ過ギザリシガ明治三十七年七月十三日東京市日本橋區龜島町一丁目四十一番地加賀千代子親權者加賀ますヨリ學生体育獎勵及學生貸費ノ用途ニ充ツル目的ヲ以テ金壹萬圓ノ寄付アリ又同年十二月十九日同市本所區向島須崎町二百一一番地外山新七ヨリ學生運動獎勵費ニ充ツル爲メ金四千貳百五拾圓ノ寄付アリ又明治三十九年ヨリ向フ三ヶ年間英語獎勵費トシテ毎年金百八拾圓ツ、ヲ寄付スル豫定ニテ其第一回分ヲ明治三十九年六月三十日同市芝區田町七丁目三番地犬塚信太郎ヨリ寄付アリ又同年十

二月十四日同市日本橋區坂本町五番地半田庸太郎ヨリ圖書購入費ニ充ツル爲メ
公債證書額面貳千圓ノ寄付アリ今以上各寄付金ノ現狀及其使用條件等ヲ列記ス
ルコト左ノ如シ

學生獎學費寄付金（從來ノ分）

一公債證書額面參千九百圓

一現金參拾圓九拾四錢（定期預

右公債證書及預金ノ利子並ニ既ニ貸給セシ學生ヨリノ返納金ヲ以テ現在學生ノ
貸費ニ充ツ

加賀獎學費寄付金

一公債證書額面壹萬貳千五拾圓

一現金拾九圓九拾五錢（定期預

寄付者ノ指定ニ基キ現金壹萬圓ヲ以テ前記公債證書ヲ購入シ其利子ト右購入殘
金ニ對スル預金利子トヲ以テ學生體育獎勵費及學生貸費ニ充ツ

運動獎勵費寄付金

一本寄付金ハ元金ヲ使用スル指定ナルヲ以テ最早其全部ヲ目的ノ用途ニ使用シ
了レリ

犬塚獎學費寄付金

一現金百八拾圓（定期預

右現金ノ利子並ニ今後寄付アルヘキ分ノ利子ヲ併テ學生ノ英語獎勵費ニ充ツ

半田獎學費寄付金

一公債證書額面貳千圓

右公債證書ノ利子ヲ以テ圖書購入費ニ充ツ

出版物（明治四十年中）

本校ニ於テハ從來夏期休業中上級ノ優等生ヲ撰ヒテ内外各地ニ派遣シ諸般ノ商
業實地ヲ研究セシムルノ例ナリシカ其ノ明治三十九年ニ於ケル報告書中本年出
版シタルモノ左ノ如シ

一本科第三年松村芳平生肥料市場調査報告

一本科第三年加藤哲治韓國生於ケル本邦貨物販路取調報告

本科第三年生
大石善四郎清國江蘇浙江兩省繭生絲調查報告

客年來朝ノ米國エール大學名譽教授ラット博士ヲ本校講師ニ聘シ其ノ講演ヲ上梓シタリ即左ノ如シ尙該書ハ之ヲ邦譯シテ書肆博文館ヲシテ更ニ刊行セシメタリ

— THE DOCTRINE OF THE VIRTUES AS APPLIED TO BUSINESS LIFE, Ten lectures on Commercial Ethics by George Trumbull Ladd LL.D. 1907.

一 東京高等商業學校一覽附商業教員養成所一覽自明治四十一年至明治四十年

學生生徒現員 (明治四十年十月十日調)

專攻部第二年生 (十六人)

瀧谷善一	大阪	男全萬造	東京	荻野音松	東京
阿部嘉八	熊本	杉浦耕作	東京	川田長兵衛	埼玉
落合泰次郎	東京	大橋誠之	兵庫	山下武平	宮崎
				内田寅三	東京
				菊地鈴太郎	神奈川
				吉田初次郎	愛知
				宮澤壽男	長野
				仁科眞太郎	東京
				今井清次郎	東京

專攻部第一年生 (百十人)

堀内泰吉	三重	伊東述史	愛媛	鹽田重三	秋田
原島口三郎	德島	川田長兵衛	埼玉	堀義貴	鹿兒島
河辺萬次郎	東京	山下武平	宮崎	木昌平	新潟
岡野正平	東京	内田寅三	東京	中村茂男	島根
岡田信三郎	京都	菊地鈴太郎	神奈川		
坪上貞二佐賀		吉田初次郎			
那波直彦	東京	宮澤壽男	長野		
松村芳平	栃木	仁科眞太郎	東京		
石神牛之助	靜岡	今井清次郎	東京		
八木榮島根					

織田	松太郎	愛媛
北村	敏	東京
大池	千尋	長野
大石	善四郎	福島
高木	二郎	神奈川
川谷	恒規	高知
美川	六右衛門	神奈川
高田	馨	愛知
清水	吉松	三重
田中	駒治	長野
森宇佐美	半之助	京都
河野	義郎	大阪
西川	勝太郎	東京

福中重吾兵庫
神田源七郎崎玉
大原信德長野
石橋金三郎青森
安田弘福岡
天野彦太郎廣島
平田忠雄長崎
山田清太郎東京
古賀文八佐賀
富永清吉東京
富森謙吉兵庫
森田初三郎三重
田卷政憲新潟

木下照太郎	愛媛	熊崎	良東京	節福島	原直
鰐部順次郎	神奈川	大村信善	鳥取	田中素諍	岡山
大澤重三	愛知	佐野次郎	岡山	大佐	澤
宗正	次大分	加來與次郎	大分	田中	中
大槻爲八	宮城	三ツ矢勝治郎	宮城	大村	順次郎
岩元松二	鹿兒島	大	大	鰐部	順次郎
梶島茂一	三重	三	ツ	熊	崎

本科第三年生

(二百二十四人) (印八撰科生以下之二微)

八十六

春田	守田	吉田	春田	木村	柿原	木村	三田
茂躬	藤之助	忠郎	茂躬	禎橋	秀吉	禎橋	秀太郎
長野	東京	大阪	長野	宮城	福岡	京都	京都
上尻	一雄	孝和	上尻	吉崎玉	福岡	太郎	太郎
和歌山	廣島	潔兵庫	泰	堺	吉	木村	江林
	靜岡		二郎	西坂	福	保藏	平井
			長崎	井	岡	東京	東京
			東京	英	田	乙	平

志賀	安井	大八木	岸野	定塚門	小林寅	松村	木村	木村
乾賀	咸吉	佐兵衛	種治郎	次郎	寅次郎	松次郎	禎橋	禎橋
正德島	高知	千葉	治郎	富山	京	東京	太郎	太郎
東京	東京		耀山口	京都	東京	東京	江林	江林
			山口				平東京	平東京
			口				乙	乙
			保				東京	東京
			東京					

谷川	今村	藤井	木村	木村	木村	木村	谷
江	達	仁一郎	太郎	太郎	太郎	太郎	江
林	夫	群馬	滋長崎	常世	常世	藏	林
宮城	東京	京都	長崎	兵庫	兵庫	東京	平東京
福岡	福岡	福岡	滋長崎	滋長崎	滋長崎	滋長崎	平東京
京都	京都	京都	兵庫	兵庫	兵庫	兵庫	京都
東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京

本科	第三年	生	二ノ組	(五十八人)
第三年	生	二ノ組	(五十八人)	
本科	第三年	生	二ノ組	(五十八人)
第三年	生	二ノ組	(五十八人)	
本科	第三年	生	二ノ組	(五十八人)

吉本時次福岡
山本幸兒東京
松林力雄東京
關田源太郎高知
井上中務東京
岸蓑規一山口
杉妻駿愛媛
篆妻規一山口
井上中務東京
橋宗像春城熊本
増本慎一東京
村永洋三千葉
大西一郎靜岡
一男北海道

津田卯一郎 島根
林石塚 条 藏 東京
原田芳 助 山口
木下 猛 熊本
渡成 規 東京
境澤英一郎 東京
石井鉄 藏 神奈川
増木正 松石川
金田照 二福岡
目黒榮太郎 新潟
繁澤四郎 山口
高山橋 穀 東京
良平 千葉

福	地	慶	吉	兒山破魔吾岡山
齋	藤	正一郎	岩手	鹿兒島
村	上	鈴次郎	愛知	
原	口		徳	
山			東京	
高	橋	兵	三	東京
木	村	末喜	熊本	
内	野	隆介	福島	
高	橋	兵	三	東京
森	中	田	民平	高知
福	井	李	一三重	
友	部	鼎五	東京	
木	村	未喜	熊本	
内	野	隆介	福島	
高	橋	兵	三	東京
井	一	郎	茨城	
上	邦	佐	山口	

西澤	二松	高知	井上	富三	福井		
楊妻	安太郎	山形	吳秉	釗清國	趙連	壁清國	
關谷	久保村	三郎	鄭聯	鵬清國	中岡孫一郎	和歌山	
小栗良三	河野	賢東京	(×五十九人)	久保村三郎	三重	守安瀧次郎	新潟
	利次	和歌山				神奈川	

松本政勝・福島西郷佳夫・長野
満喜祐男・鹿兒島松本源一郎・福岡
宮部匡一・群馬五十嵐隣之助・福島
井合誠治・新潟關口證・二東京
山口吉之助・鹿兒島村上・豊山口
大久保愛之丞・長野岸田哲安・藏崎玉
小崎安・藏崎玉小林邦市・島根

曾根昌一山口
加島鍊之助大阪
太田萬作東京
太田耕太郎熊本
長谷川清次山口
堀越久東京
兒玉登長野
佐々木正一郎秋田
羽川時隆島根
岩倉具光東京
田村吉新潟
増田文吉新潟
岡村四郎山口
三澤初造東京
澤田力松板木

木戸周吉 東京
宮川敬三 東京
青柳謙之介 山梨
大塚與四郎 新潟
高橋一雄 東京
青山哲四郎 滋賀
矢部保次郎 櫻木
姫野茂久郎 大分
渡邊省二 東京
大岩武九郎 愛知
藤森保三 福島
牧野庄三郎 京都
植藤明威 東京

村上英信 宮城
柳下喜之助 東京
阪本愿三郎 櫻木
菊地啓磨 岩手
飯室泰四郎 京都
長坂清太郎 東京
鹽谷鎌二郎 東京
木子政之助 東京
桶口泰三 東京
水沼質宮城
佐藤一青森
李撰科生 鐸清國
瑞振琨清國

劉光笏清國
金天祿清國
平井真次郎 岡山
伊藤武男 愛媛
栗田庸太郎 東京
玉水千市 島根
三島増一鳥取
松崎壽靜岡
松本恭東京
玉水千市 島根
三島増一鳥取
松崎壽靜岡
田所耕耘和歌山
荻原猪平長野
戶田恭東京
二之宮景吉 鹿兒島
上野祐吉 島根
加林田昌新東京
白石愛治郎 佐賀
上田貞始群馬
柴垣爲吉 東京
松本謙吉 幾廣島
太田正壽新潟
田英龜兵庫
中川健兒大阪
岡田勢三
川田重次
牧野健兒和歌山
澤田正司秋田
牧野正次秋田
田政次秋田
治岩手

宍道庸藏 島根
奥矢田昌一 東京
小磯正治 東京
加藤理三郎 輔山形
藤下未三郎 昭輔山形
松原正次郎 東京
安原季明 鹿兒島
堤平井勇 東京
堤平井孝 東京
安原次郎 東京
堤平井兼雄 東京
坂本源一郎 秋田
坂本鐵也群馬
小澤義正山梨

小原清次 新潟
山田治郎 新潟
井出儀太郎 愛媛
安中政男 長崎
相川萬里 東京
佐々木哲亮 東京
大貫靜馬 芙城
多和作太山口
奥村辰三
川端良次郎
細井安次郎
山谷廣次郎
江口精一郎
川口辰三
奥村辰三
川端良次郎
細井安次郎
次山形

上野祐吉 島根
加林田昌新東京
白石愛治郎 佐賀
上田貞始群馬
柴垣爲吉 東京
松本謙吉 幾廣島
太田正壽新潟
田英龜兵庫
中川健兒和歌山
岡田勢三
川田重次
牧野健兒和歌山
澤田正司秋田
牧野正次秋田
田政次秋田
治岩手

本科第二年生
^x(二百九十六人)

森田文雄京東
杉原利映東京
高田善次郎崎玉
橋本秀二郎岡山

門脇正鳥取撰科生以鳴謙清國

沈 論
祚 荔
延 孫
清 淸
國 國

本科第二年生	(三百九十六人)
高島 佐一郎	茨城
海 上 浩	靜岡
鈴木 清重	靜岡
九森 道次郎	山形
西川 正伍	栃木
片山 直	東京
海老原 竹之助	茨城
一瀬 賀	千葉
男愛媛	高橋
松青森	二 東京
雄岐阜	火 郎宮城
一 濵賀	水 一山形
衛千葉	水 一山形

熊谷善四郎 岩手
西郷清隆 麗兒島
北内楨雄 大阪
前田壯太郎 靜岡
廣田佳材 東京
坂詰鴻一郎 新潟
岡本直二 石川

曾我部	大	永	大	山	山	村	太	山	板	柴
我部	山	田	山	昇	下	山	本	太	倉	田
直之	键	利	井	平	丙	太	貞	山	安	芳
進	治	一	基	崎	吉	三	一	兵	兵	二
德島	岡	兵	二	玉	廣島	郎	郎	衛	庫	兵庫

廣瀬平井 博柄木嘉六兵庫
佐久間參男 東京稻野良一 靜岡
辻野龜一 奈良大島勝次郎 群馬
大槻金藏大阪 沖守人 廣島
小池澄三群馬 宇土伊八長崎
鈴木喜三郎岐阜 富田康東高
猪飼徳次郎京都 竹岡菊三東京

清水	敬一東京
山口	龜次郎青森
本間	佐七秋田
柳下	省治新潟
乾	佐治香川
赤	田環岡山
横	井郁郎愛知
山崎	光次郎愛知
嶋	夏韓國
撰科生	張弘植韓國
陳定	鄭旭清國

堺山圭三 靜岡
大島堅造群馬
野村大藏岡山
讚井源輔福岡
若林方雄三重
德野隆祐山口
岡原末之助宮城
神野尙秋田
沖野留吉愛知
有我良藏福島
中島鐵次郎愛知
松田良藏福島
鄉誠馬東京
岐阜

龍 菅 营 間 居 茂 織 平 靜 國
大 野 敬 信 京 都 豊 東 京
玉 置 仁 知 東 京 泰 埼 玉
森 飯 田 尚 武 長 崎
宮 本 洲 尚 武 長 崎
立 嶋 繁 三 郎 山 口 一 德 島
宇 多 石 孝 信 長 崎
木 川 一 良 一 東 京 平 長 野
石 倉 千 葉 隆 島 根 一 千 葉
市 川 一 千 葉 一 千 葉

横山一郎 山口
木下文知 長野
矢野友繁 造兵庫
林松井啓介 福島
岩崎秀雄 山口
北島長兵衛 富山
長井芳太郎 愛媛
佐藤棟造 兵庫
藤田秀雄 愛媛
三村賢治郎 岡山
宮崎政善 高知
角田重太郎 北海道
今泉一東京

渡邊 高山重四郎 東京
雨森 良平 東京
濱野初五郎 柳木
岡田千里 熊本
岩本啓治 三重
小幡壯吉 鹿兒島
恩賀太一郎 和歌山
石崎靖夫 佐賀
各務豊治 岐阜
小田耕介 福岡
中野徳三郎 兵庫
鹽山恭夫 熊本
皆川多三郎 廣島

森	宮	松	永	雅	樹	岐	阜
江	司	江	謙	次	岡		
渡	江	東	三	東	京		
部	村	京	吉	福	島		
重	琢	廣	磨	鹿	兒		
吉	一	島	島	島			
福	廣						
島							

小林與一郎	谷川忠直	熊本
武井大助	茨城	
撰科生		
李涵	眞清國	
陳錫	壇清國	
楊汝	梅清國	
三ノ組	(七十五人)	
竹内安之助	茨城	
大崎新吉	大阪	
三島四郎	長崎	
横山	高知	
清水義美	長野	
若杉恭一郎	北海道	

朝岡健東京
飯島繁作群馬
土方省吾北海道
齋藤太郎東京
恩田稔東京
加藤曠之助東京
石井忠吉秋田
木村讓茨城
淺原文平岡山
佐上富造廣島
菊川丈夫千葉
田中義高愛媛
南部八萬人東京

小	山	村	田	治	新	潟
池	川	相	川	清	太	郎
周	木	木	村	吉	太	郎
三	村	村	吉	井	九	二
東京	大	大	井	新潟	新潟	新潟
	黑	小	林	藏	藏	藏
	田	林	雄	北海道		
	秀	井	治			
	瀨	治	東			
	正	大	京			
	次	分				
石	佐	大				
渡	之	坪				
重	瀨					
男	正					
東京	次					
中	村					
米	太					
郎	郎					
靜岡						

町田細矢祐治常雄東京
平野保助岩手
田中繁次千葉
橋爪準一郎山形
清水時好東京
渡邊東京
右近末穗佐賀
和田平藏秋田
中保清福井
米田雄奈良
太司一佐賀
諸熊子
渡邊德治香川
照山二郎茨城

渡邊彌太郎福島雄岡山東京大郎次郎兵庫正鳥取成仁東京資石川仁行宮城島根治良昌知愛幸長野門保松山梨村捨岡山三郎岡山

川原孫八佐賀
齋藤慶之助京都
阿部俊三東京
和田壽夫和歌山
横山秋三愛知
石坂英一東京
富田寛治熊本
林上村好茂滋賀
菅沼規矩治長野
中藤益之介岡山
井上秀實福岡

一ノ組 (四十八人)

泉 谷 榮 三 兵 庫
内 田 敬 三 福 井
濱 田 喜 十 郎 大 阪
加 賀 美 源 五 郎 群 馬
大 橋 芳 作 新 潟
大 黒 田 雄 平 静 間
岡 本 勝 雄 高 知
田 篠 代 香 苗 佐 賀
谷 崎 成 一 群 馬
九 尾 俊 雄 靜 間
脇 田 甲 子 之 助 東 京
草 甲 重 孝 鹿 兒 島

高 木 宗 助 福 島
太 田 六 郎 大 阪
人 見 英 三 京 都
倉 田 久 太 郎 新 潟
井 原 純 策 福 間
志 賀 清 福 間
武 村 九 十 九 神 奈 川
山 本 只 木 進 東 京
岩 橋 三 郎 福 岡
伊 藤 虎 市 香 川
山 本 修 平 岡 山

中 川 俊 介 福 島
北 園 登 四 郎 鹿 貝 島
會 田 俊 介 福 島
青 木 樹 太 郎 埼 玉
石 崎 健 之 助 大 阪
鈴 木 勝 治 新 潟
柏 木 伸 吉 松 山 形
山 口 謹 吾 長 野
田 潤 武 德 島
鹽 田 鷹 次 郎 東 京
犬 丸 伊 之 助 石 川
鈴 木 宗 次 郎 東 京

小 池 一 郎 長 野
牛 九 喜 助 富 山
大 和 三 千 太 東 京
佐 藤 整 十 郎 新 潟
志 倉 半 次 東 京
蜂 須 亮 太 郎 群 馬
澤 田 濱 次 郎 愛 知
撰 科 生 尹 閔 朱
二 ノ組 (四十五人)
刈 割 弘 教 重 韓 國
元 東 京 二 神 奈 川

宮 城 正 一 德 島
所 澤 忠 一 長 野
野 崎 隆 幸 高 知
平 澤 千 萬 人 芙 城
武 井 理 三 郎 群 馬
德 重 伍 介 福 岡
西 村 太 四 郎 山 口
小 池 喜 三 郎 長 野
大 塚 常 吉 東 京
緒 方 竹 虎 福 岡
金 子 利 八 郎 岩 手
井 上 三 吾 熊 本

石 井 鍵 三 郎 東 京
山 崎 修 平 新 潟
高 梨 武 羽 阿 岡 田
山 崎 修 平 新 潟
石 井 鍵 三 郎 東 京
佐 藤 久 志 下 田
石 禾 阿 部 文 才
佐 藤 久 志 上 田
瀧 口 禾 阿 部 文
太 岡 文 禾 兼 文
太 岡 文 昌 靜 間
太 岡 隆 太 岡

本科第一年生

佐藤富三三重
蒲生悟福岡
山本武夫岡山
戸田貞次郎福岡
竹原傳福岡
山代泰鹿兒島
大川恂東京
宇原宜山口
安東貫一巖手
菊澤清孝東京
松葉重隆秋田
石塚純一茨城
淺川周東京
輪隆長野

塚	三	枝	廣	作	靜	岡
原	和	田	節	三	福	井
川	市	川	晴	三	佐	賀
廣	酒	井	宮	吉	岐	阜
二	久	保	田	三	東	京
岡	保	輔	信	佐	京	國
山	勤	輔		賀		
	兵	生				
	庫					

四ノ組(四十八人)

外山一造 東京
丹羽顯忠 東京
竹内實三重
遠藤文一郎 宮城
田島和歌山
柴山正文 東京
御前綱一
並河正人 熊本
湯川萬壽夫 千葉
大竹義雄 岐阜
藤田義信 東京
鳥居惣太郎 大阪
正木乾一 岐阜

佐藤德之助	宮城
樸科生	
吳周吳鼎	昌清國
三ノ組	臣清國
(四十五人)	英清國
元木悌治	德島
小山内嘉武	青森
福本好松	廣島
大谷清記	山口
金山福松	東京
神戸正樹	岐阜
志田德治	靜岡
八木澤誠	三郎柄木

兒	林	百	合	松	山	口
石	井	讓	群	馬		
川	口	正	雄	三	重	
長	尾	長	太	郎	兵	庫
內	九					
村	木	竹	次	郎	三	重
馬	淵		隣	治	鳥	取
菊	池		富	強	福	島
國	島		彥	東	京	
橋	本		彥	北	海	道
松	尾		大			
篠	崎		分			
上	野					
信	二					
	神奈					

三郎	島根	榮	織錦	小山	増	三	東京
一岐阜	準	田	藤	田	部	ト	藤
埼玉	直輔	木	木	部	田	山	小
岐阜	輔	庸	谷川	敏	奥	山	小
香川	次郎	徳	更	之	田	增	三
愛媛	佐賀	澤	太郎	東京	奥	三	郎
佐賀	雄	金	井	谷川	田	山	島
神奈川	三郎	崎	勇	更	部	部	根
東京	佐賀	原	三	太郎	田	ト	織錦
長野	健三	田	治	三郎	達	木	榮
		山	山	井	井	木	三郎
		治	治	勇	勇	庸	島根
		三	三	三	三	庸	島根
		郎	郎	郎	郎	輔	島根
		神奈川	佐賀	佐賀	佐賀	次郎	織錦
		東京	東京	東京	東京	次郎	三郎
		長野	長野	長野	長野	三郎	島根

高木正三廣島
繁谷脇清作高知
繁山理群馬
小宮山金次郎長野
青柳忠山梨
戸田盛次岡山
加藤新一愛知
小林信雄兵庫
松本重治富山
大原盛枝靜岡
佐波修東京
田中健三岐阜
岡田富太郎東京
岡部繁治東京

河	野	通	器	熊	本
大	野	義	一	鹿兒島	
木	內	隆	三	千葉	
岩	谷	謙	三	島根	
加	納	利	貞	岐阜	
田	中	熊	造	福岡	
關	平	助	長	野	
壺	井	一	郎	岡	山
井	爪	丞	次		
若	井	庄	三		
阿	部	吟	次		
須	之	内	郎		
龜	田	啓	愛		
田	甚	次	媛		
一	柄				
木					

豫科

田 直 治 富 山
村 泰 次 郎 東 京
馬 善 熊 鹿 島
阪 英 太 山 口
口 均 一 長 野
一 ノ 組 (五十七人)

島田 鐵四郎 楠木
小木曾誠 一長野
宮本 均 一東京
秦野 龜之助 東京

娟 撰
錢 科
懋 生
勛 喜
清 熊
國 本

田島正雄奈良
佐藤雄三郎秋田
原清一神奈川
寺田虎次郎新潟
新谷専太郎北海道
井内彦四郎高知

魚津要介
森 乘本萬吉熊本
長島亥之助柄木村一郎柄木
小川正謹京都
吉田幸夫熊本

川端 滋 北海道
渡邊 米治郎 千葉
伴木 秀山口
植了 藏新潟
戸梶義正高知
澤田仁太郎 北海道

永井眞吉愛知

山田貞雄新渴

東條義雄 東京

曾 樂清國
張 競 立 清國
會 樂清國
六ノ組(四十九人)
中村謙三 滋賀
三雲勝次郎 京都
土金規 平柄木
久保博千 葉
高橋政和 歌山
市川牧之助 長野
白石喜太郎 高知
相川貞吉 埼玉
土屋計左右 神奈川

安島立夫 茂城
日比野六之助 東京
生明市太郎 神奈川
柳原民治 秋田
石川陽三 東京
伊奈隨吉 東京
西内敏馬 高知
山内保彦 靜岡
岡本素助 神奈川
戸田信太郎 東京
小林正一郎 東京
加藤藤太郎 香川

池田	秀雄	東京
舟木	重義	東京
奥村	輝光	兵庫
桂城	太郎	鳥取
菊池	直助	宮城
上田	陽徳島	
小宮山敬保	東京	
佐藤彦四郎	群馬	
河野泰助	鹿兒島	
肥田規矩	岐阜	
岡政雄	兵庫	
松		

加藤	林	作	神奈川
倉橋	一雄	福井	
水島	津三郎	神奈川	
足立	治美	大分	
井上	梓	熊本	
伊東	祐吉	北海道	
中村	賢司	東京	
村田	春重	東京	
中村惣太郎	大阪		
稻毛正一郎	廣島		
西永義文	廣島		
丸山精四郎	新潟		
龜岡精二	茨城		

岡野文三郎 東京
水野謙次郎 東京
速水量平三重
中村善之助三重
則武貞吾岡山
椎塚武雄東京
崎元爲幸鹿兒島
宮本愿一靜岡
満山俊八福島
長砂直視鳥取
六所靜一靜岡
前島詳三和歌山
横道金一郎兵庫

白田平三郎長野
小泉榮次柄木
荒木直躬福島
遠藤正三郎岩手
市川真次郎岐阜
碇忠治東京
木下榮一郎愛媛
相部善二郎福岡
矢野良一三重
永島保治東京

撰科生

錫

弘韓國

喆

韓國

石黑武松石川

郁韓國

奎

韓國

太香川

長島安平埼玉

健三東京

林俊雄福井

近藤岡

小川錦重郎

市岡

石沼田

島村慶三郎

木村豐

桑原毅夫

野中常三郎

木村豊

木村慶

齋

藤

秀

一

東京

本多

壽

雄

長崎

渡邊

山

重

義

神奈川

安田

源右衛門

石川

柘

山

北野

道三郎

大

阪

外山

傳三郎

新潟

宇治

庄次郎

大阪

儀

造

佐賀

佐藤上

佐藤達

佐藤是

佐藤助

佐藤福

佐藤千葉

佐藤虎

佐藤雄

佐藤東京

全高文文金
三ノ組(×四十七人)
佐藤昌乃
佐藤容奎
佐藤根郁
佐藤達韓
佐藤上宮城
佐藤是福島
佐藤勇青森
佐藤虎千葉
佐藤辨青森
佐藤藏東京
佐藤光東京
佐藤語東京
佐藤顕西清國
佐藤穎西清國
佐藤生霍

川皆江鋪

戸瀬彦

桂井猪

依田高

藤助鼎

池信廣

加藤京都

信太郎

河内

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

林魯兆

池上又

木合

木橋

高山

草野

岩村

高橋

渡邊敬造	關野九郎	埼玉
森島善一郎	岡山	本健治
東川義房	福島	高知
成田文雄	宮城	佐久間國平
園田忠雄	鹿兒島	愛知
柏原尙志	鹿兒島	五十嵐光吉
河勉	木	柳本
太田良輔	大阪	東京
高木貞吉	岡山	佐伯忠雄

森田珍太郎三重
柏原榮東京
太田柯吉東京
中村卓三石川
上村英之助和歌山
萩原元廣長野
延原今二岡山
水野達夫愛知
高木與次郎福井
服部連三福島
石渡眞之助東京
江川景吉高知
太田道和神奈用

馮裕芳	清國	李志敏	清國
宋希綱	清國	劉志清	國
六ノ組	(四十五人)	元吉光	大千葉
川喜多忠義	東京	和田實	長野
元吉光	大千葉	和田三郎	東京
和田三郎	東京	武田正巳	福井
小平省三	長野	武田正巳	福井
土屋熙三	東京	細田善三	新潟
善三	新潟		

高澤	井澤	武雄	新茨城
鎌田	憲夫	香川	鹿兒島
是枝	正彦		
川辺	昌徳	長崎	
星野	一郎	愛知	
沖田	由高	如	
戸田	撫新潟		
白根	郎廣島		
松田	竹藏山形		
氏福	只治長崎		
石井	俊雄佐賀		
平松	連太郎		
連太郎	福井		

村	井	俊	二	山	口
桑	久	保	俊	次	柄
河	野	宗	太	郎	宮
菅	沼	邦	彥	靜	岡
撰	科	生			
文	胡	謝	陳	國	漢
	起			清	清
			胎	藤	國
			永	彦	清
				清	國
			柱	清	
			岐	國	
五	ノ	組	(四十五人)		
長	野				
土	師				
嚴	田				
士	盛				
井	貞				
	鹿兒島				

高野久治福井
星崎勤一靜岡
小山茂志三長野
島田恒吉栃木
横山直治新潟
德富直倫山口
二宮丁三群馬
岩手嘉雄東京
内山旦三東京
原手嘉雄東京
松島文衛群馬
栗原和吉福島
武藤光東京

松下吉衛根
小林覺三郎島根
中村清太郎東京
大西榮三郎愛媛
坦田德造愛知
曾我進三郎新潟
蒔田基彥東京
長尾隆治福岡
平泉良三山形
北村民也佐賀
井上宗助福岡
服部龜次郎東京
田中七之助東京
田中海三兵庫

藤田良茨城、長嶺竹二郎茨城、梨本信吉東京、瀧義郎愛知、河鰐達夫東京、野口運平栃木、野間薦廣島、北浦虎一東京、松浦虎一東京、森下勝助愛知、中島憲三和歌山、中瀬村雄佐賀

足	助	茂	喜	長	野	
本	館	次	郎	岩	手	
藤	澤	省	三	大	分	
杉	山	登	神	奈	川	
善	甫	正	三	山	口	
熊	谷	繁	美	長	野	
高	見	喜	之	助	京	都
鳴	志	田	健	吉	茨	城
米	澤	靖	福	井		
木	本	豐	大	分		
與	倉	守	治	東	京	
宇	井	勇	之	助	千	葉
藤	田	貞	二	富	山	

伊藤郁三郎
吉岡米四郎
清水佐助
坂井伊四郎
尾古錄爾
榎本初五郎
川俣義一
加賀正太郎
伊賀尙太郎
片中原敬
姥毅高知
千葉鳥取

中井久多郎	東京	内田佳雄	静岡
新井一郎	東京	小林百代	埼玉
齋藤和三郎	神奈川	吉成鐵	雄橋木
伊東小一郎	北海道	松本才一郎	石川
田中昌司	靜岡	斎藤和三郎	神奈川
羅羅作	民清國	吉成鐵	雄橋木
七ノ組	(四十三人)	新井一郎	東京
松井清治郎	京都	小林百代	埼玉

		種別		組別		計	
		一ノ組	二ノ組	三ノ組	四ノ組	五ノ組	六ノ組
豫合	本科	專攻部	第二年	第一年	第三年	第二年	第一年
科	計						
三六三	五六七	一〇△	○	一六			
二二二	四六	七八五	五八				
二二六	四五	四五七	五九				
二三四	四三	四八	七八五	五八			
九三五	四四八	四五	四五八	五八			
四九五	四五九	四五	四五九	四九			
四三三	四四	四三	四三	四三			
四一二	四四	四二	四二	四二			
一三〇七	三六八	二三〇六	二九〇四	二八三	二三四	二二〇	一六

學生生徒科別及年級表
〔明治四十年十月十日調〕

(明治四十年十月十日調)

學生生徒年齡表
(明治四十年十月十日調)

學生生徒年齡表 (明治四十年十月十日調)

學生生徒府縣別表
(明治四十年十月十日調)

備考 平均トハ最大最小ノ平均ニアラズシテ各級人員ノ平均ナリ

學生生徒府縣別表

百二十一

三	奈	柄	茨	千	群	埼	新	長	兵	神	大	京	東、京
重	良	木	城	葉	馬	玉	潟	崎	庫	奈	阪	都	
							一	二					五
六		一	一	一		一	四	一	六	五	二	三	一七
二		三	三	四	七	四	二	三	五	二	四	六	六六
四	三	五	二	九	五	五	九	七	一〇	三	六	五	四八
七	一	八	五	六	三	四	三		九	二	四	六	四八
七	一	一	八	二	七	七	二	六	七	一六	六	八	七六
二六	五	二八	二八	三二	三一	三三	五一	一七	三八	三八	二三	二八	二六〇

四十一

住友銀行	商學士	加賀覺次郎	東京
東京高等商業學校	商學士	茂木英雄	板木
山口高等商業學校	商學士	蒲生保鄉	長崎
日本郵船株式會社	商學士	安田繁三郎	岐阜
帝國海上保險株式會社(神戶支店)	商學士	三宅龜三郎	大阪
日本郵船株式會社(門司支店)	●商學士	三鬼金太郎	東京
西川商會(神戶支店)	矢村克	愛媛	東京

同三十二年專攻部卒業(十二人)

商學士	村井善次郎	岩手
東京高等商業學校	商學士	瀧本美夫
大倉商業學校	商學士	和歌山
三菱合資會社(長崎造船所)	商學士	飯田庸治
(三井物產合名會社(大阪出張所))	商學士	城戸崎廣

同三十四年專攻部卒業(十三人)

海外留學	商學士	三浦新七	山形
日本銀行	商學士	古川銀次郎	滋賀
日本領事館	商學士	津田五郎	福島
長崎高等商業學校	商學士	中村改田	長崎
小林ライオン・歯磨	商學士	神谷市太郎	兵庫
東亞同文書院	商學士	根岸信	和歌山

横濱正金銀行(倫敦支店)	商學士	山内健吉	岐阜
商學士	藤本改辻	德治秋田	
株式會社臺灣銀行	商學士	鎧谷一郎	山形
大阪セメント株式會社	●商學士	石渡映三	神奈川
自家營業	商學士	安藤兼三郎	東京
日本銀行	商學士	青地玄三郎	東京
日本製糖株式會社	商學士	小澤新之輔	東京
海外遊學	商學士	小泉新兵衛	滋賀
東京高等商業學校	商學士	上田貞二郎	東京
淺野セメント合資會社(門司支店)	商學士	堀光龜	長崎

同三十五年專攻部卒業(十七人)

日本銀行	追試驗	伯林	日本大使館
久留米市立久留米商業學校	商學士	古林喜代太	福岡
大倉商業學校	商學士	水野重也	山形
日本銀行(門司支店)	商學士	和田瑞高知	
愛媛縣立八幡濱商業學校	商學士	切田太郎	岩手
(三井物產合名會社(スラバヤ支店))	商學士	出淵勝次	東京
横濱正金銀行(香港)	商學士	鈴木萬壽雄	兵庫

同三十六年專攻部卒業(二十五人)

神戸高等商業學校	商學士	田 村 信 生	東京	日本郵船株式會社	商學士	岡 部 喜 三 郎	岡山
長崎高等商業學校	商學士	渡 部 明 島 根		自家營業	商學士	植 竹 龍 三 郎	桜 木
奉天	商學士	鎌 田 馨	香 川	(日本海上運送火災)	商學士	八 十 島 豊 作	福 井
日本領事館	商學士	井 浦 仙 太 郎	東 京	保險株式會社	商學士	岡 田 亮 一	岡 山
立 大阪高等商業學校	商學士	太 田 喜 平	靜 岡	志岐組(神戶支店)	商學士	北 代 真 幸	高 知
市 大阪高等商業學校	商學士	武 田 信 一	北 海 道	上海海關	商學士	水 出 良 造	山 形
立 早稻田大學	商學士	吉 田 良 三	高 知	大倉商業學校	商學士	田 尻 常 雄	熊 本
在 純 育	商學士	坂 本 勉	神奈川	萬歲生命保險株式	商學士	中 越 正 彰	石 川
日本製茶輸出商會	商學士	田 中 一 馬	京 都	市 大阪高等商業學校	商學士	棗 田 藤 吉	廣 島
大阪商船株式會社	商學士	三 宅 松 之 助	大 阪	(大阪支店)	商學士	增 田 恒 藏	東 京
(大阪支店)	商學士	田 中 一 馬	京 都	(東京支店)	商學士	神奈川	
京都株式會社	商學士	瀧 田 傳 吉	福 島	上海海關	商學士	神 精 三	東 京
銀行(大阪支店)	商學士	井 田 侍 郎	神奈川	日本郵船株式會社	商學士	中 越 正 彰	石 川
上 海 三井洋行	商學士	大 久 保 一 男	茨 城	熊本縣立商業學校	商學士	田 尻 常 雄	熊 本
帝 國鐵道廳	商學士	川 島 改 中 村 信 一	木	熊本縣立商業學校	商學士	中 越 正 彰	石 川
自 家 營 業	商學士	大 久 保 一 男	茨 城	熊本縣立商業學校	商學士	增 田 恒 藏	東 京
				熊本縣立商業學校	商學士	神奈川	

同三十七年專攻部卒業(十九人)

神戸高等商業學校	商學士	左 右 田 喜 一 郎	神奈川
神 戸 高 等 商 業 學 校	商 學 士	坂 西 由 藏	兵 庫
濱 谷 良 英	商 學 士	藤 本 幸 太 郎	三 重
愛 知			
和 歌 山			
日 美 銀 行	商 學 士	尾 崎 淳 盛	東 京
東 亞 同 文 書 院	商 學 士	中 川 精 吉	東 京
熊 本 縣 立 商 業 學 校	商 學 士	鈴 木 孫 彥	鹿 舞
濱 澤 倉 库 部	商 學 士	間 文 助	岐 阜
古 河 鑄 業 會 社	商 學 士	川 上 賢 三	東 京
日本郵船株式會社	商 學 士	渡 邊 水 太 郎	東 京
日本郵船株式會社	商 學 士	齋 藤 福 之 助	東 京
古 河 鑄 業 會 社	商 學 士	曾 根 傳 愛	媛
自 家 營 業	商 學 士	須 賀 幸 太 郎	群 馬
日本銀行	商 學 士	山 崎 馨 一	神奈川

同三十八年專攻部卒業(二十四人)

統監府	商學士	池 邊 龍 一	長崎	高田商會	商學士	濱 谷 良 英	愛 知
日本郵船株式會社	商學士	阿 部 萬 平	德 島	日英銀行	商學士	濱 口 四 郎	和 歌 山
(横濱支店)							
合名會社三井銀行	商學士	小 野 幸 三 郎	岩 手	東 亞 同 文 書 院	商學士	中 川 精 吉	東 京
日本銀行	商學士	關 根 善 作	埼 玉	熊 本 縣 立 商 業 學 校	商 學 士	鈴 木 孫 彥	鹿 舞
(大阪出張店)	商學士	小 泽 泰 一	東 京				
日本郵船株式會社	商學士	小 石 井 信 德	島				
古河鑄業會社	商學士	坂 本 陶 一	東 京				
日本郵船株式會社	商學士	坂 本 宗 藏	岩 手				
山口高等商業學校	商學士	坂 本 陶 一	東 京				
日本郵船株式會社	商學士	坂 本 宗 藏	岩 手				
日本郵船株式會社	商學士	坂 本 宗 藏	岩 手				
京都烟草販賣所	商學士	草 間 伊 太 郎	東 京				
天津義大洋行	商學士	田 村 秀 實	高 知				
住友銀行	商學士	田 中 信 吉	京 都				
日本銀行	商學士	大 平 賢 作	新 潟				
漢 口	日本領事館	商學士	山 崎 馨 一	神奈川			

東亞同文書院 商學士 森川一甫 福井

日本銀行

商學士

布能平次郎

山梨

追試驗

(明治三十八年分)

日本銀行

商學士

富澤清明

新潟

立早稻田大學

商學士

江原辰之助

群馬

上海三井洋行

商學士

野原徹輔

長野

橫濱正金銀行(神戶支店)

商學士

武藤長藏

北海道

長崎高等商業學校

商學士

天津三井洋行

北海道

立明治大學

商學士

武田英一

北海道

新田帶革製造所

商學士

佐々木信夫

東京

三井合資會社(門司支店)

商學士

澤野通太郎

靜岡

牧野英次郎商店

商學士

藤本恕一郎

大分

合資會社陸井商店

商學士

陸井幸平

愛知

高羽秀吉

商學士

大阪

横濱火災運送信用保険株式會社

商學士

横山正躬

高知

山西圓次郎

商學士

山西圓次郎

香川

日本銀行

商學士

齋藤善三郎

愛知

追試驗

商學士

小山英之助

神奈川

合名會社村井銀行

商學士

津田秀雄

京都

合名會社

追試驗

商學士

矢崎恒藏

山梨

日本銀行

商學士

横山貴一

愛知

同四十年專攻部卒業

商學士

加藤精一

埼玉

山西醸造所(釜山)

商學士

山西圓次郎

香川

日本銀行

商學士

片岡音吾

岡山

横濱正金銀行

商學士

津田辰雄

東京

日本銀行

商學士

横山貴一

愛知

同四十年專攻部卒業

(明治三十九年分)

商學士

藤田辰雄

東京

日本銀行

商學士

阿部重兵衛

宮城

同四十年專攻部卒業(二十一人)

(席次ハ專修科目)

商學士

三井物產合名會社

(カルカッタ支店)

日本銀行

商學士

横濱正金銀行

合名會社

同四十年專攻部卒業

(二十二人)

(席次ハ專修科目)

商學士

長崎高等商業學校

日本銀行

商學士

三井物產合名會社

合名會社

同四十年專攻部卒業

(二十二人)

(席次ハ專修科目)

商學士

日本銀行

日本銀行

商學士

三井物產合名會社

合名會社

同四十年專攻部卒業

(二十二人)

(席次ハ專修科目)

商學士

日本銀行

日本銀行

商學士

三井物產合名會社

合名會社

同四十年專攻部卒業

(二十二人)

(席次ハ專修科目)

商學士

日本銀行

日本銀行

商學士

三井物產合名會社

合名會社

同四十年專攻部卒業

(二十二人)

(席次ハ專修科目)

商學士

日本銀行

日本銀行

商學士

三井物產合名會社

合名會社

同四十年專攻部卒業

(二十二人)

(席次ハ專修科目)

商學士

日本銀行

日本銀行

商學士

三井物產合名會社

合名會社

同四十年專攻部卒業

(二十二人)

(席次ハ專修科目)

商學士

日本銀行

日本銀行

商學士

三井物產合名會社

合名會社

同四十年專攻部卒業

(二十二人)

(席次ハ專修科目)

商學士

日本銀行

日本銀行

商學士

三井物產合名會社

合名會社

同四十年專攻部卒業

(二十二人)

(席次ハ專修科目)

商學士

日本銀行

日本銀行

商學士

三井物產合名會社

合名會社

同四十年專攻部卒業

(二十二人)

(席次ハ專修科目)

商學士

日本銀行

日本銀行

商學士

三井物產合名會社

合名會社

同四十年專攻部卒業

(二十二人)

(席次ハ專修科目)

商學士

日本銀行

日本銀行

商學士

三井物產合名會社

合名會社

同四十年專攻部卒業

(二十二人)

(席次ハ專修科目)

商學士

日本銀行

日本銀行

商學士

三井物產合名會社

合名會社

同四十年專攻部卒業

(二十二人)

(席次ハ專修科目)

商學士

日本銀行

日本銀行

商學士

三井物產合名會社

合名會社

同四十年專攻部卒業

(二十二人)

(席次ハ專修科目)

商學士

日本銀行

日本銀行

商學士

三井物產合名會社

合名會社

同四十年專攻部卒業

(二十二人)

(席次ハ專修科目)

商學士

日本銀行

日本銀行

商學士

三井物產合名會社

合名會社

同四十年專攻部卒業

(二十二人)

(席次ハ專修科目)

商學士

日本銀行

日本銀行

商學士

三井物產合名會社

合名會社

同四十年專攻部卒業

(二十二人)

(席次ハ專修科目)

商學士

日本銀行

日本銀行

商學士

三井物產合名會社

合名會社

同四十年專攻部卒業

(二十二人)

(席次ハ專修科目)

商學士

日本銀行

日本銀行

商學士

三井物產合名會社

合名會社

同四十年專攻部卒業

(二十二人)

(席次ハ專修科目)

商學士

日本銀行

日本銀行

商學士

三井物產合名會社

合名會社

同四十年專攻部卒業

(二十二人)

(席次ハ專修科目)

本科卒業生及其就職ノ場所

三井物産合名會社(孟賣支店)	間 島 與 喜 新 潤
同十五年卒業(四人)	
● 田邊次郎一 静岡	帝國鐵道廳
● 村上 祐岡山	安藤高太郎 東京
株式會社第一銀行	篠 有道 茨城
合資會社六工社	福井菊三郎 東京
同十六年卒業(十人)	
三井物産合名會社(倫敦支店)	名倉竹次郎 東京
日本郵船株式會社(神戶支店)	大野市太郎 福岡
市立下關商業學校	三 戸 得 一 山 口
大垣市立大垣商業學校	一ノ瀬 鎌之助 京都
自家營業	植野繁太郎 大分
	朝比奈庸吉 静岡
● 長野源太郎 東京	田 中 元 雄 新 潤
新 井	佐 藤 鐵 三 新 潤
齋藤軍八郎 新 潤	羽 生 久 安 東京
新 井	貢 群 馬
堀越善重郎 栃木	

長春日本領事館	商學士 川島信太郎 京都
商學士 國 松 豊愛媛	
追試驗	明治十年卒業(七人)
自家營業	森島修太郎 東京
三井同族會事務局	成瀬隆藏 靜岡
紐育スタンダード オイル會社(東京支店)	隈本榮一郎 長崎
自家營業	内村恒之 東京
● 山口甫吉 静岡	中川榮吉 東京
米國人	アルド・ジョージ・エーパーク
同十一年卒業(一人)	
● 松下道久 千葉	同十二年卒業(一人)
高田商會	倉西松次郎 廣島
自家營業	● 鈴木熊太郎 宮城
同十四年卒業(四人)	坂本良五 東京
高田商會	● 鈴木久孝 福島
同十五年卒業(一人)	
△印ハ専攻部卒業 *印ハ舊研究科 △印ハ専攻部在學中 △印ハ死亡者ナリ	三義合資會社(長崎造船所) 商學士 志摩清一郎 東京
合計	舊研究科卒業生 一人
● 專攻部卒業生	百六十三人

自家營業	原口松次郎佐賀	カナダサン保険會社	新井謹三東京
兵庫縣立神戶商業學校	●來島久祐山口	合名會社大倉組	田口義三郎東京
株式會社草野銀行	小倉鈴之助愛知	明治火災保險株式會社	原錦吾東京
中央洋紙箱製造株式會社	草野安吉福岡	紐育スタンダード石油會社	藤瀬政次郎長野
日本紙箱製造株式會社	●鈴木鉢作千葉	三井洋行(上海)	西川一平大阪
大日本麥酒株式會社	須藤壯一郎東京	岡田水澤爾替店	北村七郎佐賀
原合名會社	●陶山興一島根	三井物產合名會社(橫濱支店)	西川一平大阪
日本郵船株式會社	松丸七郎東京	横濱正金銀行	●朝比奈孝重東京
小要商店	藤田鉢之助東京	高木鐵太郎埼玉	久原房之助大阪
●佐々木要一廣島	●依田貫一山梨	●松尾尾次新潟	●朝比奈孝重東京
●中山三保太郎神奈川	高杉東一山口	株式會社丁酉銀行	佐々木虎太郎廣島
浦賀船渠株式會社	●澤野銀藏東京	株式會社廣島縣農工銀行	奥村忠三郎東京
三井物產合名會社(大阪支店)	●小林喜一新潟		
内國通運株式會社	●仁保寛三郎北海道		
鐵道國有準備局	●伊東雄次郎東京		
●岡野公藏石川	●四屋章之宮崎		
●水野專吉東京	須藤十二郎東京		
●兼子初太郎東京	●吉田貞太大分		
同二十年卒業(二十五人)	森田熊太郎東京		
●天城安政青森	梅田信五郎廣島		
●江口定條高知	丸岡久之助東京		
市立名古屋商業學校	春名鍊之助埼玉		
神戶高等商業學校	宇尾野藤八新潟		
自家營業	森島清一京都		

日本銀行	豊田幸二東京	神戶高等商業學校	東夷五郎長崎
浦賀船渠株式會社	澤野銀藏東京	●四屋章之宮崎	
三井物產合名會社(大阪支店)	●小林喜一新潟	須藤十二郎東京	
高野改	●中山三保太郎神奈川	●吉田貞太大分	
内國通運株式會社	●仁保寛三郎北海道	森田熊太郎東京	
鐵道國有準備局	●伊東雄次郎東京	梅田信五郎廣島	
●岡野公藏石川	●四屋章之宮崎	丸岡久之助東京	
●水野專吉東京	須藤十二郎東京	春名鍊之助埼玉	
●兼子初太郎東京	●吉田貞太大分	宇尾野藤八新潟	
同二十年卒業(二十五人)	森島清一京都	森島清一京都	
●天城安政青森	梅田信五郎廣島	●中川一郎長野	
●江口定條高知	丸岡久之助東京	富田勝三郎滋賀	
市立名古屋商業學校	春名鍊之助埼玉	宇尾野藤八新潟	
神戶高等商業學校	森島清一京都	●中川一郎長野	
三菱合資會社	那到郡立神縣湊商業學校	富田勝三郎滋賀	
三菱合資會社	株式會社新潟銀行	宇尾野藤八新潟	
市立名古屋商業學校	統監府(鐵道管理局)	●中川一郎長野	

市立甲府商業學校	村 松 孝一 千葉	井 上 英七郎 福島
高田商會	田 崎	坂 野 兼通 愛知
濱松町立濱松商業學校	● 松 田 好 生 熊本	三井鐵山合名會社(大阪支店銀 行部)
三井鐵山合名會社(三池炭 礦事務所)	● 小原右馬允 廣島	立 花 寛藏 岩手
● 田 中 增 次 郎 東京	● 岩 田 謙 三 郎 千葉	武 田 勝 太 郎 長崎
東京海上保險株式會社	● 各 务 謙 吉 岐阜	大倉商業學校
東京高等商業學校	● 下 野 直 太 郎 岐阜	三十四銀行(神戶支店)
● 宮 崎 律 三 群馬	● 高 橋 鈴 太 郎 東京	岡山縣立商業學校
● 駒 井 佳 三 郎 東京	● 稲 田 藤 次 郎 鳥取	有 郷 彥 九 郎 鹿兒島
● 田 村 實 千葉	● 五 島 廣 太 郎 東京	太 田 正 朝 愛媛
● 檀 本 謙 七 郎 埼玉	● 杉 村 優 之 助 三重	松 崎 萬 之 丞 千葉
● 田 村 實 千葉	● 田 村 實 千葉	立 花 寛藏 岩手
● 增 田 健 吉 東京	● 增 田 健 吉 東京	武 田 勝 太 郎 長崎
● 石 川 文 次 郎 愛知	● 石 川 文 次 郎 愛知	大倉商業學校

同二十一年卒業(二十一人)

東京海上保險株式會社

各務謙吉

岐阜

自家營業

檀本謙七郎

埼玉

榎本謙七郎

埼玉

立花寬藏

岩手

東京高等商業學校

下野直太郎

岐阜

宮崎律

三群馬

高橋鈴太郎

東京

三井物產合名會社

田村優之助

三重

田村優之助

三重

有郷彥九郎

鹿兒島

● 田中増次郎

● 岩田謙三郎

千葉

● 駒井佳三郎

東京

● 稲田藤次郎

鳥取

● 五島廣太郎

東京

● 田村健吉

東京

● 田村健吉

東京

鹿兒島

● 田中増次郎

● 岩田謙三郎

千葉

● 駒井佳三郎

東京

● 稲田藤次郎

鳥取

● 五島廣太郎

東京

● 田村健吉

東京

● 田村健吉

東京

鹿兒島

帝國鐵道廳	渡 邊 雄 男 長野
同二十三年卒業(四十人)	
東亞公司(上海支店)	祖 山 鍾 三 東京
東京海上保險株式會社(大 阪支店)	平 生 斧 三 郎 大阪
自家營業	農商務省
三井物產合名會社(橫濱支 店)	原 田 定 助 楠木
火災保險協會	佐 羽 總 太 郎 群馬
南滿洲鐵道株式會社	土 屋 豊 吉 新潟
萬歲生命保險株式會社	犬 塚 信 太 郎 東京
日本火災保險株式會社	● 龜 井 藤 重 玉
三井物產合名會社(大阪支 店)	林 幾 太 郎 大分
長谷川商會	河 村 良 平 石崎
合資會社櫻組製革所	中 井 秀 彌 東京

日本郵船株式會社(神戸支店)	山藤富次郎 東京
株式會社第一銀行	森田昌司 鹿兒島
原豐商會	尾高次郎 埼玉
汽車製造合資會社	中山壽郎 神奈川
自家營業	藤島重郎 秋田
自家營業	古坂久松 東京
私立岡崎商業學校	●小宮嘉朗 長野
●近藤金之助 東京	深澤勝次郎 東京
平田勝之助 鹿兒島	秋元駒太郎 埼玉
東京基督教徒青年會館	山下芳太郎 愛媛
同二十五年卒業(六十四人)	山本邦之助 島根
内閣	●野田健四郎 京都
東京基督教徒青年會館	田村八二兵庫
合名會社牛田棉行	長部松三郎 新潟
日本移民合資會社	●小西元三郎 愛媛
三井物產合名會社	河合梅三郎 兵庫
帝國鐵道廳	近藤秀太郎 静岡
本科卒業生及其就職ノ場所	辻朋吉 神奈川
	●小林直太郎 東京
	松野徳哉 岐阜
	堀富太郎 福岡
	吉崎孝一 東京

内外絲株式會社	武居綾藏 長野
三井物產合名會社(神戸支店)	淺野長七 千葉
三井物產合名會社(紐育支店)	岩下清朝 長野
高田商會(倫敦支店)	柳谷巳之吉 長野
メーリン商會	金子量太 千葉
三菱合資會社(漢口支店)	三宅川百太郎 愛媛
横濱正金銀行(孟賣支店)	豊田隆吉 東京
自家營業	兒玉謙次 東京
自家營業	春田助太郎 大阪
日本郵船株式會社(倫敦支店)	中郁得三郎 大分
横濱正金銀行(遼陽出張所)	上坂田 部七郎 滋賀
(ジャーシー・マジソン商會)(臺灣在勤)	豊田部七郎 滋賀
●中田豊吉 福岡	春田助太郎 大阪
有馬組	須永達 静岡
明治製糖株式會社	小平濱次郎 栃木
合名會社三井銀行	武田信一 岐阜
市立高岡商業學校	石橋多喜郎 静岡
汽車製造合資會社(漢口支店)	大原春次郎 新潟
自家營業	保坂京三郎 東京
三井礦山合名會社(三池炭礦事務所)	若杉米太郎 長崎
日本銀行(小樽出張所)	高木辰男 岐阜
福岡市立福岡商業學校	露木初太郎 東京
●鹿野太一 石川	关口積一郎 静岡
	太田徳次郎 福岡

岩上合名會社	柿原定吉 埼玉
明治火災保險株式會社(神戶支店)	中村米吉 千葉
三菱合資會社	水澤謙次群馬
自家營業	●野田健四郎 京都
合名會社牛田棉行	田村八二兵庫
日本移民合資會社	長部松三郎 新潟
三井物產合名會社	●小西元三郎 愛媛
帝國鐵道廳	河合梅三郎 兵庫
本科卒業生及其就職ノ場所	近藤秀太郎 静岡
	辻朋吉 神奈川
	●小林直太郎 東京
	松野徳哉 岐阜
	堀富太郎 福岡
	吉崎孝一 東京

衆議院議員	淺野陽吉福岡
日本防腐木材株式會社	藤岡改西宮九二三愛媛
横濱正金銀行	平田恒太郎山口
臺灣總督府	松本平太郎石川
三井物產合名會社(新嘉坡支店)	林德太郎愛媛
株式會社	大友泰一郎宮城
三菱造船所	原田芳太郎岡山
兵庫縣立神戶商業學校	加藤正生茨城
三井物產合名會社	小林政雄山形
自家營業	田中新之助東京
高森商店	中野要藏東京
日本皮革株式會社	近藤千吉京都
合名會社大倉組(漢口支店)	山田萬里四郎東京
●諸井孝次郎埼玉	
同二十六年卒業(三十七人)	八木孝助新潟
積善組合(新潟)	●山形安次郎滋賀
三井物產合名會社	加地利夫山形
東京高等商業學校兼文部省	一東京
堀越商會	●御木本改御酒本德松三重
紐育スタンダード石油會社	井上金次郎東京
青柳改	大瀧龍五郎山形

横濱正金銀行(長春出張所)	工藤金三郎東京
北海道炭礦汽船會社	佐藤清太郎茨城
長屋改	田中庄三郎廣島
自家營業	平田鈴吉岐阜
岐阜市立岐阜商業學校	鍋鳥熊太郎佐賀
永平豊吉福井	
同二十六年卒業(三十七人)	八木孝助新潟
積善組合(新潟)	●山形安次郎滋賀
三井物產合名會社	加地利夫山形
東京高等商業學校兼文部省	一東京
堀越商會	●御木本改御酒本德松三重
紐育スタンダード石油會社	井上金次郎東京
青柳改	大瀧龍五郎山形

近松文三郎滋賀	東京高等商業學校	關信藏山形
品川煉瓦株式會社	郷隆三郎千葉	
三井物產合名會社(神戶支店)	武村貞一郎東京	
高島屋(東京出張所)	松本武雄東京	
●佐藤鞠也東京	河邊勝茨城	
本部改	杉岡田源吉福井	
西園寺龜次郎愛媛	星野太郎靜岡	
原合名會社	境竹次郎福井	
中島保之介商店	●山口正利山形	
石狩石炭株式會社	青山孝太郎愛知	
下河内十二藏廣島	矢野義弓東京	
原文次郎東京	百田改	
桑田鶴吉埼玉	大井益吉神奈川	
古見眞熊神奈川	鹿野清次郎山形	
石狩石炭株式會社	那霸區立那霸商業學校	
大阪市立大阪高等商業學校	横濱正金銀行(大連出張所)	
高田商會(倫敦支店)	太田保一郎兵庫	
日本醫油醸造株式會社	堺塚次郎埼玉	
高田商會(佐世保出張所)	樺山純一東京	
丸山改	田口禮五郎東京	
五十嵐藏三郎新潟	柿崎精一山形	

横濱正金銀行(東京支店) 岡村謙次郎 佐賀

日本石油株式會社所屬(新瀬鐵工所) 森泰次郎 長崎

同二十七年卒業(四十二人)

* 福田徳三 東京

野澤屋紐育出張

濱澤事務所

市立金澤商業學校

自家營業

倫敦日本總領事館

合名會社大倉組(上海支店)

仁川理事廳

三井物產合名會社(口ノ津支店)

神戶高等商業學校

三井物產合名會社(横濱支店)

● 山川駐七郎 北海道

桑港日本領事館

日本石油會社共同販賣所

佐賀市立佐賀商業學校

住友銀行(神戸支店)

日本領事館

明治生命保險株式會社(岡山支店)

● 大山卯次郎 德島

久保井鉄之助 北海道

橋本啓三郎 兵庫

渡邊久太郎 石川

田中二郎 福岡

杉山太助 東京

高坂乾之助 山形

三井物產合名會社

日本郵船株式會社(仁川支店)

横濱正金銀行(昂里支店)

日本郵船株式會社(大阪支店)

横濱正金銀行(東京支店)

日本郵船株式會社(新瀬鐵工所)

平尾德太郎 靜岡

日本郵船株式會社(横濱支店) 白井枻藏新潟

三菱合資會社(銀行部) 川添清磨高知

私立慶應義塾 芹澤伊作靜岡

長野恵太 東京

雨宮金護滋賀

小平道三郎 長野

伊藤純太郎 東京

南嘉市滋賀

大塚太平治岡山

大塚太平治岡山

佐野善作東京

佐野善作東京

木邨知四郎 三重

三井織山合名會社

帝國鐵道廳

帝國貿易合名會社

和田改楠目成俊高知

七海兵吉福島

相澤坦千葉

加福力太郎 東京

竹田量之助 京都

高野省三山形

村山長次郎 東京

太田有二 東京

自家營業	安宅彌吉	北海道
日本郵船株式會社(上海支店)	深野志磨	北海道
自家營業	岡崎久次郎	北海道
三井物產合名會社(大阪支店)	伊東祐次郎	神奈川
帝國鐵道廳	川畑敬太郎	京都
自家營業	日向利兵衛	大阪
株式會社第十二銀行(富山支店)	山村爲介	富山
三井物產合名會社(龍勃支店)	吉富璣一	山口
三井物產合名會社(桑港支店)	太田文一	東京
沼津町立沼津商業學校	丹勝吾愛媛	茨城
日本領事館	● 救使河原欽哉	長野
	梶浦豊吉	岐阜
	高橋德治	宮崎
● 平井鈴太郎	崎玉	
大阪市立大阪高等商業學校	安場禎次郎	大阪
高田商會(大阪支店)	高橋德治	宮崎
株式會社神奈川縣農工銀行	杉田六藏	東京
橫濱火災運送保險株式會社	中司賴之助	山口
日本郵船株式會社	野間貞次郎	三重
自家營業	内海鑑吉	北海道
臺灣總督府(鐵道部)	中村庸美	山形
鐘ヶ淵紡績株式會社	平野貫一郎	長野
芝罘	大瀧岩次郎	山形
三井洋行	内海鑑吉	北海道
追試業	小林和介	廣島
横濱正金銀行(上海支店)	南滿洲鐵道株式會社	
	東亞煙草株式會社	
	日本銀行(大阪支店)	
	鐘ヶ淵紡績株式會社(京都支店)	
	明治生命保險株式會社(名古屋支店)	
	日本日清漁船株式會社(上海)	
	三井洋行	
	日本日清漁船株式會社(神戶支店)	
	森川鑑太郎	岐阜
	大熊篤太郎	東京
	栖原啓藏	和歌山
	河原林順次郎	滋賀
	須田鏡造	東京
	岩橋大六	和歌山
	川村桃吾	東京
	前川真平	愛知
	● 漢大防	三岡山
井	關鹿彥	東京
自家營業	石井健吾	東京
日本フランコル株式會社(上海支店)	立川愛吉	岐阜
高田商會(倫敦支店)	武田隆夫	山口
市立金澤商業學校	志保井重要	大阪
三井鑛山合名會社(神岡支店)	桃井	豁東京
日本領事館	松澤改	
横濱正金銀行(東京支店)	角谷藤三郎	北海道
メキシコ	矢田長之助	島根
東京倉庫械式會社(大阪支店)	堀内明三郎	長野
香港	河方鞆男	茨城
鐘ヶ淵紡績株式會社(兵庫支店)	吉岡信太郎	東京
	鹿野治三郎	岐阜
	百四十五	

新潟縣立新潟商業學校	飯野俊一	東京
大阪市立大阪高等商業學校	安場禎次郎	大阪
高田商會(大阪支店)	高橋德治	宮崎
● 平井鈴太郎	崎玉	
大阪市立大阪高等商業學校	安場禎次郎	大阪
高田商會(大阪支店)	高橋德治	宮崎
株式會社神奈川縣農工銀行	杉田六藏	東京
橫濱火災運送保險株式會社	中司賴之助	山口
日本郵船株式會社	野間貞次郎	三重
自家營業	内海鑑吉	北海道
臺灣總督府(鐵道部)	中村庸美	山形
鐘ヶ淵紡績株式會社	平野貫一郎	長野
芝罘	大瀧岩次郎	山形
三井洋行	内海鑑吉	北海道
追試業	小林和介	廣島
横濱正金銀行(上海支店)	南滿洲鐵道株式會社	
	東亞煙草株式會社	
	日本銀行(大阪支店)	
	鐘ヶ淵紡績株式會社(京都支店)	
	明治生命保險株式會社(名古屋支店)	
	日本日清漁船株式會社(上海)	
	三井洋行	
	日本日清漁船株式會社(神戶支店)	
	森川鑑太郎	岐阜
	大熊篤太郎	東京
	栖原啓藏	和歌山
	河原林順次郎	滋賀
	須田鏡造	東京
	岩橋大六	和歌山
	川村桃吾	東京
	前川真平	愛知
	● 漢大防	三岡山
井	關鹿彥	東京

本科卒業生及其就職ノ場所

横濱正金銀行(東京支店)	秋元朝銳	東京
横濱正金銀行(上海支店)	青木清太郎	東京
自家營業	春日恒太郎	長野
住友商店	柴山改	
貝島鐵業合名會社	小原景重	東京
三井物產合名會社(大阪支 店)	峙延吉廣島	
同三十年卒業(八十五人)	大森元夫愛媛	
大竹勝一郎	田中慶三郎	京都
森三郎	阿曾菊藏	福島
石川文吾	中島	
森廣藏	中島	
麻生商店	中島	
東虎二郎商店	中島	
東京高等商業學校	中島	
橫濱正金銀行	中島	
合資會社明治屋	河田龜松	大阪
日本郵船株式會社(橫濱支 店)	河田龜松	大阪
佐賀市立佐賀商業學校	安東二郎	福岡
日本郵船株式會社(神戶支 店)	羽田福太郎	東京
營口水道電氣鐵道株式會社 株式會社第一銀行(名古屋 支店)	田中都吉	京都
横濱正金銀行(大連支店)	田中都吉	京都
日本郵船株式會社(神戶支 店)	鈴木春樹	和歌山
長沼改	井上德治郎	岩手
高田恒次郎	三宅龜三郎	大阪
神成秀吉	武田恭爾	群馬
高田恒次郎	神成秀吉	福島
上海三井洋行	神成秀吉	福島

自家營業	栖原榮助	和歌山	× 小林行昌	長野
三井物產合名會社(安東縣支店)	大庭敏太郎	鳥取	内山吉五郎	東京
株式會社臺灣銀行	守永久米松	福岡	莊司乙吉	秋田
東洋汽船株式會社(橫濱支店)	宮崎道三	神奈川	石川明治	高知
東洋汽船株式會社(桑港支店)	× 有吉明	京都	エ、エ、ソンタイン社	大日本紡績聯合會
株式會社第一銀行(京都支店)	仙波正太郎	滋賀	檜山剛三	東京
古河鐵業會社	男爵中島久萬吉	神奈川	● 佐々木信夫	東京
合名會社大倉組(横濱出張所)	黒澤精次	東京	西本榮之助	鹿兒島
三井物產合名會社(札幌支店)	高久馨	北海道	高橋秀吉	千葉
山形縣中學校	手東謙吾	岡	安田繁三郎	岐阜
長崎市長崎商業學校	渡邊德太郎	山形	那波齊治	岐阜
高野復一	一東京		山本增雄	三重
自家營業	西本增雄		西尾改	
福州日本領事館	高橋秀吉		高橋秀吉	
兵庫縣立神戶商業學校	山脇貞亮		吉千葉	
住友銀行(東京支店)	外山一郎	島根	山田繁三郎	
長崎市長崎商業學校	鹿兒島		岐阜	
自家營業	佐々木信夫		佐々木信夫	
大日本紡績聯合會	原田國松		原田國松	
エ、エ、ソンタイン社	石川明治		石川明治	
大日本紡績聯合會	高知		高知	
庄司乙吉	秋田		秋田	
莊司乙吉	秋田		秋田	

長野長野市立甲種商業學校	鮫島愛之助	鹿兒島	博物館	山田靜三	秋田
長野長野縣立甲種商業學校	川口西三	新潟	× 三木正三郎	德島	
帝國海上保險株式會社	岩崎恒二郎	石川	帝國鐵道廳	川井運一	秋田
富士瓦斯紡織株式會社	川井讓	東京	立富山商業學校	× 兒島正一郎	愛媛
三井物產合名會社(シドニイ支店)	馬場玲藏	兵庫	三井物產合名會社(横濱支店)	野澤米太郎	新潟
三井物產合名會社(兵庫出張所)	蒲生保鄉	長崎	丸善株式會社	安齋誠太郎	福島
株式會社木場銀行	入江榮吉	香川	三井物產合名會社(横濱支店)	小柳津邦太	東京
高田商會(倫敦出張所)	× 矢村傳之助	東京	中山	千野郁二	東京
高軍省	× 三鬼金太郎	東京	× 牧	三良	長崎
合名會社三井銀行(神戶支店)	津村徹	廣島	永田益一	佐賀	
高松銅一	高松銅一	東京	若林源吉	東京	
瀧井瀧藏	瀧井瀧藏	奈良	伊藤金吉	東京	
高軍省	× 瀧井瀧藏	奈良			

茨城縣立商業學校

小野三平千葉

宮崎松之進高知

井手九郎佐賀

●井上茂太郎大分

井上哲神奈川

坂梨^{米吉改}哲福岡

×瀧本美夫和歌山

古谷甲次郎東京

●高橋邦次郎大阪

原澤由太郎東京

×津村秀松和歌山

×加賀覺次郎東京

片野實之助東京

×茂木英雄柄木

×高田信次郎東京

追試業

●清水安治福岡

●池内官三郎高知

中井錐太郎東京

×村井善次郎巖手

●羽倉信太郎東京

松田精一長崎

×内池廉吉福島

古郡良介東京

●大胡強茨城

三井物産合名會社(孟賣支)

中井銀行

店

三井物産合名會社(孟賣支)

合名會社三井銀行(横濱支)

店

三井物産合名會社(牛莊支)

張所汽船株式會社(横濱出

店)

●久野安雄東京

井上好德東京

水島信平靜岡

中村仁造山口

春田耕造東京

×中村藤一長崎

竹谷辰郎東京

山口誠一大阪

●參木雄四郎柄木

押本重平鳥取

上田英一京都

×窪川眞澄香川

×飯田庸治茨城

田中俊二郎香川

●岩間昌生愛媛

馬詰次男高知

藤田義雄愛媛

×溝口稻雄東京

×城戸崎廣三福岡

高橋鍵三東京

滋賀縣立商業學校

峻岐阜商業學校

川村德太郎東京

横濱正金銀行(紐育支店)

株式會社愛知銀行

明治火災保險株式會社

三井物產合名會社

今西龜藏東京

川村兼三郎東京

安藤兼三郎東京

×平尾丹治靜岡

本科卒業生及其就職ノ場所

三井物産合名會社(長崎支店)	増田壽一郎	東京	× 松村吉則 東京	京都市立商業學校	甲斐山留吉 福島
明治生命保險株式會社	佐藤適宮	城	大坂榮福井	横濱正金銀行(牛莊支店)	平本三平山梨
海軍省	淺野一男	東京	× 山口康治 長野	古河鐵業會社(足尾銅山)	加藤改 湯川兼吉 和歌山
海軍省	三段崎景之	山形	吉村徳之助 奈良	日本郵船株式會社(東京支店)	木下裕 東京
善隣商業學校(京城)	本宿家全	岩手	高柳節三	縣立愛媛松山商業學校	黑沼義介 岩手
明治生命保險株式會社	原廣太郎	東京	田島岩平	市立甲府商業學校	宮田千年 福岡
商業興信所(神戸支所)	山崎繁樹	東京	群馬	横濱正金銀行(龍動支店)	武内和吉 兵庫
日本郵船株式會社(大阪支店)	藤山銀造	滋賀	日本皮革株式會社	三井物産合名會社	松永長次 佐賀
日本郵船株式會社(長崎支店)	中村改 中田崎慎治	長崎	馬場崎	月島製綢株式會社	馬場崎治 佐賀
日清汽船株式會社	江原忠三	重	三浦新七	日本皮革株式會社	岩崎寅作 大分
	× 津田五郎	福島	山形	同三十二年卒業(六十四人)	
	森本啓太郎	東京	× 古川銀次郎	横濱正金銀行(倫敦支店)	五十嵐直三 静岡
牛莊稅關	中村改 中田崎慎治	長崎	滋賀	日本郵船株式會社(横濱支店)	× 三浦新七 山形
上海三井洋行	丹羽義次	愛知	× 小牧太次郎	鐘ヶ淵紡績株式會社(兵庫本店)	小松熊之助 高知
堀越商會(紐育支店)	堀光龜	長崎	兵庫	三井物産合名會社(名古屋支店)	山岸慶之助 東京
大阪商船株式會社(大連出張所)	深尾隆太郎	東京	× 武田近次郎	金井永吉	千葉
自家營業	中村郁次郎	群馬	兵庫	金井永吉	吉兵庫
三井物產合名會社	榎並英次郎	兵庫	× 山内健吉	糸村	東京
	野口健太郎	東京	岐阜	横竹平太郎	幹東島
三井物產合名會社(札幌支店)	根岸信和	歌山	× 藤本改 辻	小牧太次郎	鹿兒島
	平山寅次郎	廣島	西村喜作	横竹平太郎	新潟
			神奈川	山崎増二	

大阪商船株式會社	中川淺之助	東京
横濱正金銀行	津田五郎	福島
牛莊稅關	森本啓太郎	東京
上海三井洋行	中村改 中田崎慎治	長崎
堀越商會(紐育支店)	丹羽義次	愛知
大阪商船株式會社(大連出張所)	深尾隆太郎	東京
自家營業	中村郁次郎	群馬
三井物產合名會社	榎並英次郎	兵庫
	野口健太郎	東京
	根岸信和	歌山
三井物產合名會社(札幌支店)	平山寅次郎	廣島

合資會社尾崎商會	平瀬三七雄	大阪	株式會社帝國商業銀行	長崎竹十郎	鹿兒島
大阪商船株式會社(天津支店)	尾崎繼男	兵庫	× 青池玄三郎	東京	
三井物產合名會社(牛莊出張所)	柳田正太郎	柄木	吉田市喜作	東京	
自家營業	菅野與惣治	嚴手	吉田惠長	野	
株式會社臺灣銀行(香港支店)	藤堂大藏	三重	日本郵船株式會社	齊藤正島根	
合資會社尾崎商會	河手捨二	東京	三井物產合名會社(新嘉坡支店)	堀錄亮	愛知
三井洋行(天津支店)	市川芳雄	東京	大阪商船株式會社(香港支店)	吉山介山口	
有信洋行	野木和一郎	大阪	横濱正金銀行(里昂支店)	酒井健之助	和歌山
自家營業	銀屋慶之助	鹿兒島	大藏省	中山五郎	兵庫
× 石渡映三	神奈川		大藏省	中間寬	青森
			福島改	田野眞吉	山形
				鈴木孫彥	靜岡

三菱合資會社(銀行部)	細川修	三福井	兼松商店(シドニーワード支店)	前田卯之助	兵庫
住友銀行	齋藤謙	大分	堺越商會(紐育支店)	八十島樹次郎	愛媛
農商務省	横江勝	雄東京	住友銀行(門司支店)	園田改 鈴木謙三郎	兵庫
日本綿花同業會	吉田壽	信愛知	外內綿株式會社	荒川太逸	大阪
高島屋(倫敦出張所)	森川昭	太東京	× 和田瑞高	原口亮平	兵庫
米井商店	× 小澤新之輔	東京	× 浅井義闇	佐野和一郎	大阪
群山理事廳	中安改 立木	木築作	助川改 池本	× 三宅松之助	吉宮城
大阪商船株式會社	多久堯	純佐賀	× 上田貞次郎	佐野和一郎	東京
山內恕	永野改 小西	西壽作	× 出淵勝	× 貞次郎	長崎
岡山					

自家營業	松本真平	埼玉	日本銀行(門司支店)	賀集亮	二兵庫
大阪商船株式會社(上海支店)	山中千之	青森	× 吉田榮次郎	和田鉢藏	愛知
横濱正金銀行(北京支店)	村田省藏	東京	高田商會	小崎乙彥	東京
鹿子改	石丸素一大	分	柳本貞二	千葉	大坂商船株式會社(門司支店)
渡邊與七宮	重也	山形	● 本原忠興	勝東京	三重紡績株式會社
水野重也	山形		大田原一定	東京	支店) 鐘ヶ淵紡績株式會社(神戶
服部脩	二三重		山崎彌久太郎	高知	市立高松商業學校
井出			高島菊次郎	福岡	● 弘田守真高知
● 本原忠興	東京		● 井出	勝東京	平井國三郎
合名會社大倉組	東京		長崎高等商業學校	高知	鈴木萬壽雄
新潟新潟商業學校			新潟新潟商業學校		兵庫
● 本原忠興	東京		● 本原忠興	東京	大谷英一
● 本原忠興	東京		● 本原忠興	東京	福岡
● 本原忠興	東京		● 本原忠興	東京	和田鉢藏
● 本原忠興	東京		● 本原忠興	東京	愛知

日本鐵管製造所	中村準策	奈良	米井商店	松崎昇三郎	東京
● 小宮休一郎	鹿兒島		日本火災保險株式會社(名古屋支店)	長井銳男	愛媛
中島鐵造宮城			松方船舶部	久保正助	東京
飯田一馬	兵庫		● 三井物產合名會社(臺北支店)	吉岡歌三	東京
● 後藤貫一大	分		● 三井物產合名會社(臺北支店)	江口太郎	福岡
高野精次	東京		日本石油株式會社(東京支店)	竹田常治	新潟
小田磯太郎	福岡		● 古林喜代太	高知	
白峰數馬	東京		● 初見改	江口親雄	山形
能松太郎	東京		● 初見改	谷村正友	鹿兒島
堺口米太郎	東京		● 初見改	加地吉彦	和歌山
好本敏夫	岡山		● 初見改	江口藤三郎	茨城
督大	阪		● 初見改	島根縣立商業學校	
株式會社臺灣銀行(廈門出張所)			● 初見改	南滿州鐵道株式會社	
島根縣立商業學校			● 初見改	大阪合同紡績株式會社	
南滿州鐵道株式會社			● 初見改	日本銀行(門司支店)	
● 市立靜岡商業學校			● 初見改	日本鐵管製造所	
● 好本敏夫			● 初見改	日本火災保險株式會社(名古屋支店)	
● 督大	阪		● 初見改	日本石油株式會社(東京支店)	

京都市立商業學校	小 菅 貞 東京	× 藤田 藤吉 廣島
日本郵船株式會社(東京支 店)	大 橋 駒 吉 東京	加 藤 環宮城
株式會社臺灣銀行	× 井 田 侍 郎 神奈川	石田商會
株式會社北濱銀行	龜 井 勝 太 郎 北海道	高島屋(シドニー出張所)
三井物產合名會社(神戶支 店)	向 坂 均 一 靜岡	× 大澤 錄三郎 東京
日本郵船株式會社(基隆出 張所)	× 國 田 亮 一 岡山	× 榊 精 三 東京
茨城縣立商業學校	關 口 彥 造 富山	日本郵船株式會社(漢口支 店)
日本郵船株式會社(長崎支 店)	森 卦 六 長崎	永 峯 承受 福島
× 八十島 豊 作 福井	中 村 源 治 新潟	× 中 越 正 彰 石川
伊藤 麟 一 郎 千葉	山 崎 衡 助 埼玉	天 野 正 靜岡
日本銀行	坂 本 勉 神奈川	植 竹 龍 三 郎 横木
市富山商業學校	立 川 梁 東京	× 東洋汽船株式會社(香港支 店)
森村組(紐育支店)	× 小 野 彥 治 宮城	手 塚 秀 雄 東京
宮島明治郎 佐賀	宮 島 明 治 郎 佐賀	大 塚 俊 彥 香川

仁川海關	小 路 傳 三 郎 福岡	横濱正金銀行(龍動支店)
大垣大垣商業學校	九 里 誠 一 東京	大 塚 俊 彥 香川
町立大垣商業學校	大 山 登 兵 庫	× 池 邊 龍 一 長崎
古河鐵業會社	土 屋 長 吉 長 野	× 小 野 幸 三 郎 岐 手
三重紡績株式會社	稻 村 修 三 東京	田 村 秀 實 高 知
鹿兒島鹿兒島商業學校	安 田 十 郎 三 重	× 阿 部 萬 平 德 島
北方商會(長崎支店)	新 英 城	武 田 英 一 北海道
追 試 驗	× 潑 田 傳 吉 福 島	大 針 知 三 福 井
同三十五年卒業(七十一人)	× 坂 西 由 藏 兵 庫	松 永 祐 三 佐 賀
× 坂 西 由 藏 兵 庫	渡 邊 有 利 多 大 分	渡 邊 有 利 多 大 分
本科卒業生及其就職ノ場所	高 田 四 郎 東京	高 田 四 郎 東京
海外遊學	高 田 四 郎 東京	高 田 四 郎 東京
三井物產合名會社(桑港支 店)	× 阿 部 萬 平 德 島	× 阿 部 萬 平 德 島
× 阿 部 萬 平 德 島	永 島 雄 治 京 都	永 島 雄 治 京 都
× 阿 部 萬 平 德 島	渡 邊 有 利 多 大 分	渡 邊 有 利 多 大 分

● 松本浩一郎 大阪	三井物產合名會社（倫敦支 店）	立洋汽船株式會社（桑港支 店）	市下關商業學校	小川改 飯沼剛一千葉
住友商店（若松支店）	内外綿株式會社	津町立沼津商業學校	市岡政雄福岡	
五百井商店	横濱生絲合名會社（紐育支 店）	靜岡縣沼津町立沼津商業學校	永松四郎東京	
高田商會（神戶支店）	廣島尾道商業學校	高田商會（神戶支店）	北條恭五郎三重	
廣島尾道商業學校	三井物產合名會社	湯淺亮大阪	水谷新太郎東京	
橫濱正金銀行（上海支店）	河野長彥鹿兒島	佐久間精一福島	竹田嘉助山梨	
大阪商船株式會社（門司支 店）	近藤良吉群馬	前田清廣島	石井信德島	
大阪市立高等商業學校	中川太一滋賀	田上春二廣島	× 石井信德島	
× 小澤泰一東京	近藤良吉群馬	佐久間精一福島	× 大平賢作新潟	
古河鐵業會社（西 部）	× 小澤泰一東京	河野長彥鹿兒島	草間伊太郎東京	
住友銀行	× 小澤泰一東京	佐久間精一福島	湯淺九市岡山	
三井物產合名會社（盤谷支 店）	三井洋行（上海支店）	飯塚重五郎靜岡	杉本由夫兵庫	
坂部楨三郎大阪	三井物產合名會社（神戶支 店）	坂部楨三郎大阪		
● 竹田嘉助山梨	帝國鐵道廳	× 大平賢作新潟		
水谷新太郎東京	住友銀行	草間伊太郎東京		
北條恭五郎三重	× 石井信德島	湯淺九市岡山		
帝國鐵道廳	× 大平賢作新潟	杉本由夫兵庫		

市立高知商業學校	森本重樹高知	三井物產合名會社	千葉清東京
三井物產合名會社（倫敦支 店）	西村重次郎東京	立洋橋商業學校	
合名會社三井銀行（京都支 店）	小林貞次郎山形	三星社	柘植武千代大阪
三井物產合名會社（神戶支 店）	鈴木弘東京	自家營業	品川卯一東京
三井洋行（上海支店）	尾木潔男山口	山尾精一山口	山尾精一山口
横濱生絲合名會社（紐育支 店）	荒井勳三新潟	× 中川精吉東京	永井英夫東京
三井物產合名會社（紐育支 店）	大貫忠一福井	赤谷由助千葉	加藤操東京
三重四日市商業學校	坂本宗藏巖手	● 栗田輝政靜岡	● 栗田輝政靜岡
横濱正金銀行（大阪支店）	竹内實敏鹿兒島	西山本	西山本
日本郵船株式會社（倫敦支 店）	蛯子聰北海道	寬福井	寬福井
三井物產合名會社（桑港支 店）	多田羅直一香川	大倉商業學校	大倉商業學校
日本郵船株式會社（倫敦支 店）	中村稅諦開	追試驗	追試驗
三井物產合名會社（桑港支 店）	多田羅直一香川	× 關根善作埼玉	× 關根善作埼玉

同三十六年卒業(百二十二人)

海軍省 黒田馨介埼玉

日本總領事館 沼野安太郎 東京

株式會社第一銀行(大阪支) × 森川一甫福井

横濱正金銀行 字治田精一 和歌山

店 日本郵船株式會社(神戸支) × 須賀幸太郎群馬

東京海上保險株式會社 松浦通雄 東京

市川省之助 東京

合資會社左右田銀行 佐藤兵太郎 北海道

上田四郎 東京

日本郵船株式會社(神戸支) ● 松村大助德島

伊丹重太郎 大阪

大阪商船株式會社(鐵道管理局) 統監府(鐵道管理局)

原 梅威雄茨城

三井洋行 東京海上保險株式會社(神戸支) × 青木嘉三郎山口

中村晋二郎 静岡

東京海上保險株式會社(神戸支) 佐伯四郎 次熊本

福田潤一郎 埼玉

大阪郵船株式會社(神戸支) 大内

● 竹下健福井

犬塚勝之丞 東京海上保險株式會社(神戸支) × 間丈助岐阜

谷田文夫 三重

江原辰之助 東京海上保險株式會社(神戸支) × 高木舜三東京

和田兼吉 東京

小菅金造 東京海上保險株式會社(神戸支) × 小川續治岡山

首藤正壽 大分

高田久京都海上保險株式會社(神戸支) × 山本新太郎青森

山本信太郎 京都

尾崎洵盛 東京海上保險株式會社(神戸支) × 竹口秀 東京

斎藤福之助 東京

渡邊貫一 東京海上保險株式會社(神戸支) × 高木舜三東京

和田兼吉 東京

本間隆信 北海道海上保險株式會社(神戸支) × 山本嘉平次宮崎

首藤正壽 大分

日清汽船株式會社(上海支) 小松金重郎長野海上保險株式會社(神戸支) × 渡邊榮太郎福井

和田兼吉 東京

日清汽船株式會社(上海支) 清水安治新潟海上保險株式會社(神戸支) × 渡邊水太郎東京

高木舜三 東京

日清汽船株式會社(上海支) 平澤改川上賢三東京海上保險株式會社(神戸支) × 渡邊榮太郎福井

高羽秀吉 大阪海上保險株式會社(神戸支) × 渡邊榮太郎福井

萩原鏨三德島海上保險株式會社(神戸支) × 渡邊榮太郎福井

永井定治 東京海上保險株式會社(神戸支) × 渡邊榮太郎福井

合資會社川崎銀行(東京支) 合資會社川崎銀行(東京支) × 渡邊榮太郎福井

株式會社第一銀行(安東縣) 株式會社第一銀行(安東縣) × 渡邊榮太郎福井

支店 支店

自家營業

谷田文夫 三重

横濱正金銀行(上海支店)

和田兼吉 東京

日本總領事館

佐藤兵太郎 北海道

横濱正金銀行(上海支店)

沼野安太郎 東京

本科卒業生及其就職ノ場所

私立豐橋商業學校	立 松 益 治 愛 知
大阪商船株式會社(仁川支 店)	伊 藤 董 福 島
● 橋 口 一 造 兵 庫	
北海道立函館商業學校	
大日本麥酒株式會社	
市立福岡商業學校	
三井物產合名會社(倫敦支 店)	
米國フロリダ州果樹園	
三井物產合名會社	
(横濱支店)	
和 田 益 得 東 京	
石 原 直 道 東 京	
中 村 佐 兵 衛 群 馬	
東京瓦斯株式會社	
森 川 改 山 內 篤 三 重	
× 佐 分 錫 吉 岐 阜	
× 布 能 平 次 郎 山 梨	
新潟縣立新潟商業學校	
× 富 澤 清 明 新 潟	
濱 口 勇 五 和 歌 山	
野 村 環 二 郎 青 森	
川 添 真 蔚 鹿 兒 島	
三井物產合名會社(香港支 店)	
海軍省	

内外絲株式會社(天津支店)	增 田 豊 助 兵 庫
合名會社大倉組(橫濱支店)	上 野 龜 太 郎 北 海 道
三井物產合名會社	濱 田 盛 三 福 岡
韓國忠南公州農工銀行	小 坂 耕 三 岐 卯
張所日本郵船株式會社(天津出 店)	山西圓次郎香川
自家營業	兒 島 喜 代 藏 烏 取
石 原 正 次 郎 富 山	
井 上 末 之 助 京 都	
株式會社三十四銀行	
佐 々 木 政 明 大 阪	
△ 鹽 田 重 三 秋 田	
三井物產合名會社(紐育支 店)	
大阪商船株式會社(門司支 店)	
加 頭 良 介 岐 阜	
三井洋行(上海支店)	
縣立滋賀商業學校	
立 甲 府 商 業 學 校	
三井物產合名會社(橫濱出 張所)	
市 名 古 屋 商 業 學 校	
大 久 保 康 雄 滋 賀	
山 室 辰 之 助 岐 手	
中 村 義 四 郎 千 葉	
井 上 熊 三 郎 京 都	
× 加 藤 精 一 埼 玉	
勝 藤 組	
株式會社第一銀行	
日本郵船株式會社(香港支 店)	
小野田セメント株式會社	
保 科 鐵 次 郎 新 潟	
廣 瀨 康 平 福 岡	
× 武 藤 長 藏 愛 知	
野 村 揚 東 京	
大月改三枝二郎山梨	
高 橋 熊 次 郎 福 岛	
廣 谷 末 藏 青 森	

（紐育スタンダード油會社 (横濱支店)	和 田 益 得 東 京
三井物產合名會社(大阪支 店)	石 原 直 道 東 京
東京瓦斯株式會社	中 村 佐 兵 衛 群 馬
森 川 改 山 內 篤 三 重	× 佐 分 錫 吉 岐 阜
安 達 三 郎 新 潟	× 布 能 平 次 郎 山 梨
新潟縣立新潟商業學校	濱 口 勇 五 和 歌 山
三井物產合名會社(香港支 店)	× 小 山 英 之 助 神 奈 川
海軍省	× 富 澤 清 明 新 潟
三井物產合名會社(香港支 店)	濱 口 勇 五 和 歌 山
本學卒業生及其就職ノ場所	野 村 環 二 郎 青 森
	川 添 真 蔚 鹿 兒 島

株式會社北海道拓殖銀行	高木捨次郎	東京	國分良吉	埼玉
株式會社名古屋銀行	明渡益一	和歌山	竹下次男	東京
池田清孝	北海道	小尾悅太郎	山梨	大野卯太郎
梅田種彥	大分	梅田種彥	大分	井上幹造
菅川商會	池田清孝	岐阜	福原彌吉	山口
追試驗	關屋爲三郎	同三十七年卒業(百三十九人)	福島喜三次	佐賀
製鐵所	柴田信福	同三十七年卒業(百三十九人)	星野唯三	群馬
住友銀行(神戶支店)	網盛竹三郎	同三十七年卒業(百三十九人)	百田健次郎	佐賀
海軍省	金子孫三郎	同三十七年卒業(百三十九人)	堀文平	岡山
●太田利一	木村豊三郎	同三十七年卒業(百三十九人)	河野恒三	東京
橋本信一	藤巻太一	同三十七年卒業(百三十九人)	日本銀行	東京
大阪商船株式會社(香港支店)	中村第三	同三十七年卒業(百三十九人)	荻生傳	東京
株式會社第一銀行(仁川支店)	佐藤尙武	同三十七年卒業(百三十九人)	中村來治	靜岡
横濱正金銀行(香港支店)	木村豊三郎	同三十七年卒業(百三十九人)	岡本米藏	兵庫
横濱正金銀行(橫濱船積取扱所)	堀尾末吉	同三十七年卒業(百三十九人)	藤牧直樹	長野
聖彼得堡日本大使館	堤祐三	同三十七年卒業(百三十九人)	向井忠晴	東京
三井物產合名會社(神戶支店)	坪谷忠三	同三十七年卒業(百三十九人)	高木文次郎	愛知
三井物產合名會社(孟買支店)	山崎一保	同三十七年卒業(百三十九人)	金井喜一郎	靜岡
新寶八郎兵衛	矢崎恒藏	同三十七年卒業(百三十九人)	橋本榮治	福島
中村榮一郎	中村榮一郎	同三十七年卒業(百三十九人)	齋藤浩介	大阪
愛媛	新寶八郎兵衛	同三十七年卒業(百三十九人)	渡邊襄二	東京
大阪商船株式會社	×横山貴一	同三十七年卒業(百三十九人)	川橋吉治郎	京都
本科卒業生及其就職ノ場所	張所)日本綿花株式會社(孟買出張所)	同三十七年卒業(百三十九人)	高島屋(里昂出張)	同三十七年卒業(百三十九人)
	海外遊學	同三十七年卒業(百三十九人)	株式會社臺灣銀行(神戶支店)	同三十七年卒業(百三十九人)
	●太田利一	同三十七年卒業(百三十九人)	三井物產合名會社(カルカッタ支店)	同三十七年卒業(百三十九人)
	橋本信一	同三十七年卒業(百三十九人)	三井物產合名會社(龍動支店)	同三十七年卒業(百三十九人)
	藤巻太一	同三十七年卒業(百三十九人)	三井物產合名會社(香港支店)	同三十七年卒業(百三十九人)
	中村第三	同三十七年卒業(百三十九人)	高島屋(里昂出張)	同三十七年卒業(百三十九人)
	佐藤尙武	同三十七年卒業(百三十九人)	株式會社臺灣銀行(神戶支店)	同三十七年卒業(百三十九人)
	木村豊三郎	同三十七年卒業(百三十九人)	日本綿花株式會社(孟買出張所)	同三十七年卒業(百三十九人)
	堀尾末吉	同三十七年卒業(百三十九人)	高島屋(里昂出張)	同三十七年卒業(百三十九人)
	坪谷忠三	同三十七年卒業(百三十九人)	株式會社臺灣銀行(神戶支店)	同三十七年卒業(百三十九人)
	山崎一保	同三十七年卒業(百三十九人)	日本綿花株式會社(孟買出張所)	同三十七年卒業(百三十九人)
	矢崎恒藏	同三十七年卒業(百三十九人)	高島屋(里昂出張)	同三十七年卒業(百三十九人)
	中村榮一郎	同三十七年卒業(百三十九人)	株式會社臺灣銀行(神戶支店)	同三十七年卒業(百三十九人)
	愛媛	同三十七年卒業(百三十九人)	日本綿花株式會社(孟買出張所)	同三十七年卒業(百三十九人)

大阪商船株式會社(香港支店)	橋本信一	一大阪
株式會社第一銀行(仁川支店)	藤巻太一	新潟
横濱正金銀行(香港支店)	木村豊三郎	香川
横濱正金銀行(橫濱船積取扱所)	中村第三	靜岡
聖彼得堡日本大使館	佐藤尙武	青森
三井物產合名會社(神戶支店)	木村豊三郎	香川
三井物產合名會社(孟買支店)	堀尾末吉	大阪
三井物產合名會社(神戶支店)	坪谷忠三	新潟
三井物產合名會社(孟買支店)	山崎一保	東京
新寶八郎兵衛	矢崎恒藏	山梨
中村榮一郎	新寶八郎兵衛	京都
愛媛	中村榮一郎	愛媛

三井物産合名會社 支店(新嘉坡)	梁瀨長太郎	群馬	寺澤貞吉	東京
三井物産合名會社(新嘉坡)	杉浦恭介	東京	永井薦治	大分
内外綿株式會社	× 倉田庫太	神奈川	島金之助	東京
ショイエル會社(紐育)	宮田兵三	京都	阿部嘉八	熊本
日本銀行	日本銀行(大阪支店)	東京	× 陸井幸平	愛知
富士瓦斯紡績株式會社	小坂順造	長野	梅澤房次郎	東京
日本銀行(大阪支店)	中島亮作	千葉	× 鹽田敏三	岡山
富士瓦斯紡績株式會社	垂井保平	佐賀	橋本才吉	東京
株式會社東海銀行	渡邊三津治	岡山	大越貞之助	茨城
川崎銀行	五條道久	京都	× 齋藤善三郎	愛知
大阪商船株式會社(安平支 店)	太田久元	東京	前田幸太郎	京都
山内市太郎	小方謙二	福岡	横山正躬	高知
石山靜輔	川合光寛	鹿兒島	● 星義徳	新潟
東京	藤田巧	兵庫	萩原徳次郎	東京
東京	多湖實敬	東京	高岩勘次郎	福岡
東京	柿沼政太郎	東京	日本製茶株式會社(市俄古 支店)	矢島郡平群馬
東京	× 津田俊太郎	東京	× 津田秀雄	京都
香川	橋本重太郎	香川	安藤敬	三兵庫
東京	淵上仁三郎	東京	● 丁野治喜	高知
島根	豐田秀一郎	德島	美空洋行(上海)	
東京	増田力之助	島根	高岩勘次郎	福岡
北海道立國語商業學校	△ 山下武平	宮崎	日本製茶株式會社(市俄古 支店)	矢島郡平群馬
立國語商業學校	△ 山下武平	宮崎	× 津田秀雄	京都
立國語商業學校	大倉洋紙店		安藤敬	三兵庫
三井物產合名會社	自家營業		● 丁野治喜	高知
三井物產合名會社			萩原徳次郎	東京
三井物產合名會社			高岩勘次郎	福岡
東京			日本製茶株式會社(市俄古 支店)	矢島郡平群馬
			× 津田秀雄	京都
			安藤敬	三兵庫
			● 丁野治喜	高知
			萩原徳次郎	東京
			高岩勘次郎	福岡
			日本製茶株式會社(市俄古 支店)	矢島郡平群馬
			× 津田秀雄	京都
			安藤敬	三兵庫
			● 丁野治喜	高知
			萩原徳次郎	東京
			高岩勘次郎	福岡
			日本製茶株式會社(市俄古 支店)	矢島郡平群馬
			× 津田秀雄	京都
			安藤敬	三兵庫
			● 丁野治喜	高知
			萩原徳次郎	東京
			高岩勘次郎	福岡
			日本製茶株式會社(市俄古 支店)	矢島郡平群馬
			× 津田秀雄	京都
			安藤敬	三兵庫
			● 丁野治喜	高知
			萩原徳次郎	東京
			高岩勘次郎	福岡
			日本製茶株式會社(市俄古 支店)	矢島郡平群馬
			× 津田秀雄	京都
			安藤敬	三兵庫
			● 丁野治喜	高知
			萩原徳次郎	東京
			高岩勘次郎	福岡
			日本製茶株式會社(市俄古 支店)	矢島郡平群馬
			× 津田秀雄	京都
			安藤敬	三兵庫
			● 丁野治喜	高知
			萩原徳次郎	東京
			高岩勘次郎	福岡
			日本製茶株式會社(市俄古 支店)	矢島郡平群馬
			× 津田秀雄	京都
			安藤敬	三兵庫
			● 丁野治喜	高知
			萩原徳次郎	東京
			高岩勘次郎	福岡
			日本製茶株式會社(市俄古 支店)	矢島郡平群馬
			× 津田秀雄	京都
			安藤敬	三兵庫
			● 丁野治喜	高知
			萩原徳次郎	東京
			高岩勘次郎	福岡
			日本製茶株式會社(市俄古 支店)	矢島郡平群馬
			× 津田秀雄	京都
			安藤敬	三兵庫
			● 丁野治喜	高知
			萩原徳次郎	東京
			高岩勘次郎	福岡
			日本製茶株式會社(市俄古 支店)	矢島郡平群馬
			× 津田秀雄	京都
			安藤敬	三兵庫
			● 丁野治喜	高知
			萩原徳次郎	東京
			高岩勘次郎	福岡
			日本製茶株式會社(市俄古 支店)	矢島郡平群馬
			× 津田秀雄	京都
			安藤敬	三兵庫
			● 丁野治喜	高知
			萩原徳次郎	東京
			高岩勘次郎	福岡
			日本製茶株式會社(市俄古 支店)	矢島郡平群馬
			× 津田秀雄	京都
			安藤敬	三兵庫
			● 丁野治喜	高知
			萩原徳次郎	東京
			高岩勘次郎	福岡
			日本製茶株式會社(市俄古 支店)	矢島郡平群馬
			× 津田秀雄	京都
			安藤敬	三兵庫
			● 丁野治喜	高知
			萩原徳次郎	東京
			高岩勘次郎	福岡
			日本製茶株式會社(市俄古 支店)	矢島郡平群馬
			× 津田秀雄	京都
			安藤敬	三兵庫
			● 丁野治喜	高知
			萩原徳次郎	東京
			高岩勘次郎	福岡
			日本製茶株式會社(市俄古 支店)	矢島郡平群馬
			× 津田秀雄	京都
			安藤敬	三兵庫
			● 丁野治喜	高知
			萩原徳次郎	東京
			高岩勘次郎	福岡
			日本製茶株式會社(市俄古 支店)	矢島郡平群馬
			× 津田秀雄	京都
			安藤敬	三兵庫
			● 丁野治喜	高知
			萩原徳次郎	東京
			高岩勘次郎	福岡
			日本製茶株式會社(市俄古 支店)	矢島郡平群馬
			× 津田秀雄	京都
			安藤敬	三兵庫
			● 丁野治喜	高知
			萩原徳次郎	東京
			高岩勘次郎	福岡
			日本製茶株式會社(市俄古 支店)	矢島郡平群馬
			× 津田秀雄	京都
			安藤敬	三兵庫
			● 丁野治喜	高知
			萩原徳次郎	東京
			高岩勘次郎	福岡
			日本製茶株式會社(市俄古 支店)	矢島郡平群馬
			× 津田秀雄	京都
			安藤敬	三兵庫
			● 丁野治喜	高知
			萩原徳次郎	東京
			高岩勘次郎	福岡
			日本製茶株式會社(市俄古 支店)	矢島郡平群馬
			× 津田秀雄	京都
			安藤敬	三兵庫
			● 丁野治喜	高知
			萩原徳次郎	東京
			高岩勘次郎	福岡
			日本製茶株式會社(市俄古 支店)	矢島郡平群馬
			× 津田秀雄	京都
			安藤敬	三兵庫
			● 丁野治喜	高知
			萩原徳次郎	東京
			高岩勘次郎	福岡
			日本製茶株式會社(市俄古 支店)	矢島郡平群馬
			× 津田秀雄	京都
			安藤敬	三兵庫
			● 丁野治喜	高知
			萩原徳次郎	東京
			高岩勘次郎	福岡
			日本製茶株式會社(市俄古 支店)	矢島郡平群馬
			× 津田秀雄	京都
			安藤敬	三兵庫
			● 丁野治喜	高知
			萩原徳次郎	東京
			高岩勘次郎	福岡
			日本製茶株式會社(市俄古 支店)	矢島郡平群馬
			× 津田秀雄	京都
			安藤敬	三兵庫
			● 丁野治喜	高知
			萩原徳次郎	東京
			高岩勘次郎	福岡
			日本製茶株式會社(市俄古 支店)	矢島郡平群馬
			× 津田秀雄	京都
			安藤敬	三兵庫
			● 丁野治喜	高知
			萩原徳次郎	東京
			高岩勘次郎	福岡
			日本製茶株式會社(市俄古 支店)	矢島郡平群馬
			× 津田秀雄	京都
			安藤敬	三兵庫
			● 丁野治喜	高知
			萩原徳次郎	東京
			高岩勘次郎	福岡
			日本製茶株式會社(市俄古 支店)	矢島郡平群馬
			× 津田秀雄	京都
			安藤敬	三兵庫
			● 丁野治喜	高知
			萩原徳次郎	東京
			高岩勘次郎	福岡
			日本製茶株式會社(市俄古 支店)	矢島郡平群馬
			× 津田秀雄	京都
			安藤敬	三兵庫
			● 丁野治喜	高知
			萩原徳次郎	東京
			高岩勘次郎	福岡
			日本製茶株式會社(市俄古 支店)	矢島郡平群馬
			× 津田秀雄	京都
			安藤敬	三兵庫
			● 丁野治喜	高知
			萩原徳次郎	東京
			高岩勘次郎	福岡
			日本製茶株式會社(市俄古 支店)	矢島郡平群馬
			× 津田秀雄	京都
			安藤敬	三兵庫
			● 丁野治喜	高知
			萩原徳次郎	東京
			高岩勘次郎	福岡
			日本製茶株式會社(市俄古 支店)	矢島郡平群馬
			× 津田秀雄	京都
			安藤敬	三兵庫
			● 丁野治喜	高知
			萩原徳次郎	東京
			高岩勘次郎	福岡
			日本製茶株式會社(市俄古 支店)	矢島郡平群馬
			× 津田秀雄	京都
			安藤敬	三兵庫
			● 丁野治喜	高知
			萩原徳次郎	東京
			高岩勘次郎	福岡
			日本製茶株式會社(市俄古 支店)	矢島郡平群馬
			× 津田秀雄	京都
			安藤敬	三兵庫
			● 丁野治喜	高知
			萩原徳次郎	東京
			高岩勘次郎	福岡
			日本製茶株式會社(市俄古 支店)	矢島郡平群馬
			× 津田秀雄	京都
			安藤敬	三兵庫
			● 丁野治喜	高知
			萩原徳次郎	東京
			高岩勘次郎	福岡
			日本製茶株式會社(市俄古 支店)	矢島郡平群馬
			× 津田秀雄	京都
			安藤敬	三兵庫
			● 丁野治喜	高知
			萩原徳次郎	東京
			高岩勘次郎	福岡
			日本製茶株式會社(市俄古 支店)	矢島郡平群馬
			× 津田秀雄	京都
			安藤敬	三兵庫
			● 丁野治喜	高知
			萩原徳次郎	東京
			高岩勘次郎	福岡
			日本製茶株式會社(市俄古 支店)	矢島郡平群馬
			× 津田秀雄	京都
			安藤敬	三兵庫
			● 丁野治喜	高知
			萩原徳次郎	東京
			高岩勘次郎	福岡
			日本製茶株式會社(市俄古 支店)	矢島郡平群馬
			× 津田秀雄	京都
			安藤敬	三兵庫
			● 丁野治喜	高知
			萩原徳次郎	東京
			高岩勘次郎	福岡
			日本製茶株式會社(市俄古 支店)	矢島郡平群馬
			× 津田秀雄	京都
			安藤敬	三兵庫
			● 丁野治喜	高知
			萩原徳次郎	東京
			高岩勘次郎	福岡
			日本製茶株式會社(市俄古 支店)	矢島郡平群馬
			× 津田秀雄	京都
			安藤敬	三兵庫
			● 丁野治喜	高知
			萩原徳次郎	東京
			高岩勘次郎	福岡
			日本製茶株式會社(市俄古 支店)	矢島郡平群馬
			× 津田秀雄	京都
			安藤敬	三兵庫
			● 丁野治喜	高知
			萩原徳次郎	東京
			高岩勘次郎	福岡
			日本製茶株式會社(市俄古 支店)	矢島郡平群馬
			× 津田秀雄	京都
			安藤敬	三兵庫
			● 丁野治喜	高知
			萩原徳次郎	東京
			高岩勘次郎	福岡
			日本製茶株式會社(市俄古 支店)	矢島郡平群馬
			× 津田秀雄	京都
			安藤敬	三兵庫
			● 丁野治喜	高知
			萩原徳次郎	東京
			高岩勘次郎	福岡
			日本製茶株式會社(市俄古 支店)	矢島郡平群馬
			× 津田秀雄	京都
			安藤敬	三兵庫
			● 丁野治喜	高知
			萩原徳次郎	東京
			高岩勘次郎	福岡
			日本製茶株式會社(市俄古 支店)	矢島郡平群馬
			× 津田秀雄</td	

三井銀行	松元勢藏	鹿兒島	×山本純吉	東京
三井洋行(上海)	伊地知虎彥	鹿兒島	古河鐵業會社(若松出張所)	秋山兼太郎
三井物產合名會社	坂齋匡崎	玉	日本郵船株式會社(東京支店)	櫟木幹雄山口
(神戶支店)	木村秀太郎	京都	森村組(紐育支店)	高倉董太郎
三井物產合名會社(香港支店)	紅松雄二	千葉	三井物產合名會社(門司支店)	大分
(小樽支店)	田口包次郎	東京	三井物產合名會社(紐育支店)	水野和雄愛知
北海道炭礦汽船株式會社	田中敬造	大阪	田中虎之輔	東京
(安東縣支店)	岡部忠朗	山梨	澤田稻衛	高知
三井物產合名會社	●辻錄郎	木	島田儀市	熊本
西谷英壽	福島	三井洋行(上海)		
西田亮	青森	●半田重太郎		
遠藤茂雄	宮崎	東京		
田代仲次郎	鹿兒島	土屋政三		
津田政虎	茨城	三由藤二		
鹿兒島商業學校	重明舍	平田竹三郎		
鹿兒島		北海道鐵事務所		
市立鹿兒島商業學校		三井物產合名會社(門司支店)		
		三井鐵山合名會社(三池炭礦事務所)		
		北海道炭礦株式會社		
		日本銀行(廣島出張所)		
		三井物產合名會社(孟買支店)		
		牛尾信一		
		黑川健二		
		一島根		
		澤田稻衛		
		島田儀市		
		熊本		
		高知		
		東京		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		
		秋山兼太郎		
		東京		
		高倉董太郎		
		大分		
		水野和雄		

海外遊學	鹿 村 美 久 愛 媚
三井物産合名會社(紐育支店)	田 島 繁 二 群 馬
古河公司(天津)	菅 禮 之 助 秋 田
三井物産合名會社(香港支店)	× 矢 田 部 保 吉 山 口
三菱合資會社(銀行部)	服 部 源 市 郎 三 重
三井物產合名會社(紐育支店)	奥 山 清 輝 廣 島
横濱正金銀行(芝罘出張所)	近 藤 昇 次 郎 愛 知
横濱正金銀行(上海支店)	世 古 小 治 郎 奈 良
三井物產合名會社(孟賣支店)	内 藤 章 山 梨
株式會社第一銀行	大 洞 紋 次 郎 歆 阜
日本郵船株式會社(神戶支店)	植 村 康 藏 滋 賀

岩井商店(日本橋支店)	田 藤 高 輔 栄 木
紐育スタンダード石油會社	三 好 義 朝 香 川
横濱正金銀行(天津支店)	山 崎 英 夫 福 島
白 石 入 作 福 島	× 松 本 伊 三 郎 富 山
吉 川 清 七 大 阪	小 川 彌 太 郎 東 京
玉 井 義 助 香 川	伊 藤 作 左 衛 門 三 重
日本銀行	河 上 哲 太 愛 媚
海外遊學	倉 田 初 四 郎 東 京
國民新聞社	忠 鹿兒 島
横濱正金銀行(牛莊出張所)	前 田 忠 鹿兒 島
大阪商船株式會社	安 藤 卵 八 京 都
三井物產合名會社(臺北支店)	足 立 正 鳥 取

三井物產合名會社(神戶支店)	谷 梅 之 助 高 知
● 鈴木美知太郎 東 京	岸 本 廣 吉 東 京
芝罘稅關	安 藤 博 兵 庫
自家營業	齋 藤 萬 吉 三 重
蘇州海關	福 本 順 三 郎 兵 庫
横濱正金銀行(紐育出張所)	佐 藤 重 治 福 島
三井物產合名會社(大阪支店)	石 上 林 二 郎 兵 庫
住友銀行	山 上 喜 之 松 石 川
三井物產合名會社(孟賣支店)	中 島 清 一 郎 新 潟
日本郵船株式會社	米 里 紋 吉 德 島
日本郵船株式會社	田 上 爲 次 郎 和 歌 山
三井物產合名會社(大阪支店)	上海稅關
興業會社(韓國)	宮 本 光 三 東 京
帝國海上運送火災保險株式會社	長 澄 武 司 埼 玉
大阪商船株式會社	樺 山 嘉 太 郎 香 川
嚴 田 康 次 岐 阜	× 柴 田 榮 三 兵 庫
淺 沼 德 之 助 嶺 手	直 木 改
宮 本 光 三 東 京	× 田 崎 義 介 新 潟
長 澄 武 司 埼 玉	阿 部 舜 次 岡 山
古 賀 貞 一 福 島	近 藤 榮 次 郎 兵 庫

市立高知商業學校	橋本一郎	高知
靜岡市立静岡商業學校	向井源太郎	神奈川
日本郵船株式會社(倫敦支店)	田中富太郎	佐賀
日本郵船株式會社(釜山支店)	河野改長	大分
三井洋行(福州)	野音治	秋田
三井物產會社(門司支店)	桑田篠	東京
日本食鹽ヨーグス株式會社	本	大分
三井物產會社(門司支店)	夏目徳三郎	東京
株式會社第一銀行	菅井永助	新潟
高商會(吳出張所)	岡野雋吾	東京
日本銀行	茂木幸一	東京
國分秀次郎	小川誠	東京
	石川宇三郎	京都
	菅井永助	新潟
	岡野雋吾	東京
	茂木幸一	東京
	國分秀次郎	三重

三井物產會社(大阪支店)	谷山幾三郎	大阪
内外綿株式會社	秋庭義清	東京
大阪商船株式會社	前田源助	和歌山
三井物產會社(芝川商店)	△荻野音松	東京
三井物產會社(横濱倉庫)	井上	信
三井物產會社(天津支店)	山内定爾	東京
日本郵船株式會社(神戶支店)	北村和三郎	滋賀
合名會社大倉組(天津支店)	菅波	豐廣島
日本郵船株式會社(神戶支店)	青井清一郎	大阪
日本郵船株式會社(神戶支店)	笠松勝義	石川
森川卯之助	石橋元	東京
三五公司	北村和三郎	滋賀
	菅波	豐廣島
	青井清一郎	大阪
	笠松勝義	石川
	森川卯之助	東京
	四條七十郎	福島

兵役	西松友吉	岐阜
三井物產會社	百瀬信好	長野
川瀬改		
那須改	大島欽四郎	福島
根尾克己	清家與一郎	廣島
加藤正雄	和歌山	
市川榮次郎	朝野泰治	千葉
松本改		
立金澤商業學校	阿保幸次	三重
大阪商船株式會社(仁川支店)	古澤滋水	長野
自家營業	阿保幸次	三重
日本石油會社(鐵工所計理部)	西澤滋水	長野
内外絲株式會社	阿保幸次	三重
合名會社大倉組(大連出張所)	阿保幸次	三重
三井物產會社(門司支店)	橋本良資	東京
海軍省	野々山榮吉	埼玉
兵役	山崎市太郎	群馬

岩井商店(日本橋支店) 市場八百作 兵庫
 三井物産合名會社(口ノ津) 井上宇太郎 熊本
 支店 三井物産合名會社(孟買支店) 多賀道吉 東京
 高田商會 生野鼎佐 賀
 三井物產合名會社(安東縣) 山崎喜久太 大分
 三井物產合名會社(神戶支店) 熊田悌 東京
 日本銀行(名古屋支店) ×國松 豊愛媛
 大阪紡績會社 中山秀一 滋賀
 大阪商船株式會社(香港支店) 赤石右一群 馬
 日本郵船株式會社 桐山於菟二 山口
 茶谷保三郎 石川

ツタ支店(カルカ) 觀世元繼 靜岡
 高田商會 ●三浦義雄 東京
 △河辺萬次郎 東京 山口省吾 廣島
 岩井商店(神戶支店) 安藤純五 岐阜
 日本郵船株式會社(日本橋) 秋田二郎 岡山
 支店(岡山) 岩井商店(神戶支店) 黒瀬種吉 埼玉
 日本精糖硫酸肥料株式會社 伊藤利三郎 滋賀
 森島商店 笠原種次 東京
 三井物產合名會社(孟買支店) 陶郁三郎 愛媛
 氣駕清作 富山

日本郵船株式會社(横濱支店) 高木卓爾 東京
 大阪商船株式會社 勝部占一郎 島根
 大東汽船株式會社 中川賴基 香川
 ●小林第四郎 群馬
 ×住友常之助 大阪
 日本郵船株式會社 粟井謙祐 岡山
 大阪商船株式會社(神戶支店) 安藤胖鳥取
 三井物產合名會社 森英一宮
 横田袈裟六佐 賀
 寺田幹治 新潟
 中央倉庫株式會社
 ×志摩清一郎 東京

口羽壯介 山口
 火災保險協會 高井喜一郎 山形
 帝國製麻會社 安藤胖鳥取
 日本郵船株式會社(大阪支店) 木下昇平 鳥取
 三五公司 加藤季彥 東京
 ×原田裕三 東京
 大阪商船株式會社(名古屋代理店) 黒木嘉幸 熊本
 伏見萬次郎 東京
 △川田長兵衛 埼玉
 森竜太郎 石川
 大橋清三郎 栃木
 市原清一千葉
 自家營業

本科卒業生及其就職ノ場所

三井物産合名會社(營口支店)	菱田逸次	岐阜
大阪合同紡績株式會社	小泉恂一	大阪
追試驗所	平鐵三郎	東京
富士紡績株式會社	石川規矩郎	東京
高田商會	△瀧谷善一大	大阪
同三十九年卒業(百九十八人)		
三井物産合名會社(神戶支店)	鵜飼辰次郎	愛知
横濱正金銀行(桑港支店)	橋爪源吾	東京
日本郵船株式會社(龍動支店)	瀨尾政太郎	北海道
古河鐵業會社	鈴木元	東京
岩井商店(神戶支店)	松井周三	三重

内村三樹	東京	米井商店	津秋貞男	山口
日本郵船株式會社(橫濱支店)	時田清吉	新潟	三井物產合名會社(神戶支店)	内田信也
株式會社第一銀行(京城支店)	森秀意	高知	大阪商船株式會社	染矢寛德
市長崎商業學校	今井藤治郎	新潟	三井物產合名會社(龍動支店)	神奈川
(出張所)三井物產合名會社(橫須賀)	福原十三	山口	×北田正寅	東京
自家營業	村田伊之助	兵庫	中村隆祐	山口
	岩下家一	鹿兒島	原田原	柄木
	徳田孝	東京	松本半藏	和助改
三井物產合名會社(大阪支店)	内野榮太郎	埼玉	玉置千和	里東京
玉置萊次郎	大坂	大阪	玉置龜次郎	和歌山
米井商店	吉村錄	東京	三栖新右衛門	大阪
	久永健吉	新潟	曾禰寬治	山口
			鳥井清右衛門	兵庫
自家營業	日韓瓦斯株式會社	三五公司	松山信次郎	東京
	株式會社臺灣銀行(神戶支店)			

日本郵船株式會社 大河 内時夫 愛知

岡 福造 大阪 松葉谷 良太郎 秋田

三井物產合名會社(横濱) 牧山 又雄山口

古河鐵業所(門司) 東亞公司(天津支店)

佐伯攝一兵庫 野原幸太郎 埼玉

△廣岡米治郎 三重 赤松範之丞 東京

三井物產合名會社

百瀨信弘 東京

井畠一 東京 原孝次 神奈川

三井洋行(上海)

荻島四三二 東京

金田榮太郎 京都

橫濱正金銀行(龍勃支店)

藤井直一 山口

高島屋 東京

高田商會(吳出張所)

井手真機雄 岡山

三井物產合名會社(大阪支店) 島專 吉石川

堀越商會(紐育支店)

高岡直次郎 兵庫

自家營業 東京

三井物產合名會社(孟賣支店)

竹中榮次郎 和歌山

三井物產合名會社(口ノ津支店) 渡邊四郎 岐阜

住友銀行

田中彌太郎 京都

田中眞作 大分

伊藤元一三重

三井物產合名會社(和田岬) 一宮銀生 東京

伊藤惣次郎 愛知

森脇武一 島根

●羽深清務 新潟

溝口暢太郎 東京

溝口暢太郎 東京

△中村茂男 島根

岩村龍一 東京

△杉浦畊作 東京

大島英吉 北海道

●洲崎房七 福岡

河田重太郎 秋田

三上貞雅 京都

岡田元茂 東京

横井半三郎 愛知

川角悌愛 知

●森守豊治 愛媛

茂野吉之助 東京

三井物產合名會社(大連出張所)

長三男三重

古河鐵業會社(日光電氣精銅所)

長島義治 長野

三井物產合名會社

山内榮之助 秋田

高島屋(東京出張所)

池田鐵次郎 大阪

株式會社三十四銀行(神戶支店)

篠原嘉四郎 德島

三井物產合名會社(孟賣支店)

△男全萬造 東京

三井物產合名會社(孟賣支店)

波多野義男 山口

南滿州鐵道株式會社	岩崎 昌福	岡 関
海軍省	加藤 赫	二 東京
高田商會	中島 富治	鳥 取
高田商會	△ 山口 起夫	鹿兒島
新 精	一 東京	
野 口	茂 東京	
毛見 信治	神奈川	
牧瀬 豊彦	東京	
高妻 俊秀	宮城	
坂場 時尹	茨城	
菅谷 益之助	京都	
△ 櫻内篤彌	福島	
角田 作次郎	群馬	
渡邊 謙吉	山口	
帝國貿易合資會社	△ 櫻木 良馬	高知
日本郵船株式會社(門司支店)	三井洋行(上海)	
大阪商船株式會社(大阪支店)	山崎 秀直	東京
高橋 昇之助	和歌山	
加藤 恵之助	島根	
寺澤 鍵二	愛知	
△ 櫻木 良馬	高知	
松井 清治	東京	
服部 正	東京	
佐藤 孝一郎	岡山	

大阪商船株式會社(香港支店)	木下 昌吉	東京
高田商會	半澤 茂雄	千葉
兼松商店	岩城 德治郎	京都
日本郵船株式會社	織田 陽三	兵庫
東京海上保險株式會社	坂井 義夫	北海道
三井物產合名株式會社(札幌出張所)	宮崎 忠次郎	熊本
日本郵船株式會社(神戶支店)	中村 三樹太郎	三重
△ 長沼 龜三	岩手	
△ 辻川 德之助	山口	
△ 三浦 鐵四郎	新潟	
● 平野 武次	熊本	
遠藤 壽三	鳥取	
小平 傳七	長野	
日本郵船株式會社(橫濱支店)	海軍省	
合名會社三井銀行(名古屋支店)	高田商會	
日本郵船株式會社	關 芳	三美城
高山 三郎	東京	

合資會社左右田銀行(横濱)	合 田 晋愛媛	海軍省	村岡 春馬 高知
三井物產合名會社	河 村 規矩司 東京	古河鐵業會社	佐竹房夫 東京
高島屋(横濱支店)	佐 和 主計 島根		△ 野口三郎 德島
日本郵船株式會社	木 下 愛國 烏取	日本郵船株式會社	△ 小林峯治 岡山
大阪商船株式會社	△ 濱田 甫山 口	高田商會(神戶出張所)	和田勝郎 兵庫
日本郵船株式會社(龍動支店)	△ 杉浦真作 靜岡	日本郵船株式會社	進藤良英 青森
株式會社名古屋銀行	坂本 茂福島	萬歲生命保險株式會社(福島出張所)	鈴木陸奧男 青森
佐藤治郎吉 山形	△ 前田仁太郎 新潟	海軍省	△ 松井茂樹 新潟
馬場 岬 大分	宇野甚太郎 東京	加藤彌兵衛 東京	角安治 北海道
溝江虎一長崎	壽原英太郎 富山	井田道秀 東京	鈴木陸奥男 青森
楠井貫一京都	生島暢福島	△ 加瀬明治 千葉	△ 清浦保恒 熊本
海軍省	近藤米太郎 和歌山	佐藤貫一佐賀	
海軍省	河野鶴松 兵庫		
株式會社第一銀行	相澤武彦 東京		
住友別子礦業所	△ 森田熊太郎 東京		
日本郵船株式會社(神戶出張所)	室谷藤太郎 兵庫		
天一銀行(京城)	谷井光之助 和歌山		
(横濱火災運送保險株式會社(東京支店)	田内幸治 高知		
喜田長次郎 大阪	塚崎義一大分		

横濱正金銀行(遂陽出張所)	佐藤信	東京	古田友直 富山
△ 岡定起	福島		生島暢福島
角田壽雄	岡山		近藤米太郎 和歌山
鎌倉弦一	東京		河野鶴松 兵庫
宮田康平	群馬		相澤武彦 東京
堀英太郎	岡山		△ 森田熊太郎 東京
山本正雄	長崎		室谷藤太郎 兵庫
井上篤次郎	福岡		谷井光之助 和歌山
沼野清之	京都		田内幸治 高知
大岡直治	東京		塚崎義一大分
神永載吉	茨城		川田信衛 高知
岡庭繁兵庫			
喜田長次郎	大阪		

三井合資會社(長崎支店)	熊野次郎	福井
△横山彥太郎	高知	
△相澤誠二	東京	
△織田松太郎	愛媛	
△河邊亮吉	靜岡	
△立谷一郎	福島	
△永田愛三	愛知	
△關高次郎	群馬	
△伊藤多兵衛	東京	
△阪秀夫	福島	
△北村敏	東京	
△大池千尋	長野	
△三ツ矢勝次郎	宮城	
三井物產合名會社		
横濱正金銀行		
三井物產合名會社(神戸支店)		
△高田孝造	京都	
△川谷恒規	高知	
△大石善四郎	福島	
△高木二郎	神奈川	
△太田孝造	京都	
△美川六右衛門	神奈川	
△高田馨	愛知	
△寺尾直一	群馬	
△永井秀松	新潟	
△清水吉松	三重	
△田中駒治	長野	
△森半之助	京都	
田村羊三	東京	
△安田弘	福岡	
△天野彦太郎	廣島	
△目崎得養	埼玉	
△矢吹務重	福島	
△平田忠雄	長崎	
△林八郎	和歌山	
△山田清太郎	東京	
△古賀文八	佐賀	
△富永清吉	東京	
△和氣市郎	愛媛	
△富森謙吉	兵庫	
△戸茂吉	岡山	
△中川英吉	岡山	
△松下勝吉	北海道	
田村羊三	東京	
△大石善四郎	福島	
△高木二郎	神奈川	
△太田孝造	京都	
△美川六右衛門	神奈川	
△高田馨	愛知	
△寺尾直一	群馬	
△永井秀松	新潟	
△清水吉松	三重	
△田中駒治	長野	
△森半之助	京都	
田村羊三	東京	
△安田弘	福岡	
△天野彦太郎	廣島	
△目崎得養	埼玉	
△矢吹務重	福島	
△平田忠雄	長崎	
△林八郎	和歌山	
△山田清太郎	東京	
△古賀文八	佐賀	
△富永清吉	東京	
△和氣市郎	愛媛	
△富森謙吉	兵庫	
△戸茂吉	岡山	
△中川英吉	岡山	
△松下勝吉	北海道	

住友本店

本科卒業生及其就職ノ場所

宮崎敬藏

東京

白井辰右衛門

神奈川

日本郵船株式會社(大阪支店)

河原武夫

青森

神田源七郎

埼玉

飯田松太郎

東京

福中重吾

兵庫

西川勝太郎

東京

窪田彌一

山梨

中原信徳

長野

石橋金三郎

青森

白井辰右衛門

神奈川

三井物產合名會社

海軍省

△宇佐美力

大分

△河野義郎

大阪

△相葉馨

東京

△田中重太郎

福岡

△西川勝太郎

東京

△窪田彌一

山梨

△福中重吾

兵庫

△河原武夫

青森

△神田源七郎

埼玉

△大原信徳

長野

△石橋金三郎

青森

△大原信徳

長野

△神田源七郎

埼玉

△福中重吾

兵庫

△河原武夫

青森

△中原信徳

長野

△石橋金三郎

青森

△大原信徳

長野

△神田源七郎

埼玉

△福中重吾

兵庫

△河原武夫

青森

△中原信徳

長野

△石橋金三郎

青森

△大原信徳

長野

△神田源七郎

埼玉

△福中重吾

兵庫

△河原武夫

青森

△中原信徳

長野

△石橋金三郎

青森

△大原信徳

長野

△神田源七郎

埼玉

△福中重吾

兵庫

△河原武夫

青森

△中原信徳

長野

△石橋金三郎

青森

△大原信徳

長野

△神田源七郎

埼玉

△福中重吾

兵庫

△河原武夫

青森

△中原信徳

長野

△石橋金三郎

青森

△大原信徳

長野

△神田源七郎

埼玉

△福中重吾

兵庫

△河原武夫

青森

△中原信徳

長野

△石橋金三郎

青森

△大原信徳

長野

△神田源七郎

埼玉

△福中重吾

兵庫

△河原武夫

青森

△中原信徳

長野

△石橋金三郎

青森

△大原信徳

長野

△神田源七郎

埼玉

△福中重吾

兵庫

△河原武夫

青森

△中原信徳

長野

△石橋金三郎

青森

△大原信徳

長野

△神田源七郎

埼玉

△福中重吾

兵庫

△河原武夫

青森

△中原信徳

長野

△石橋金三郎

青森

△大原信徳

長野

△神田源七郎

埼玉

△福中重吾

兵庫

△河原武夫

青森

△中原信徳

長野

△石橋金三郎

青森

△大原信徳

長野

△神田源七郎

埼玉

△福中重吾

兵庫

△河原武夫

青森

△中原信徳

長野

△石橋金三郎

青森

△大原信徳

長野

△神田源七郎

埼玉

△福中重吾

兵庫

△河原武夫

青森

△中原信徳

長野

△石橋金三郎

青森

△大原信徳

長野

△神田源七郎

埼玉

△福中重吾

兵庫

△河原武夫

青森

△中原信徳

長野

△石橋金三郎

青森

△大原信徳

長野

△神田源七郎

埼玉

△福中重吾

兵庫

△河原武夫

青森

△中原信徳

長野

△石橋金三郎

青森

△大原信徳

長野

△神田源七郎

埼玉

△福中重吾

兵庫

△河原武夫

青森

△中原信徳

長野

△石橋金三郎

青森

△大原信徳

長野

△神田源七郎

埼玉

△福中重吾

兵庫

△河原武夫

青森

△中原信徳

長野

△石橋金三郎

青森

△大原信徳

長野

△神田源七郎

埼玉

△福中重吾

兵庫

△河原武夫

青森

△中原信徳

長野

△石橋金三郎

青森

△大原信徳

長野

△神田源七郎

埼玉

△福中重吾

兵庫

△河原武夫

青森

△中原信徳

長野

△石橋金三郎

青森

△大原信徳

長野

△神田源七郎

埼玉

△福中重吾

兵庫

△河原武夫

青森

△中原信徳

長野

△石橋金三郎

青森

△大原信徳

帝國海上保險株式會社	內藤政康	東京	堀孝治	千葉
韓國政府	石原庫之助	群馬	△篠原泰助	德島
合名會社三井銀行(名古屋店)	松田長治	兵庫	野上道一	山口
宮崎一郎	東京	△生出德治	宇井孝三	千葉
安立浩福井	高橋利喬	福島	太田長三	東京
金谷民藏和歌山	吉松茨城		宮城	
△乾	追試驗			
王宰善	清國人	本科卒業生合計千七百八十一人		
農工商部	漢口商務局			
河南銀行	權量			
陸世芬	清國人			
明治三十六年修業	同三十八年畢業			
王環芳	清國人			

撰科畢業生、修業生及其就職ノ場所

明治三十六年修業

農工商部
河南銀行
王陸世芬
宰善清國人

撰科畢業生修業生并其就職ノ場所

漢口商務局 張鴻藻 清國人

南洋商業學堂 陳福頤 清國人

同三十九年畢業

舊附屬主計學校卒業生及其就職ノ場所

明治十九年卒業(十六人)

株式會社第六十八銀行	永井幸次郎	石川	日本銀行	井上 寛柄木
自家營業	清水靜太郎	岐阜	東京株式取引所	田中彦兵衛 東京
米國	合田貞吉	愛媛	通信省	中野音熊山口
● 内藤滿一	長野	大辻連太郎	杉原由藏	堀田芳雄 東京
● 猪狩勉	三重	三東京	帝國鐵道廳	德一郎 東京
● 山本鉢十郎	東京	東京	株式會社山形米穀生糸株式	田中金彦 鹿兒島
● 和田鉢之助	東京	東京	取引所	小林小市 兵庫

同二十年卒業(二十人)

三井讃山合名會社(岩雄登出張所)	石川豊太郎	靜岡	天賞堂	柏木江澤忠 東京
自家營業	仲又七郎	東京	日本銀行(小樽出張所)	畠農實 茨城
西陣織糸再整株式會社	秋山行藏	東京	帝國鐵道廳	小林盛枝 廣島
● 小林茂兵衛	廣島	田中哲夫	株式會社第一銀行	高橋直行 新潟
秋田宗四郎	群馬	岡山	日本銀行	杉崎林直 神奈川
信濃銀行	二月改	神奈川	廣瀬市三郎	廣瀬市三郎 東京
帝國鐵道廳(九州管理局)	田中峰尾幸之助	東京	日本郵船株式會社(東京支店)	木村準太 福岡
自家營業	● 小野久左衛門	東京	池上改	木賀真熊 本
東京機械製造株式會社	石川信剛	茨城	加藤齊吉	横田清兵衛 東京
日本銀行	● 粟野金次郎	栃木	三重	大谷登喜雄 埼玉
● 目角勘太郎	鳥取	東京	島谷孝信 東京	牧野豹三郎 群馬
● 堀内	實靜岡	東京	武藤松太郎 東京	島谷孝信 東京
東京機械製造株式會社	田中清方	東京	日本海軍省	日本海軍省
日本銀行	● 牧野豹三郎	群馬	武藤松太郎 東京	武藤松太郎 東京

同二十一年卒業(十九人)

横濱正金銀行(神戸支店)	宮川恭太郎	東京	岡	新吾	東京
三井鑛山合名會社	中川彌六	大分	藤田四郎	山口	
株式會社信濃商業銀行	林芳生	長野	伊達宗康	宮崎	
株式會社臺灣銀行(大阪支店)	梶川条之丞	愛知	高津伊之助	東京	
帝國鐵道廳	山成喬六	岡山	坂田朝彦	宮崎	
日本領事館	藤村喜三郎	山口	渡邊篤	山口	
株式會社浦賀銀行	北郷重郎	岡山	金子繁次郎	山口	
帝國鐵道廳(金澤運輸事務所)	屋代忠恕	東京	田邊太郎	東京	
● 吉川榮太郎	三好亦次郎	鳥取	進修太郎	岡山	
荒川辰之助	吉川榮太郎	新潟	児井英松	石川	
● 赤見鍵太郎	河村貞次郎	三重	荻島由太郎	埼玉	
● 原田松太郎	平田新太郎	東京	宮崎近之助	山口	
三井鑛山名名會社	緒方清一郎	熊本	● 増井萬次郎	長野	
三井物產合名會社(口ノ津支店)	平田新太郎	東京	河新太郎	福井	
金門銀行(香港)	溝口改伊藤亮吉	長野	森廉次郎	東京	
株式會社第十九銀行	前川榮吉	兵庫	● 廣田耕吉	石川	
横濱正金銀行	山本改藤亮吉	長野	井上元太郎	大分	
帝國鐵道廳	大橋整新	鴻	森廉次郎	東京	

横濱正金銀行(旅順口出張所)	住友銀行	岡	新吾	東京
帝國鐵道廳	自家營業	藤田四郎	山口	
山口郵便電信局	帝國鐵道廳	伊達宗康	宮崎	
村井事務所	豐岡炭礦會社	高津伊之助	東京	
帝國鐵道廳	帝國鐵道廳	坂田朝彦	宮崎	
進修太郎	金子繁次郎	渡邊篤	山口	
児井英松	田邊太郎	高津伊之助	東京	
荻島由太郎	進修太郎	坂田朝彦	宮崎	
宮崎近之助	児井英松	伊達宗康	宮崎	
● 增井萬次郎	荻島由太郎	高津伊之助	東京	
河新太郎	宮崎近之助	坂田朝彦	宮崎	
森廉次郎	● 增井萬次郎	伊達宗康	宮崎	
● 廣田耕吉	河新太郎	高津伊之助	東京	
井上元太郎	森廉次郎	坂田朝彦	宮崎	
森廉次郎	● 廣田耕吉	伊達宗康	宮崎	

芳谷炭礦株式會社
君塚淺次郎 千葉

株式會社第一銀行(釜山支店)
朝枝佐織山 口

帝國鐵道廳
星野改 橫山直槌 福岡

三井鑛山名名會社
上野午之助 芙城

河村貞次郎 三重

株式會社第十九銀行
三井物產合名會社(口ノ津支店)

横濱正金銀行
東京海上保險株式會社

横濱正金銀行
帝國鐵道廳

舊附屬主計學校卒業生及其就職ノ場所
大橋整新

同二十五年卒業(四十二人)

三井合資會社(和田船渠工場)

三井鑛山合名會社
日本郵船株式會社(香港支店)

三井合資會社(神戶支店)
小西改 曾根增吉

大和田銀行(大阪支店)

自家營業
横濱商況新報社

大阪府廳

石森商店(神戶)

山口銀行(北支店)

二百一

横濱五品取引所

關 島 善 吉 神奈川

通信者

長 田 友 次 郎 岐 阜

毛 利 馬 之 助 佐 賀

柴 田 鈴 太 東 京

東京帝國大學

島 覚 司 新 潟

帝國鐵道廳

照 松 改 雄 愛 媛

佐 野 久 雄 芙 城

山 本 照 雄 愛 媛

湯瀬禮太郎 秋 田

勝 田 耕 造 東 京

關西貿易合資會社

村 林 專 之 助 島 根

三重四日市商業學校

田 下 文 治 新 潟

明治屋

大 泉 辰 四 廣 手

自家營業

福 岡 雄 四 郎 東 京

住友銀行(廣島支店)

大 沼 保 吉 山 形

帝國煉瓦株式會社

白 勢 鐵 次 郎 新 潟

大日本麥酒株式會社

藤 本 友 藏 廣 島

同二十六年卒業(三十人)

志村作太郎 石川
木村勝藏 鳥取
久米彌太郎 埼玉
瀬下清長野三菱合資會社(銀行部)
日本銀行
滌澤事務所● 尾形久之助 德島
近藤安藏 千葉
上野改
橋本明六 東京
酒井直經山形市名古屋商業學校
三重合資會社(神戶支店)自家營業
日本火災保險株式會社片田江駒三郎 長野
楨田由次郎 山梨株式會社明治銀行
住友銀行佐々布覺太郎 東京
日本銀行木村得三 東京
菅井起四郎 福島

三井物產合名會社

海軍省
原合名會社
(紐育スタンダード石油會社
(大阪支店))齊藤宗三郎 群馬
伊東幸吉郎 佐賀
中村久太郎 長野奉天
日本領事館(遼陽出張所)
住友銀行河内亮三 東京
廣瀬實光 高知

自家營業

岩出由次郎 東京
内藤友衛 新潟城戸崎萬壽彦 福岡
大橋重義岐阜

自家營業

秋田縣木材株式會社
府川久宗 神奈川

大京東北 海道 京都 大阪		道廳府縣 類別		本		自家營業		保坂德太郎 東京		野澤組		自家營業		森本金一郎 愛知		久保熊彥 東京		糸永宗吉 大分	
三六	*二一八三	專攻部	明創立 三十九年迄來	本	科	本	年	卒業	校	計	主	計	學校	舊	附	屬	合	計	
四七	三六七	行部	三七七	二九															
	二一八一																		
三六	四〇二																		
五五	四五四			三四四															
二一	六六二																		
五七	五〇五			三六															

卒業生府縣別表

(明治四十年十月十日調)

同二十七年卒業(三十人)	橋本安市佐賀	高橋鍊逸東京	川井源八福島	栗原又次郎東京	長谷川鏡次岐阜	高尾半一郎長崎	井上竹藏兵庫	宮津起一東京	橋本安改	市佐賀	逸東京	福島	東京	東京	東京	東京	東京	東京
自家營業	東京倉庫株式會社(神戸支店)	東京倉庫株式會社(神戸支店)	東京倉庫株式會社	大阪商船株式會社	自家營業	長崎米穀取引所	株式會社日本商業銀行	自家營業	橋本安改	市佐賀	逸東京	福島	東京	東京	東京	東京	東京	東京
自家營業	日本銀行(名古屋支店)	勝野秀磨東京	立名古屋商業學校	三井鑄山合名會社(神岡炭礦事務所)	帝國鐵道廳	溝口直吉東京	富田恭平愛媛	鈴木幹三郎三重	日本銀行(名古屋支店)	勝野秀磨東京	逸東京	福島	東京	東京	東京	東京	東京	東京
外務省	東京倉庫株式會社(阪支店)	阪支店	立名古屋商業學校	三井鑄山合名會社(神岡炭礦事務所)	帝國鐵道廳	溝口直吉東京	富田恭平愛媛	鈴木幹三郎三重	日本銀行(名古屋支店)	勝野秀磨東京	逸東京	福島	東京	東京	東京	東京	東京	東京
●大出安雄長野	伊藤律太郎岐阜	伊藤律太郎岐阜	伊藤律太郎岐阜	伊藤律太郎岐阜	伊藤律太郎岐阜	伊藤律太郎岐阜	伊藤律太郎岐阜	伊藤律太郎岐阜	●大出安雄長野	伊藤律太郎岐阜								

島鳥富石福秋山青巖福宮長岐滋

根取山川井田形森手島城野阜賀

一一一一二一四一四三四三二

六八二二〇八三二四二三四三三三

一一一一一一|一|一|一|一|一|一|

一一一五四|二一一七五七二四

八九三六五三〇四九四三三三七九

一五|五三一三|三二二〇二三

二九四三三八二三四三一三六二四五三四八三三

山靜愛三奈柄茨千群埼新長兵神

奈

梨岡知重良木域葉馬玉瀬崎庫川

二四七一一三三一二二三五三七

二六三五六四九二三三三七〇七〇六二五

一一一|一|一|一|一|一|一|一|

一五八三|一|二七五二九二七八

二五五〇四五三三三九二六二三四七二四〇

二五七六|五八八四五八四七六

二六〇五六四七五二八四一四七四三四七〇七八三八四六

銀 會		類 別	總 計	米 沖 國	
行	他			人 繩	
<u>備考 本表中 *印ハ舊研究科卒業生ナリ</u>					
二 九 三 六	一 四 一 〇	專攻部	*一 四 一 一	一	一
一 七 四	一 七 七	本 科	一、 五 八 二	一	一
三 〇 三	三 〇 八	計 校	二 三 一 九 九	一	一
二 〇 三	一 九 〇	主計學 校屬	一、 九 四 五	一	一
四 三	三 三	合 計	二 四 〇	一	一
二 四 六	三 三 三		二、 一 八 五	一	一

岡	廣	山	和	佐	熊	宮	鹿	愛	福	大	香	德	高	其	保	回	鐵	貿	社	會	銀
兒																					
島	崎	本	分	岡	知	媛	川	島	山	口	島	山									
一	二	二	一	二	五	二	三	三	四	一	一	四									
三	八	五	三	六	三	五	三	二	八	一	四	二	八	三	七	二	九	三	三	二	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
五	一	二	三	四	八	三	八	一	三	三	五	二	二								
三	六	九	一	八	五	三	二	六	四	三	二	二	三	六	四	三	三	八	三	三	一
三	二	二	二	三	四	六	二	六	一	一	七	四	五								
三	九	二	二	二	〇	二	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

本科卒業生年齡三箇比較表

本科卒業生年齡三箇年比較表

備考

本表中※印ハ舊研究科卒業生ナリ

本表中 * 印ハ舊研究科卒業生ナリ
本科卒業生中舊研究科又ハ専攻部ヲ卒業シタル者ノ就職先等ハ専攻部欄ニ計上セルヲ以テ本科計數中之ヲ除ク

	總計	死在部隊	未亡	專游	營業	家業	自海兵
*	一六三	三	一	二四	一	二	六
一、六一七	九九	一二六	二七〇	二	六	六〇	
一、七八一	一一二	一〇二	二九四	二	八	六六	
二四〇	三六	一	三四	一	一	三三	
二〇一	二三八	一一六	三二八	二	八	八九	

中商其他專門學校
中商其他專業學校
帝國大學
公共體育學校
官廳稅關吏他
外務官吏
海軍主計官
鐵道官
其陳列所
業會議所
品陳列所
商業會議所
取引所

* 二
一五八 | | 三一三一八七 | |

一〇六 一五 一四四 一三九 一七一 一五三 一五五 一二一

一 | 四二一九三 | 五四九 | | 四

一八 三六 二 六 五 一 二 三 七 三三 一 五〇 二五 一 二 三 七 三三 一 五

年	別 人 員	二百十二		
		最 高	最 低	平 均
明治三十九年	二〇八	二九、〇四月	一九、〇六月	二三、〇七月
明治四十一年	一九八	二八、一〇	二〇、〇二	二三、〇五
一九九	二八、〇八	二〇、〇九	二三、〇四	二三、〇五

商品陳列所

商品陳列所ハ本校第七號館ヲ以テ之ニ充ツ蓋シ該所ハ本校學生ヲシテ常ニ商品ノ實物ニ接シ研究スルヲ得シムル用ニ供スルヲ以テ主眼トス而シテ其標本タル專ラ現時ノ貿易賣買上重要ナル商品ニ就キ廣ク内外各國ヨリ蒐集シテ之ヲ陳列ス然レトモ年ヲ經ルニ從ヒテ自ラ新舊ノ別ヲ生ス故ニ其室ヲ分チテ一ヲ最近輸出入品ノ室トシ一ヲ參考品ノ室トス又別ニ清國製品及東洋輸出品ノ二室ヲ開ケリ而シテ重ナル輸出入品ハ年々最近ノモノヲ購求シテ引換フルモノトス蓋シ其目的タルヤ其品質ノ良否產地ノ異同採集及製造ノ順序價額等ヲ容易ニ鑑定識別セシメシコトヲ期スルモノトス本校教授中ヨリ委員ヲ置キテ其管理整頓ノ事務ヲ擔任セシメ漸次擴張整備シ他日ハ實業者ノ縱覽ヲモ許スヘキ目的ナリ

商品陳列所標本

第一部 工藝品

- 第一類 織物類 原
製
品
- 第二類 漆器類
- 第三類 陶磁器類
- 第四類 金屬製品類
- 第五類 七寶器類
- 第六類 玻瓈器類
- 第七類 麥稈真田類
- 第八類 紙及紙製品類
- 第九類 地蓆類
- 第十類 燐寸
- 第十一類 草及革製品類
- 第十二類 竹製品及木製品

第十三類 油蠟燭及ゴム製品類
第十四類 染料及藥品類

第十五類 雜貨類

第二部 農產品及水產品

第一類 穀物類

第二類 茶及珈琲類

第三類 砂糖

第四類 藍煙草

第五類 林產物

第六類 水產物類

第三部 鑄業品及鑄業製品

第一類 鑄業品

第二類 及物類

土地及建物

本校敷地ハ神田區一ツ橋通町一番地ニ在リ又舊分敷場敷地ハ同區錦町三丁目十四番地ニ舊體操場敷地ハ其隣地十三番地ニ在リテ共ニ本校ト道路ヲ隔テ、相對ス又火除地ハ本校ノ背後ナル城濠ニ沿ヒテ在リ本多河岸ト稱ス又本校艇庫敷地ハ淺草區南元町三十八番地ニ艇庫建設豫定地ハ本所區向島須崎町二百番地及二百余番地ニ在リ今其地積及建物ノ坪數ヲ擧クレハ左ノ如シ

本 校 敷 地	七、〇九八 九七三 <small>坪</small>
同 火 除 地	七〇五 二三〇
舊 體 操 場	一、〇七九 四二〇
舊 分 教 場 敷 地	三〇八 二三〇
艇 庫 敷 地	一、三三八〇二四
艇 庫 建 設 豫 定 地	二一九〇三〇
合 計	一〇、七四八九〇七

教	建
內	內
學	商
生	品
譯	務
倉	圖
食	講
譯	書
內	陳
內	列
學	堂
生	館
譯	堂
物	場
種	
木	煉
土	木
瓦	同
瓦	同
木	煉
土	煉
瓦	同
瓦	同
類	
造	造
藏	造
造	造
造	造
坪	
七五七	九五九
五一九五九	
二四六〇〇〇	
一八八四一六	
七九三三一	
一八二五〇四	
一六五八〇〇	
一〇六〇〇〇	
五九八〇〇〇	
一五八五〇〇	
八六四〇〇〇	
一八四〇〇〇	
六八〇〇〇〇	
數	

明治四十年七月卒業式に於ける演説祝詞等
松崎校長挨拶

閣下並に諸君、今日、本校の第十七回の卒業式に方り、御來臨を辱なく致しましたるは獨り本校のみならず、卒業生諸氏の最も光榮とする所であります。本校も既に十七回の卒業式を重ねまして、年々卒業生諸氏も殖え、又入學者も殖えて参ります。此時に際して學校の現狀並に將來の豫想をば大略御報道いたしまするのは、我輩の名譽と致しまする所であります。

昨年まで本校を卒業致しました者は二千四十七人に上はつて居ります、今日卒業

いたしまする諸氏を加へて二千二百九十三人と相成りまする、現在の學生は今日の卒業生を除きまして、目下九百八十七人となつて居りまする、之に加ふるに目下入學試験中でありまする合格者をば加へますれば、千人以上遙か上に達することになります。

即ち昨年九月十一日より今日に至る其間に於て本學年中でありまするが、教授其他教員に多少の異動もございましたが、中に就き教授に任せられましたる方が二名、其外講師に任せられた方もありまするし、又教授の新たに任命ありましたる結果解職されましたる講師もあります。

唯だ此際我輩が諸君に向つて報道いたしまするを最も満足に感じまするのは、昨年本邦に渡來致されまして、今猶ほ滯在され我帝國の教育、其他の爲めに頻りに同情を以て熱心に盡さるゝ米國のラッド博士を聘しまして、商業道德の爲めに特に講義を開きましたることでありまする、此講義は同博士の最も熱心になされましたことであるし、而して其講義なされました結果は、是を本校に於きまして夫々出版いたし、既に世の中に出すことになりました、就ては單り本校のみならず、本校に同

情を寄せられまする方々に取りましても、多少の裨益をば與へらるゝことゝ存じて居りまする。

卒業生諸君、諸君が唯今本校を去られまするに付いては、一言の餞をば致したい、既に卒業證書をば御請取になりました以上は、最早學校の學生ではありませぬ、それ故に我輩が諸君に對しまするのは、學生時代の諸君と違はざるを得ぬのであります、けれども未だ此堂に居られまする、まだ制服を御着けになつて居りますることですから、校長として一片の老婆心をば呈したいのであります、諸君は今や社會に——謂ゆる世の中に出来ますることになりました、而して俗の言葉を以て申せば、諸君は今日世の中に御生れになつたと言ふて宜しくあります、其世の中、其社會なるものは、如何なる社會であります、如何なる世の中でありますか、是等の問題たる別に説明するの要は無いことです、之を教育界に徴して見ましても、諸君をば歓迎いたしまする學校は中央地方にも澤山有りまする、是をば實業界に徴して見ますれば、尙更ら諸君をば待つて居りまする場所が多いのです、教育界に於て斯くあるし、實業界に於て斯くの如くあるとすれば、豈獨り教育界のみでもあり

ますまい、又た敢て單り實業界のみでもありますまいして見ると諸君の將來は誠に洋々として春の如くあると言はざるを得ぬのであります。是をば昔の人の言葉を以て言ひ表はしたならば、諸君は有爲の時に生れると申して宜しいのであります。今日、本校を去るに方つて此點に付きましては、大に諸君を祝さるを得ぬのである。既に諸君を祝するとしますれば、又諸君に向つて大に期待せざるを得ない所であります。是れ謂ゆる一片の老婆心である。既に諸君は有爲の時に生れたりとするも併し諸君が果して昔の人の言へりし如く、果して有爲の才を抱いて世の中には生れたか、どうか、是れ余輩の知らぬことであります。是は我輩が何とも言ひ兼ねまする所である。況して保證などは出來ないのであります。けれども、是をば既往に徵して見ますれば、有爲の才を抱いて御居でになるや否やは知るを得ませず、又保證致し難けれども、唯だ一事の知つて居りますること、又保證も出來ることがあります。しかも尋常一様に知つて居る、保證が出來ること、又保證も出來ること、又保證致しまして知つて居らなければならぬ、保證も致さなければならぬ、亦それと同時に吾々が諸君に向つて、吾々の權利として、諸君が吾々をして之を

知らしめ、之を保證せしめますることが有るのであります。此事たるや吾々に取つては權利でありますし、又義務である。其一事とは何であります。それは他ではありませぬ、謂ゆる彼の昔人の用ゐたる言葉「有爲の才」でなくして、有爲の技能であります。有爲の學問であります。是を諸君が御具へになつて、さうして世の中に御出になる云ふことは、私共は是をば義務として、責任として知つて居らなければならぬ、保證も致さなければならぬのですが、併しそれと同時に、又權利として諸君は必ず之を備へなければならぬと云ふことをば要求しなければならないで、實にさうあります。他人が決して之を奪ふことは出來ませぬものである。水火といへども是をば鑠かすることは出來ないものであるし、又流失させることも出來ないものであるのである。而して昔の人が言つたことがあります。才の難きにあらず之を用ゐる所以の術が誠に難いものである。其當否は兎も角、諸君の修得いたしましたる學問技能を以て、謂ゆる才なるものに比べますれば、之を用ゐますることは誠に容易である。何故なれば之を學びまする目的も、始めからして是をば用ゐま

するにあるのであるからである。學ぶは即ち之を用ゐる所以であります。それ故に若し諸君にして其學びましたことをば用ゐなさらぬとしたならば、之れ學ばざるに若かざるなりである。否、學ばざるに若かざるなりでは無い。學ばぬのと同じことであるのであります。それで昔羅馬の政治家のシセロが言つたことがあります。諸君は定めて御承知のことせう。道徳の藝術に異つて居るのは何の點が違うかと云ふ。藝術は之を實行いたしませぬで、唯だ之を修得いたして身に具へて居つてそれでも宜しいと云ふ。習ふて而して之を身に備へて居れば、それでも澤山であるけれども、道徳に至つては全く之に反するのである。總て之を行はなければならぬものであるとのべます。(Mais une vertu n'est pas comme un art qu'il suffit de posséder sans le mettre en pratique. Un art, même inutile, peut nous appartenir par la théorie, la vertu doit être toute d'action.)勿論諸君の御學びにならましたことは、藝術では無いので、又道徳のみでも無い。道と徳と藝と皆是を兼ねて居りまするものである。して見ますれば、其諸君に取りて、又世の中に取りまして關係する所の、重く且大なることは、言ふを待たずして明かであります。此大切な物を持つて世の中に御生れになりますか

ら、其大切なこと、云ふものは、實行いたさなければならないものである。そうしてシセロが尙序でに言つたことがあります。道徳をば最も光榮ある道に使ひまするのは、國家の政府である。政府の場合に於ては、あると、顧ふに昔の羅馬の共和國、或は帝國の如き場合に於ては、さうであります。公の點から見ても、私の點からしても、見ましても、謂ゆる光榮なるものは、政府國家に存したものでございませう。存したのみでありませうけれども、今や即ち如何です。公の事、政府國家の事、勿論大切である、或は最も大切でありませう。最も名譽の伴ふ所であります。尚之を外にして、幾多の名譽、又光榮なるものが存するのであります。而して諸君の學びました所をば、最も光榮ある方法を以て之を用ひますのは、主として諸君の從事されまする職業にあるのである。諸君の職業、諸君の事業が即ち最も光榮の存する所である。名譽の存する所であると信じます。勿論斯くあつて而して其學ぶ所をば御實行になりますれば、庶幾は吾々教職員等の常に諸君に對しまして望む所以に反かないことを得るであらうと思ひます。又國家が諸君を養うた所以に背かざるを得むかと信するのであります。是を以て諸君の世の中に御出になりまする御餞

別と致します(拍手)

牧野文部大臣祝詞

本日東京高等商業學校第十七回卒業證書授與式ヲ舉行スルニ際シ諸子ノ卒業ヲ祝シテ一言スル所アラントス

今ヤ我邦面目ヲ一新シ規模ヲ擴張シ戰後興國ノ經營上各種ノ事業茲ニ振作セラレ商業界ノ如キ學識技能ヲ有セル優良ノ人物ヲ要スルコト益々緊切ナルノ時ニ際シ諸子ノ卒業ヲ見ルハ獨リ諸子ノ光榮ノミナラス洵ニ國家ノ慶事ト云フ可キナリ

自今諸子ハ其修得セル學識技能ノ活用ヲ實地ニ試ムルノミナラス勇往邁進克ク進取ノ氣宇ヲ作振シ誠意力行常ニ信用ノ獲得ニ努メサル可ラス蓋シ商業界ニ於ケル信用ハ軍隊ノ軍規ニ於ケルカ如シ假令學識世ニ勝レ才器群ヲ抜クト雖モ信用ニシテ缺クルアランカ安ンソ克ク斯界ノ競爭場裡ニ優勝ヲ期スルヲ得ン諸子常ニ思フ茲ニ致シ以テ我カ戰後ノ商業界ニ貢獻センコトヲ望ム

專攻部卒業生總代服部源市郎謝辭

茲ニ本日ヲトシテ生等ノ爲ニ卒業證書授與式ヲ舉行セラレ大臣閣下並ニ朝野貴紳ノ賀臨ヲ辱ウス生等ノ光榮何モノカ之レニ如カン生等幸ニシテ今日ノ榮ヲ得タルハ一二ニ校長閣下並ニ教授諸賢ノ懇篤ナル薰陶誘掖ニ依ラスンハアラス眞ニ感謝ニ堪ヘサルナリ生等不肖ナリト雖國家ノ氣運世界ノ大勢ニ鑑ミ拮据勉勵以テ其ノ分ヲ盡サムコトヲ期ス謹ミテ謝辭ヲ呈ス

本科卒業生總代武内尙一謝辭

茲ニ本校第十七回卒業證書授與式ヲ舉行セラレ大臣閣下並ニ朝野貴紳ノ賀臨ヲ辱ウス生等ノ光榮何モノカ之レニ如カン生等幸ニシテ今日ノ榮ヲ得タルハ一二ニ校長閣下並ニ教授諸賢ノ懇篤ナル薰陶誘掖ニ依ラスンハアラス何ヲ以テカ此洪恩ニ報イン生等素ヨリ不敏ナリト雖奮勵努力以テ本日ノ榮譽ニ負カサランコトヲ期ス謹ミテ謝辭ヲ呈ス

商業教員養成所卒業生總代瀬谷佐次郎謝辭

本日文部大臣閣下及朝野諸顯ノ來臨ノ下ニ生等ノ爲ニ卒業證書授與ノ盛典ヲ舉ゲラル生等ノ光榮何モノカ之ニ加ヘム其今日アルハ校長閣下及教授各位ノ懇篤

ナル指導ニ依ル者生等、常米々々々奮勵シテ其ノ船ニ負カウキナ期ニテ
テ謹辭トス

講壇ハニシテ二十題

Your Excellencies, Mr. President and Gentlemen,—I am glad at such a length of time since I last saw you to have an opportunity of speaking to you upon those moral and spiritual elements which have so important a bearing upon your real success in the work you have chosen. My theme, as perhaps you know, is the Man of Honour in Business, and I think, especially at the present time, this brings before you a subject of great interest and importance. It is of interest and importance not only to you as individuals but to you as members of the body politic and as concerned in the reputation and successful development of the national life. For the time, unless I am completely mistaken, is one of great opportunity, and therefore also one of great responsibility, for the business man. It is a time of great opportunity for any young man who, with a good training, a laudable ambition, a fair amount of talents, enters upon the pursuit of any of the forms of trade or commerce, manufacture or agriculture, which lay the foundations of prosperity in the life of the nation.

In the last few months I have had an opportunity of seeing more than ever before of Japan, having traversed the principal islands from Nagasaki on the southwest to Sapporo on the northeast, and I have been everywhere impressed with the opportunity for development. Although I am not an expert in agriculture, I cannot agree with those who think that even in this main island of Japan

there are no further opportunities for the development of the agricultural resources of the island. I am sure that with improved means of cultivation, with the redemption of unoccupied areas of land, the proper management of crops, the agricultural resources, even those which have particularly distinguished and caused the wealth of this island, may be largely developed. I am far more sure this is true of the island of Kyushu, and of course no one will dispute the statement that in the northern island of Hokkaido large resources of agriculture, forestry, mining and manufacture are waiting for development. And in the other direction it is likely to turn out that your new possession, the island of Formosa, will in time become the richest part, the finest treasure, in the Empire of Japan. In Korea, where I spent somewhat more than two months making observations which perhaps had some peculiar point of vantage, I was much interested and impressed with the opportunities which lie before you there, without doing injury, but on the contrary, largely contributing to the advantage of the Korean people themselves. And I need not add to this your new opportunities in Manchuria, and as we all believe, in China, and, indeed, also over the face of the habitable globe. These are the opportunities that are before you young men entering on the various forms in the business life at this epoch-making time in the history of your beloved nation. But I assure you this opportunity to be taken advantage of with the greatest and truest success must be followed not simply as an opportunity but as a responsibility, and thus rest to a large extent, so far as the development of the material resources of the nation are concerned, on its good name and fair repute in the whole of the civilised world. Now, young men, you are trained in the business and technical schools of Japan for

this very form of life. You have advantages over your fathers and may apply this thought, that the opportunity for the man of honour in business puts upon you the responsibility to be men of honour in business. And this is perhaps a somewhat new thought, but a very interesting and important one. In the old time regime men of honour did not go into business. There were no doubt honourable men in agriculture, trade and commerce in those by gone days, but the man who had a code of honour and who felt himself bound to that code did not of his own free will enter into business life. And as you know there are some in your own country at the present time who think it doubtful whether a man adopting that code of honour, fully possessed of the spirit of bushido, could be successful in business. I assure you I do not believe that doubt is well placed. Let me then apply my thought very briefly in the direction of these three problems which make up the one great problem for every desiring mind looking forward to success in the future life. The three problems may be stated in the form of three questions. First, what do I need as preparation? Second, what is the end of my work? Third, what ideals should I cherish as determining my career in this form of life?

What is the preparation of the business life to fit men of honour in business at the present time? It is, instruction and experience, both of them guided by the moral code. You have had the instruction. You have had it at the hands of experienced teachers. They have therefore put into your possession the means, so far as instruction can convey those means, of being men of honour if you choose to be men of honour in the business life. To illustrate: You have been taught how to make contracts. You have been taught something of the sacredness of the contract. You have been taught these things

in order that you may be men of honour in the making and keeping of contracts. It would be absurd to suppose that this teaching has been directed with the view of making you better acquainted with the raw methods of drawing up contracts or escaping from the sacredness of the contract. You have been taught all this with the expectation that you will use the means of science in which you have been instructed as men of honour in the business life. You have been taught bookkeeping so that you may know how, as men of honour, to do that necessary work. It would be absurd, here again, to suppose that this instruction has been given to you with a view to teaching you how to falsify accounts. But now there is something of more importance in enabling us to answer the first of the three questions than can be gained by the instruction of the schools. The answer is—experience. You have just begun. You are entering here into the largest school of life.

Now my thought takes on the form of an exhortation to you young gentlemen. Be sure you govern your experience in the future by a strict devotion to the code of honour. You will have experience, and that no doubt abundantly, of men, rivals in business or your employes or employers, who have not been trained as you have been trained to think it necessary that success should be gained in accordance with the code of honour. Please do not forget, however, that the most useful experience in the long run will be that which comes to you when you see how the strict adherence to the code of honour in business life after all brings the highest and realst success.

Secondly, how shall I conduct my work? After I am prepared for it, how shall I carry it out? This is the question you will answer day by day, according to the form of occupation or the

surroundings which you find fitted to you and into which you have to fit yourself. I trust that it will be a daily task done with fidelity, done with patience, done with diligence, promptness, done with the best exertion of skill, and done with an unceasing and an unwavering devotion to your moral ideas. For, as I tried to say to you in same addresses which I had the honour of giving you about six months ago, all the most important virtues are called for and have their full application in the struggles and triumphs of modern business life. So that will be, I hope, the way in which you will answer these second and third important problems, namely, by doing your daily work according to the instructions you have received as to the best manner of doing it, but constantly guided by that code of honour which I hope you have adopted as your rule of life.

In the third problem, concerning your ideals. And here I am inclined to lay great importance upon a man's ideals. We look over the history of every human development we see, and find that after all it is the men of ideals who have succeeded and won the gratitude of succeeding generations, if not of their own. And you should have ideals before you, practical but high, such as may call out your noblest impulses or most strenuous aspiration. What then is the ideal of the man of honour in modern business life? In answer to this question, I think there has been a great mistake committed all over the civilised world. I am sure there has been a great mistake unconsciously if not deliberately made by most of my own countrymen who have been in the various forms of business life. This mistake is in assuming for the individual or the nation itself, the end of wealth, merely, as such, as an ideal of business life. Not only from the point of view of morality but from the point

of view of economics I deny the truth of that belief. Economically, in the best interest of the nation as well as of the individual you cannot make wealth the supreme and exclusive ideal, and in my judgment it is no more right from the moral point of view, no more sound from the economical point of view, that the business man should make it his ideal, than that the teacher, or the priest, or the lawyer, or the physician should make this his ideal. And here I ask you just for a moment to think what your opinion would be of those who have charge of education in Japan if, from his Excellency the Minister down to the most ill-paid teacher in the public schools, they were to show their ideals to be the possession of wealth. Would you not say, that if the sad time ever came when such views were held the nation which employed such teachers was doomed? And I ask you, is it not substantially true in the same way of the business man? I know no exclusive moral code. I don't believe the man of honour could be one thing in one pursuit and a totally different thing, from the moral point of view, in another pursuit. No matter what his form of life may be this code of honour is eternal, unchangeable. To the young man entering business life this ideal must be brought to bear on his daily work. If he is manufacturing goods he must make the best, if engaged in mining, civil engineering, mechanical engineering, he must do his best. This ought to be for every one of us our close-fitting ideal. And then, finally, there is that larger ideal, the ideal of the service you may render to society, the good you may do your country. We do not think much of the man in the army or navy who does not think much of his own country. Why should we think much of the man who would sacrifice the reputation of his country for the wealth it may

bring himself? Why should we not think that the ideal of the business man should be the ideal of the man of honour?

Whatever he does is to be of service to society and service to his country.

Now this concluding word. Japan in the late war with Russia triumphed gloriously. Why? Because somehow or other there had been brought about the happy combination of the means afforded by modern education for offence and defence with the retention of the ancient spirit of bushido, descended upon the nation from countless generations of ancestors. And as I count it in general it was one of the most remarkable phenomena of human life to see how that spirit which, as I indicated, formerly belonged to the class of the knight, of the man of honour, came down and possessed the entire nation—the privates in the army, the peasants in the field, the children in the schools, and men and women all over the land. If you had not had that combination you could not have triumphed as you did. The ancient spirit would not have given it to you without the education.

Now you know, gentlemen, you are going to enter into a peaceful struggle for the development of the national resources,—from the founding of families to the building up of every form of business. I beg of you to bring into your own persons and your own lives and for the sake of the nation that same combination. To my last words to you is this wish for you all and for your beloved land. By a happy union of modern education with the ancient spirit of bushido, descended through countless generations of ancestors, as you triumphed in war, may you by the unceasing development of education, by the enlargement and new application of the spirit of the man of honour, may you win a not less but even more important triumph of peace, in industry and art, in science and morals.

And gentlemen, may your nation and may you in your future life help her to take a well-merited, foremost place among the nations of the civilised world,—thus securing prosperity for her own citizens and consideration as a blessing to all mankind.